令和６年度神奈川県海岸漂着物組成調査業務委託

報　告　書

令和７年２月

日本エヌ・ユー・エス株式会社

目　　次

1.　　業務概要 ･･ 1
1.1 委託業務名 ･･ 1
1.2 目的 ･･ 1
1.3 委託期間 ･･ 1
1.4 委託業務の内容 ･･ 1
1.4.1　調査地点 ･･ 1
1.4.2　調査期日及び回数 ･･ 1
1.4.3　事前踏査等 ･･ 1
1.4.4　漂着ごみの回収・分析等 ･･ 4
1.4.5　漂着ごみの回収 ･･ 5
1.4.6　調査結果報告書の作成 ･･ 5
2.　　本調査の調査結果 ･･ 7
2.1 三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市） ･･････････････････････････････････ 7
2.1.1　組成調査 ･･ 7
2.1.2　発生源の推定 ･･ 24
2.2 引地川河口部右岸（藤沢市） ･･ 25
2.2.1　組成調査 ･･ 25
2.2.2　発生源の推定 ･･ 45
2.3 金目川河口部左岸（平塚市） ･･ 46
2.3.1　組成調査 ･･ 46
2.3.2　発生源の推定 ･･ 66
2.4 酒匂川河口部右岸（小田原市） ･･ 67
2.4.1　組成調査 ･･ 67
2.4.2　発生源の推定 ･･ 87

添付資料

添付資料１：事前踏査のとりまとめ結果
添付資料２：データシート①～②及び言語表記等調査
添付資料３：野帳の写し
添付資料４：回収された漂着ごみの品目ごとの写真

1.　業務概要

1.1 委託業務名

令和６年度神奈川県海岸漂着物組成調査業務委託

1.2 目的

本委託業務は、相模湾及び東京湾沿岸で発生する海岸漂着物（以下「漂着ごみ」とする。）の実態の把握及び発生源の推定を行い、今後の海岸美化に資する基礎資料の作成を目的とした。

1.3 委託期間

令和６年 11 月 6 日～令和７年 2 月 28 日

1.4 委託業務の内容

別添「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（令和５年６月 第３版)」(以下、「ガイドライン」という。）に準じ、以下に定めるとおり、本委託業務を実施した。

なお、過年度調査では、同ガイドライン（令和３年 10 月　第３版)」の旧版を使用した年度もあるが、本報告書に記載された集計結果に差異は生じない。

1.4.1調査地点

調査地点は、表 1.4-1、図 1.4-1～図 1.4-4 に示す４地点とした。

表 1.4-1　調査地点と調査期日

調査地点	調査期日
① 三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）	令和６年 11 月 26 日
② 引地川河口部右岸（藤沢市）	令和６年 11 月 29 日
③ 金目川河口部左岸（平塚市）	令和６年 12 月２日
④ 酒匂川河口部右岸（小田原市）	令和６年 12 月４日

1.4.2調査期日及び回数

調査期日は、表 1.4-1 に示した。調査回数は、１回実施した。

1.4.3事前踏査等

(1) 事前準備

事前に調査地点の海岸管理者へ作業についての連絡及び必要な手続きを行った。

(2) 事前踏査

調査地点において事前踏査を行い、目視による確認で、漂着ごみが多く集積しているエリアを選定した。なお、継続して同じ場所で調査できるところを選定した。

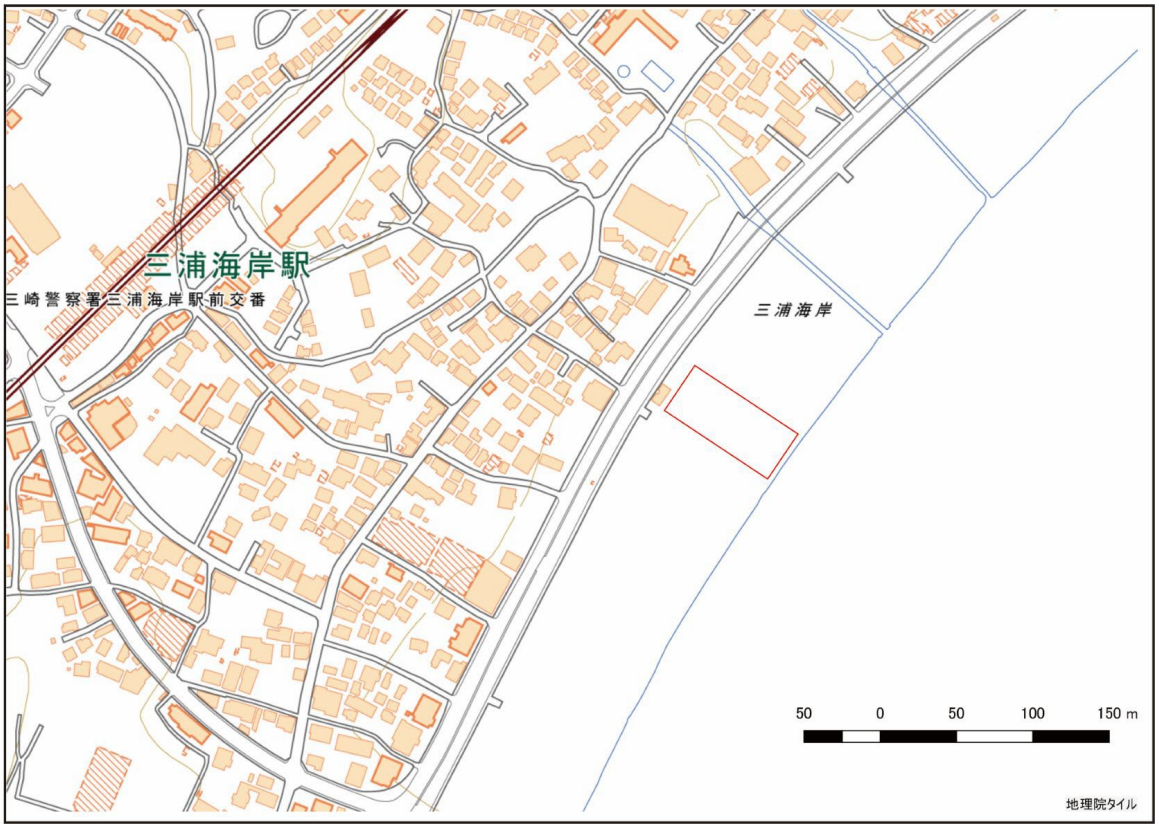


図 1.4-1　調査地点：三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）

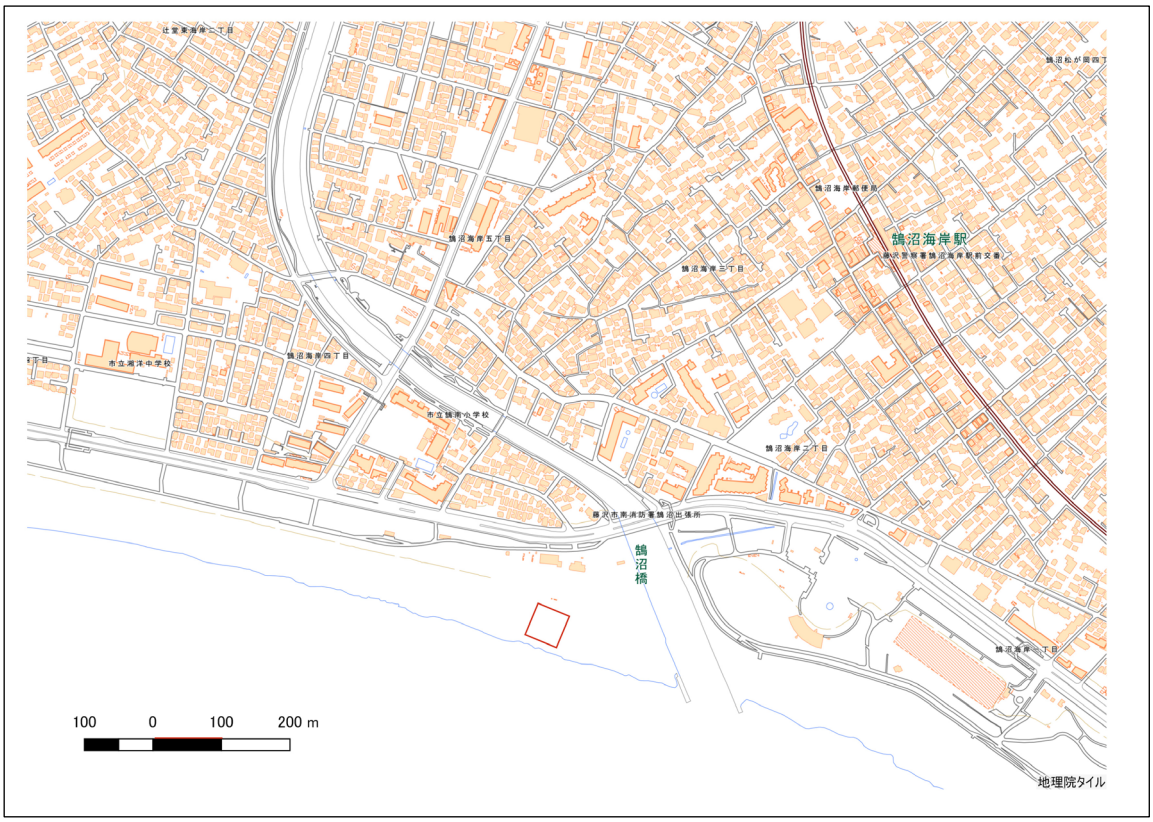


図 1.4-2　調査地点：引地川河口部右岸（藤沢市）

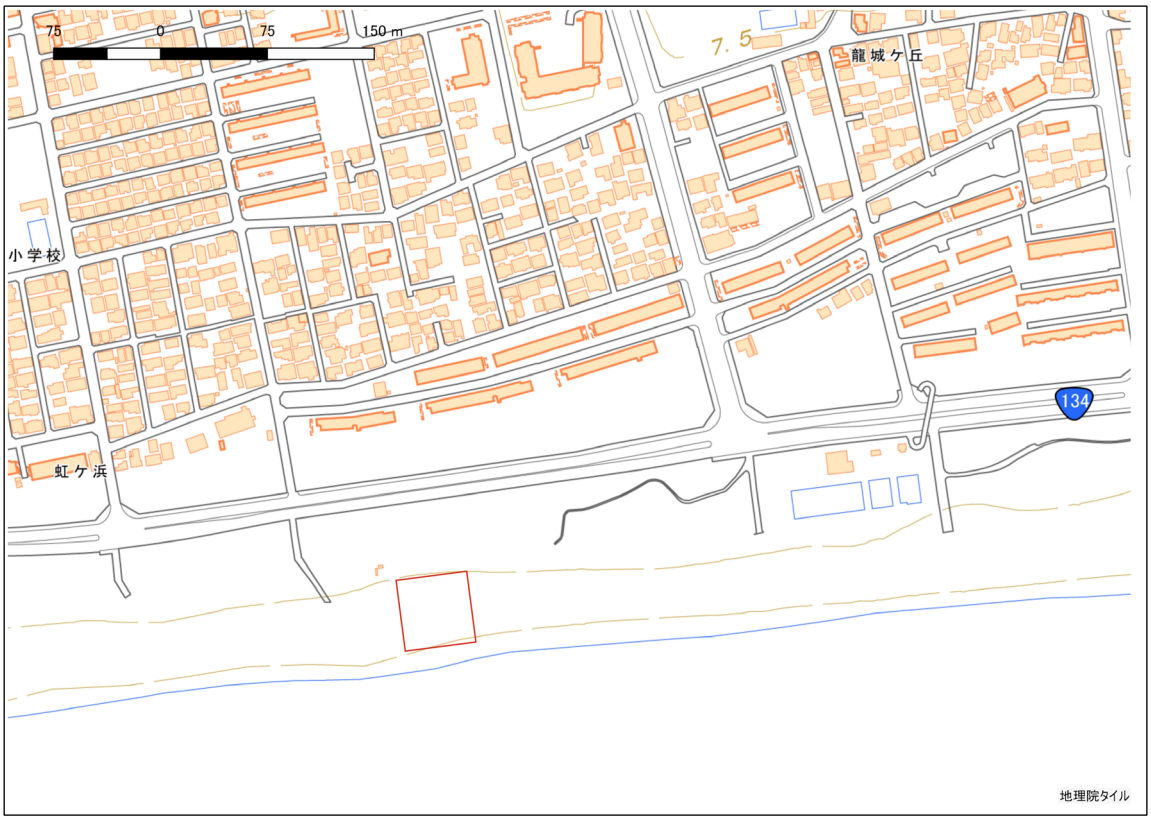


図 1.4-3　調査地点：金目川河口部左岸（平塚市）

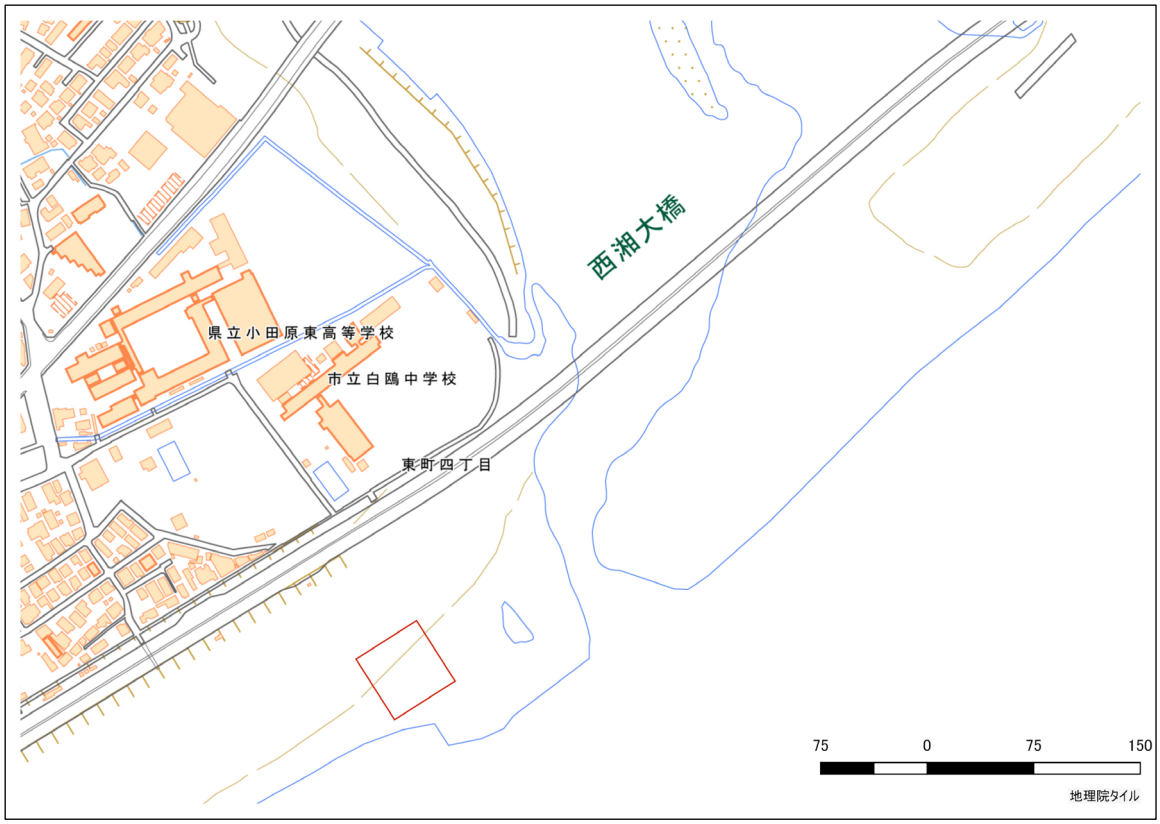


図 1.4-4　調査地点：酒匂川河口部右岸（小田原市）

1.4.4漂着ごみの回収・分析等

(1) 事前準備

表 1.4-2 に示す漂着ごみの回収に必要な用具及び調査に必要な機材等の準備を行った。

また、調査予定日の天候を事前に確認した。

表 1.4-2　調査に必要な物

①漂着ごみの分類表兼データシート
②言語表記等調査のデータシート
③筆記用具
④ごみを収集するための丈夫なごみ袋
⑤ごみ分類後の計測機器 ・容量を測定するための袋または容器 ・重量を測定するための計量秤
⑥メジャー（ 50mまで計測可能なもの）
⑦軍手
⑧金ばさみ
⑨カメラ
⑩危険物（例： 注射器） 収納容器
⑪その他、必要と判断した物（寒さ対策等）

(2) 漂着ごみの回収及び分析

① 調査範囲

図 1.4-5 に示すとおり、汀線方向の幅を 50mとして、調査時の海岸汀線から海岸の後背地（植生があるところ）までの間を対象とした。

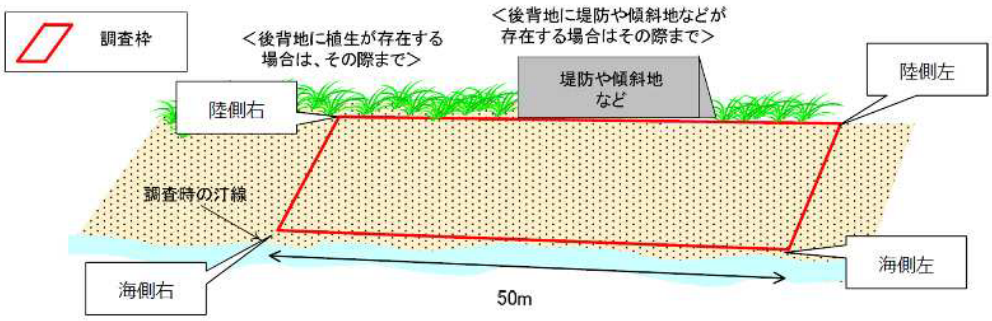


図 1.4-5　調査範囲

② 調査対象の漂着ごみ

長さが 2.5cm 以上の漂着ごみを調査対象として回収した。

③ 漂着ごみの回収及び分析

ガイドラインに基づき、調査範囲において回収した調査対象の漂着ごみを分類し、ガイドラインの「漂着ごみ データシート①～②」に従って、個数、重量及び容積を計測した。

(3) 発生源推定の分析

次のごみについては、記載されたバーコードやラベル等の表記が読み取れるものは、言語の特

定を行い、ガイドラインの「言語表記等調査のデータシート」に従って、別途個数を計測した。

表 1.4-3　調査品目

①ペットボトル
②ペットボトルのキャップ
③漁業用の浮子

1.4.5漂着ごみの回収

調査に伴い回収した漂着ごみは、分類及び計測終了後、各調査地点ごとに、県が指定する場所に、県が指示する分別方法に従い分別のうえ、集積して置いた。

1.4.6調査結果報告書の作成

本委託業務に係る調査結果報告書（本報告書）を作成した。なお、調査に係る考察を取りまとめた調査結果報告書には、表 1.4-4 に示す事項を掲載した。

過年度（令和元年度～令和５年度：R01～R05）にも、同様な調査を実施したので、この結果との比較も行った。ただし、三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）は、令和元年度は未実施である。表記は、本年度調査（R06）、過年度調査（R01～R05）とした。

なお、漂着ごみについては、通常は、重量は小数第１位、容量、個数は整数で表示するが、本調査結果では、漂着ごみの量が少なく、個数があっても、重量 0.0kg、容量 0Ｌと表記されることが多くあった。したがって、重量は小数第２位、容量は小数第１位までで整理した。

また、プラスチックなどの品目の重量は、測定可能な限りの位まで、例えば 0.1ｇまで計測した。ただし、灌木などの重量物は、ラフな計測、例えば3.4kgなど、使用する秤による精度の計測となった。容量も同様で、かさ容量を計測したために、プラスチックなどの細かな品目の容量と、灌木などの容量では、測定した桁数が異なる。集計では、これらの生データを用いたために、四捨五入の関係で、合計値等が一致しない場合があることに留意されたい。倍率についても、同様に処理（実数処理）しているので、表記された数値で計算してはいない。

表 1.4-4　必要項目と掲載場所

必要項目	掲載場所
①事前踏査のとりまとめ結果	添付資料１
②漂着ごみ データシート①～②及び言語表記等調査のデータシート	添付資料２
③漂着ごみ データシート①～②及び言語表記等調査のデータシート作成の根拠となる野帳の写し	添付資料３
④調査範囲を示した地図	図 1.4：前出
⑤調査範囲の調査中及び調査前後の写真	2. 組成調査の調査結果
⑥回収された漂着ごみの品目ごとの写真	添付資料４
⑦人工物、漁具、自然物の分類別の組成	2. 組成調査の調査結果
⑧人工物の大分類別（ガイドライン準拠）の組成	2. 組成調査の調査結果
⑨プラスチックの容器包装等の組成 ：容器包装等の区分は表 1.4-5 に示す。	2. 組成調査の調査結果

表 1.4-5　容器包装等の区分

大分類	必須項目		オプション項目	プラ分類
プラスチック類	ボトルのキャップ、ふた		ボトルのキャップ、ふた	容器包装
	ボトル＜1L	飲料用（ペットボトル）＜1L	飲料用（ペットボトル）＜1L	容器包装
		その他のプラボトル＜1L	その他のプラボトル＜1L	容器包装
		飲料用（ペットボトル）≧1L	飲料用（ペットボトル）≧1L	容器包装
		その他のプラボトル類≧1L	その他のプラボトル類≧1L	容器包装
	ストロー		ストロー	製品
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等		マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	製品
	食品容器（ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの）		コップ、食器	製品
			食品容器	容器包装
	ポリ袋（不透明、透明）		食品の容器包装	容器包装
			レジ袋	容器包装
			その他プラスチック袋	容器包装
	ライター		ライター	製品
	テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）		テープ（荷造りバンド、ビニールテープ）	製品
	シートや袋の破片		シートや袋の破片	その他
	硬質プラスチック破片		硬質プラスチック破片	その他
	ウレタン		ウレタン	その他
	浮子（ブイ）（漁具）		浮子（ブイ）（漁具）	海域由来
	ロープ、ひも（漁具）		ロープ、ひも（漁具）	海域由来
	アナゴ筒（フタ、筒）（漁具）		アナゴ筒（フタ、筒）（漁具）	海域由来
	カキ養殖用まめ管（長さ1.5cm）（漁具）		カキ養殖用まめ管（長さ1.5cm）（漁具）	海域由来
	カキ養殖用パイプ（長さ10-20cm）（漁具）		カキ養殖用パイプ（長さ10-20cm）（漁具）	海域由来
	漁網（漁具）		漁網（漁具）	海域由来
	その他の漁具（漁具）		かご漁具	海域由来
			その他の漁具	海域由来
	釣具		釣りのルアー、浮き	海域由来
			釣り糸	海域由来
			その他の釣具	海域由来
	たばこ吸殻（フィルター）		たばこ吸殻（フィルター）	製品
	生活雑貨（歯ブラシ等）		生活雑貨（歯ブラシ等）	製品
	苗木ポット		苗木ポット	製品
	その他		花火	製品
			玩具	製品
			プラスチック梱包材	容器包装
			シリンジ、注射器	製品
			分類に無いもので多数見つかった場合には記載	品目による
			その他	品目による
プラスチック類（発泡スチロール）	コップ、食品容器		食品容器（発泡スチロール）	容器包装
			コップ、食器（発泡スチロール）	製品
	発泡スチロール製フロート、浮子（ブイ）		発泡スチロール製フロート、浮子（ブイ）	海域由来
	発泡スチロールの破片		発泡スチロールの破片	その他
	発泡スチロール製包装材		発泡スチロール製包装材	容器包装
	その他		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	品目による
			その他	品目による

2.　本調査の調査結果

2.1　三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）

2.1.1組成調査

(1)　現地の状況等

三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）での状況写真は、図 2.1-1 に示す。

本海岸での清掃は比較的ゆきとどいており、漂着ごみはほとんど見られなかった。主に波打ち際にプラスチック類が分布していた。その大きさから通常の清掃での回収の対象となっていないものと思われた。これらが、主な回収物である。調査範囲は 100m程度で他の地点と比較すると広い。

本調査地点は、他の調査地点で実施した R01 年度調査は実施しておらず、過年度調査は R02～R05 である。

回収前

回収後

回収作業

図 2.1-1　三浦海岸北側公衆トイレ付近（三浦市）での状況写真

(2)　３分類別の組成

３分類別の組成は、表 2.1-1、図 2.1-2 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 13.50kg、容量 63.4Ｌ、個数 832 個であった。３分類別の組成は、重量、個数ともに人工物（漁具を除く）がそれぞれ 70.6%、99.8%と最も多かった。容量は、自然物（灌木）が 78.8%と最も多かった。なお、灌木の個数は、環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R02～R05）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 0.9～1.7 倍で、容量で 0.7～1.4 倍、個数で 1.4～1.9 倍と概ね同程度かやや多かった。３分類別の組成は、重量、個数ともに人工物（漁具を除く）が多いこと、容量は自然物が多いことから、比較的類似していた。

(3)　人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.1-2、図 2.1-3 示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量ではガラス・陶器が 73.9%、容量ではプラスチックが 44.3%、個数では金属が 60.6%と最も多かった。これらの項目は、他の重量、容量、個数でも比較的多かった。これら多かった品目は、ガラス・陶器では建築資材、プラスチックではその他、金属ではくぎであった。

過年度調査（R02～R05）での人工物は、本年度調査の重量で 1.0～2.0 倍で、容量で 1.4～3.5 倍、個数で 1.3～1.9 倍とやや多かった。人工物の大分類別の組成は、プラスチック、ガラス・陶器、金属が多いことなどから、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

(4) プラスチックの容器包装等の組成

プラスチックの容器包装等の組成は、表 2.1-3、図 2.1-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ

89.0%、91.7%、80.4%と多かった。重量、容量、個数の割合が多かった製品は、硬質プラスチック破片、発泡スチロールの破片、シートや袋の破片、たばこ吸殻（フィルター）であった。

過年度調査（R02～R05）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で1.1～2.8倍で、容量で1.2～3.1倍、個数で1.3～3.1倍とやや多かった。プラスチックの容器包装等の組成は、製品の割合が多いこと、容器包装も若干みられることから、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

表 2.1-1（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	9.53	13.4	830
漁具	0.01	0.0	2
自然物	3.96	50.0	0
合計	13.50	63.4	832

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

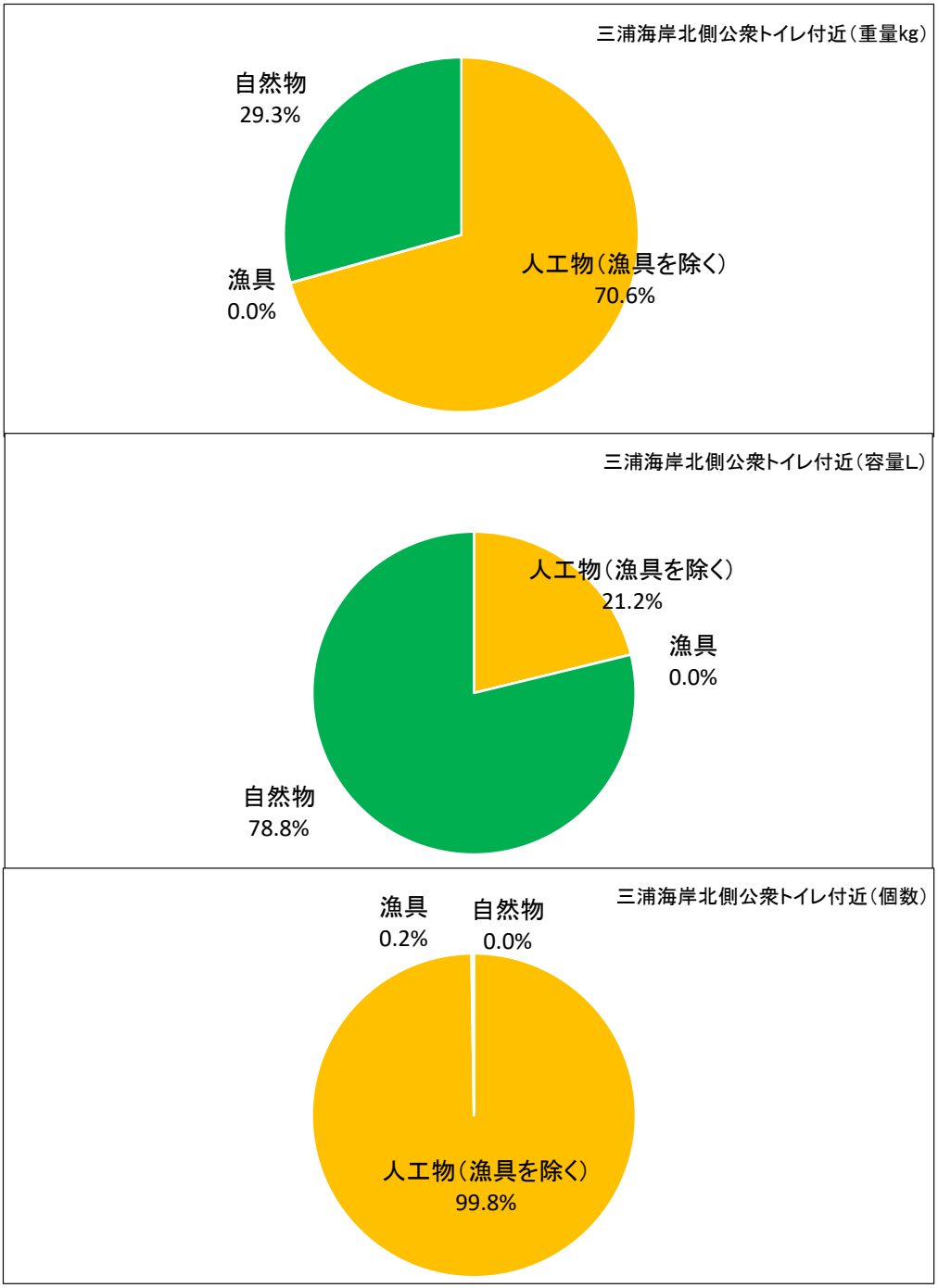


図 2.1-2（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.1-1（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	9.52	18.9	1,125
漁具	0.05	0.3	13
自然物	5.99	40.0	0
合計	15.55	59.2	1,138

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

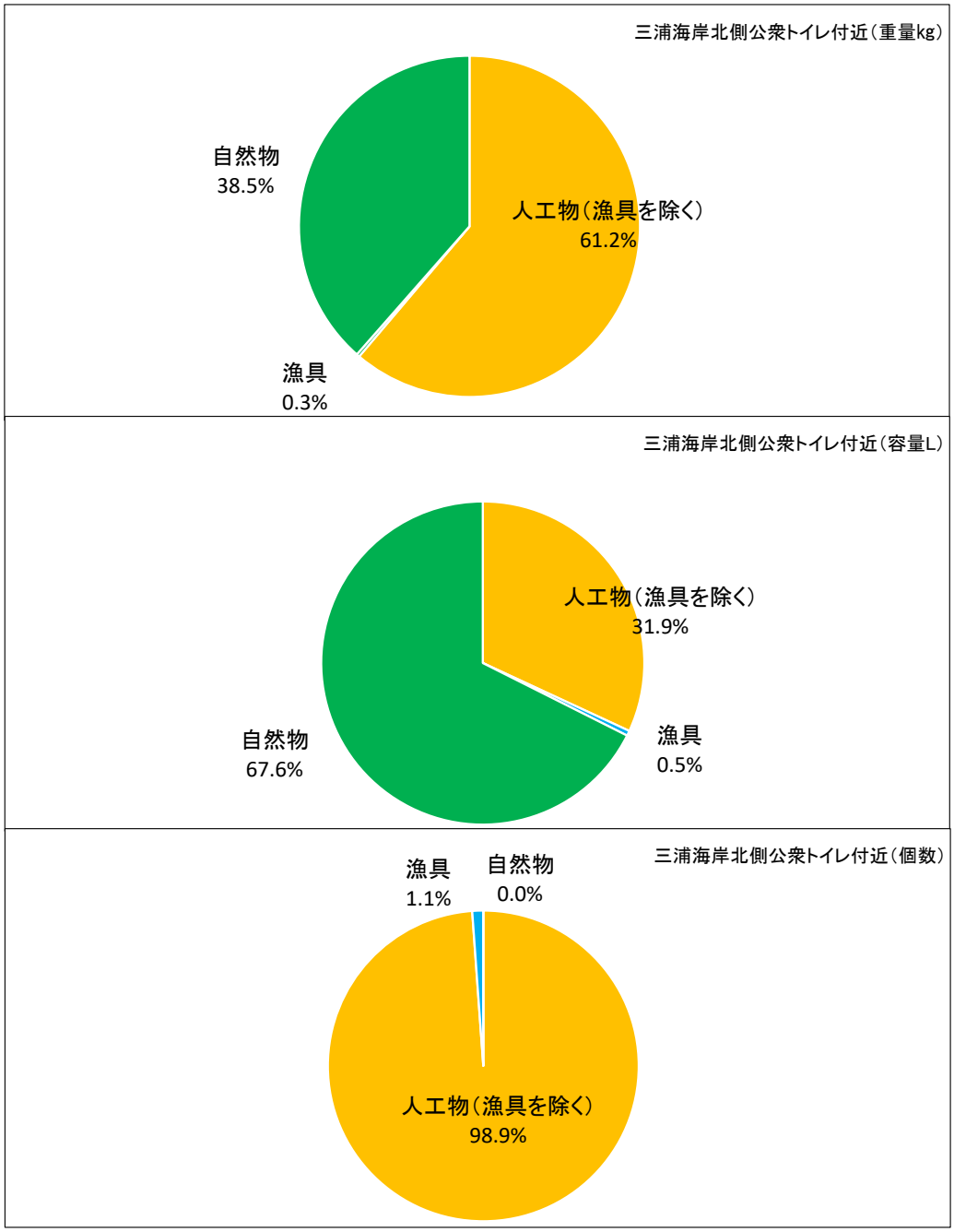


図 2.1-2（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.1-1（3）　３分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	9.67	24.4	1,064
漁具	0.04	0.6	9
自然物	2.27	26.4	83
合計	11.98	51.4	1,156

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

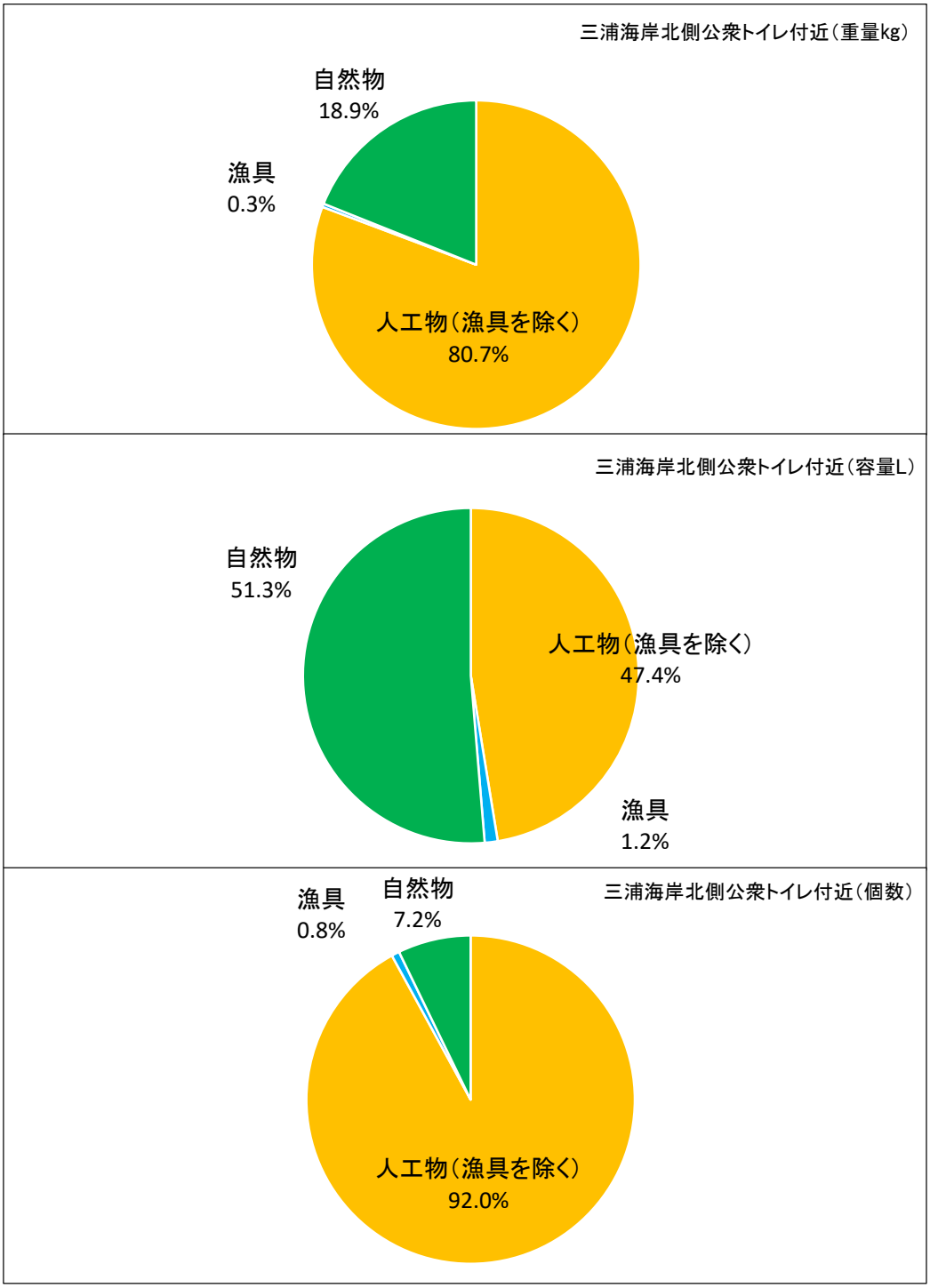


図 2.1-2（3）　３分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.1-1（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	18.67	46.1	1,577
漁具	0.08	0.7	26
自然物	3.99	39.6	0
合計	22.74	86.4	1,603

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

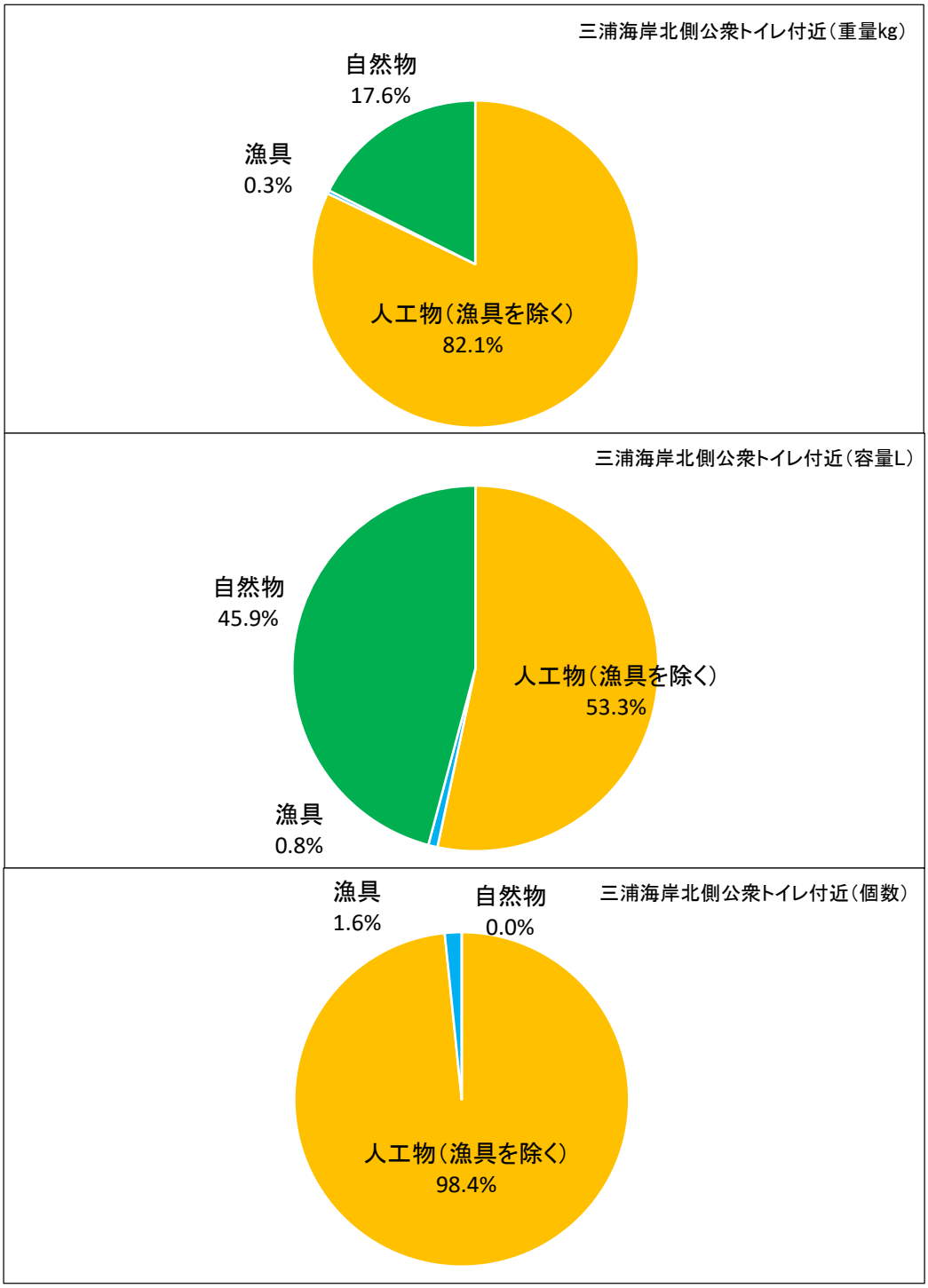


図 2.1-2（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.1-1（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	11.59	28.9	1,301
漁具	0.46	5.2	55
自然物	1.06	10.0	0
合計	13.11	44.1	1,356

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

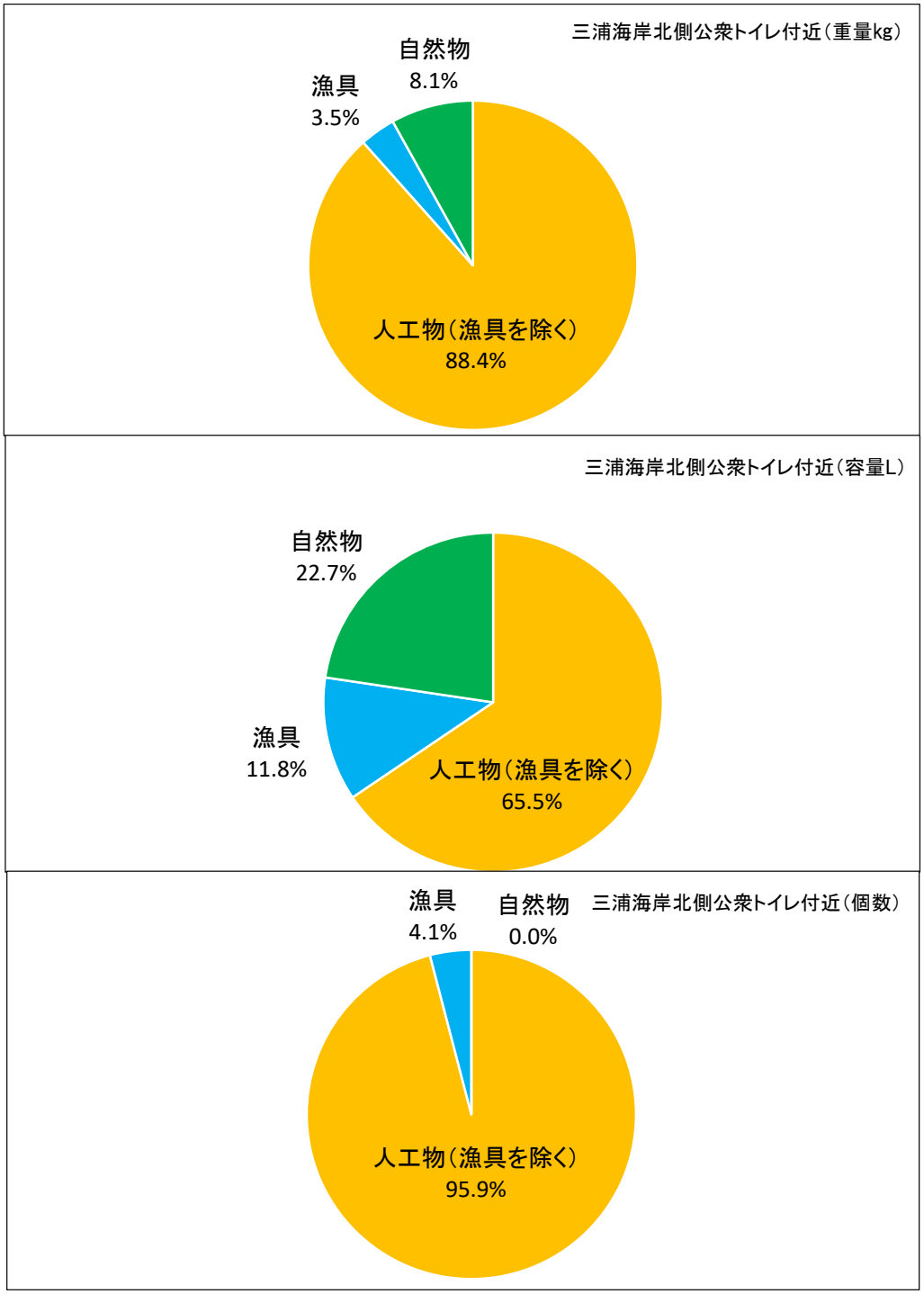


図 2.1-2（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.1-2（1）　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.69	5.9	218
発泡スチロール	0.02	0.6	6
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	7.04	3.2	46
金属	1.26	0.9	504
紙・段ボール	0.01	0.4	1
ゴム	0.26	1.5	7
木・木材系	0.15	0.7	25
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.10	0.2	25
人工物合計	9.54	13.4	832

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※２　図も同様である。

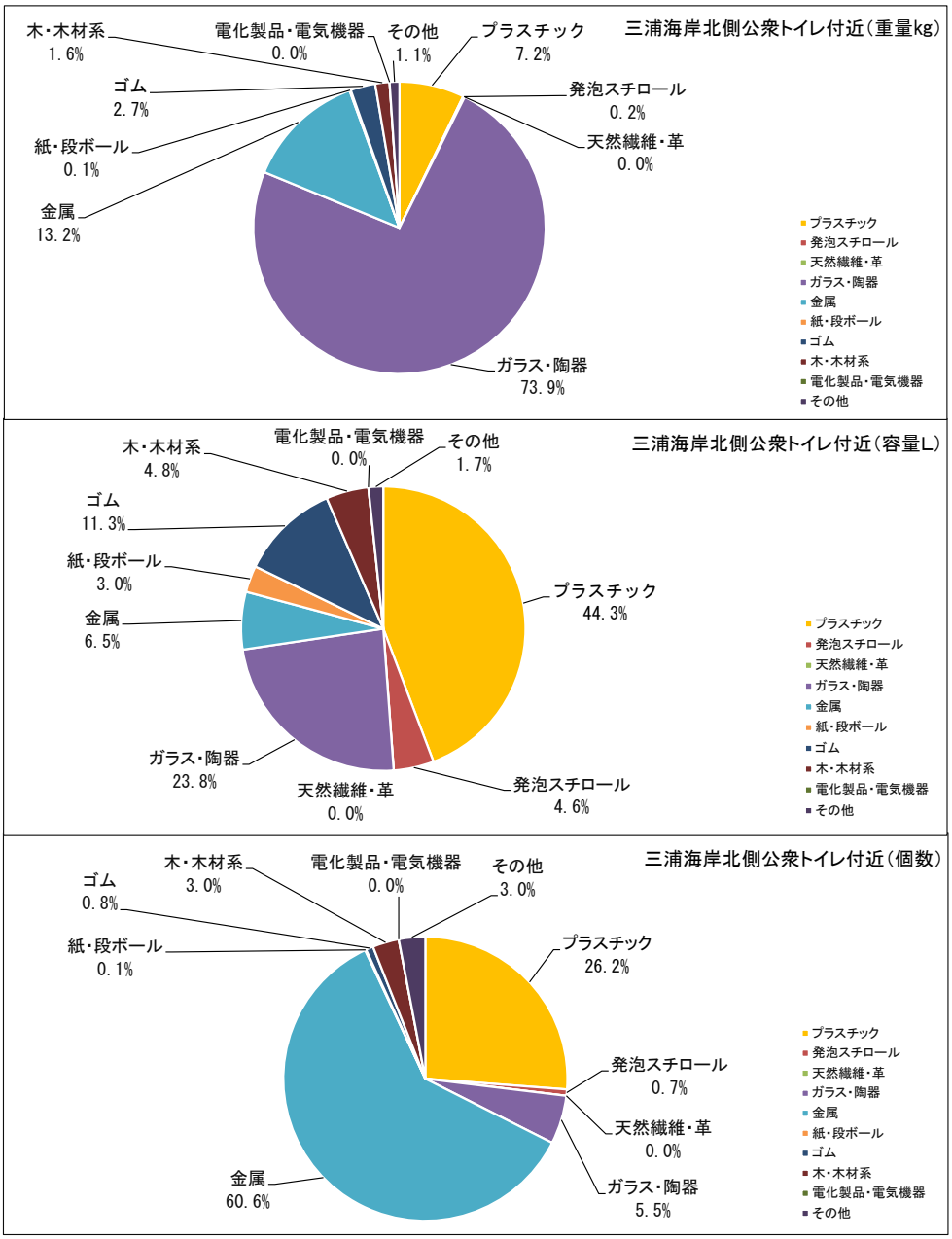


図 2.1-3（1）　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.1-2（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.76	7.9	393
発泡スチロール	0.01	0.1	0
天然繊維・革	0.00	0.0	1
ガラス・陶器	1.41	1.8	40
金属	2.08	2.1	511
紙・段ボール	0.00	0.0	4
ゴム	0.02	0.0	2
木・木材系	1.15	2.1	67
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	4.13	5.2	120
人工物合計	9.56	19.2	1,138

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※２　図も同様である。

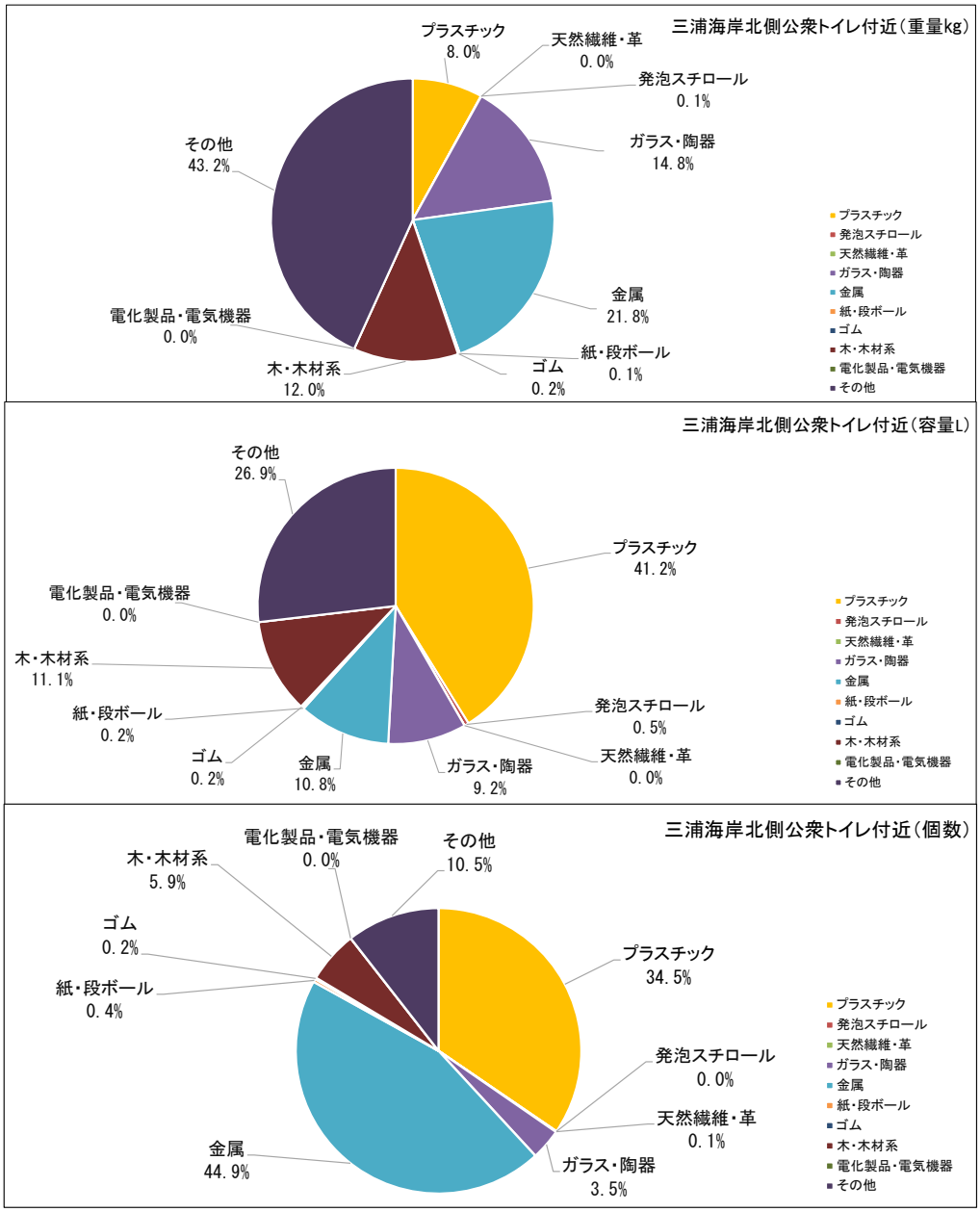


図 2.1-3（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.1-2（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.89	9.2	295
発泡スチロール	0.01	0.3	6
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	3.36	3.3	107
金属	3.90	4.3	487
紙・段ボール	0.03	0.3	13
ゴム	0.01	0.0	6
木・木材系	0.54	5.0	21
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.97	2.7	138
人工物合計	9.71	25.0	1,073

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

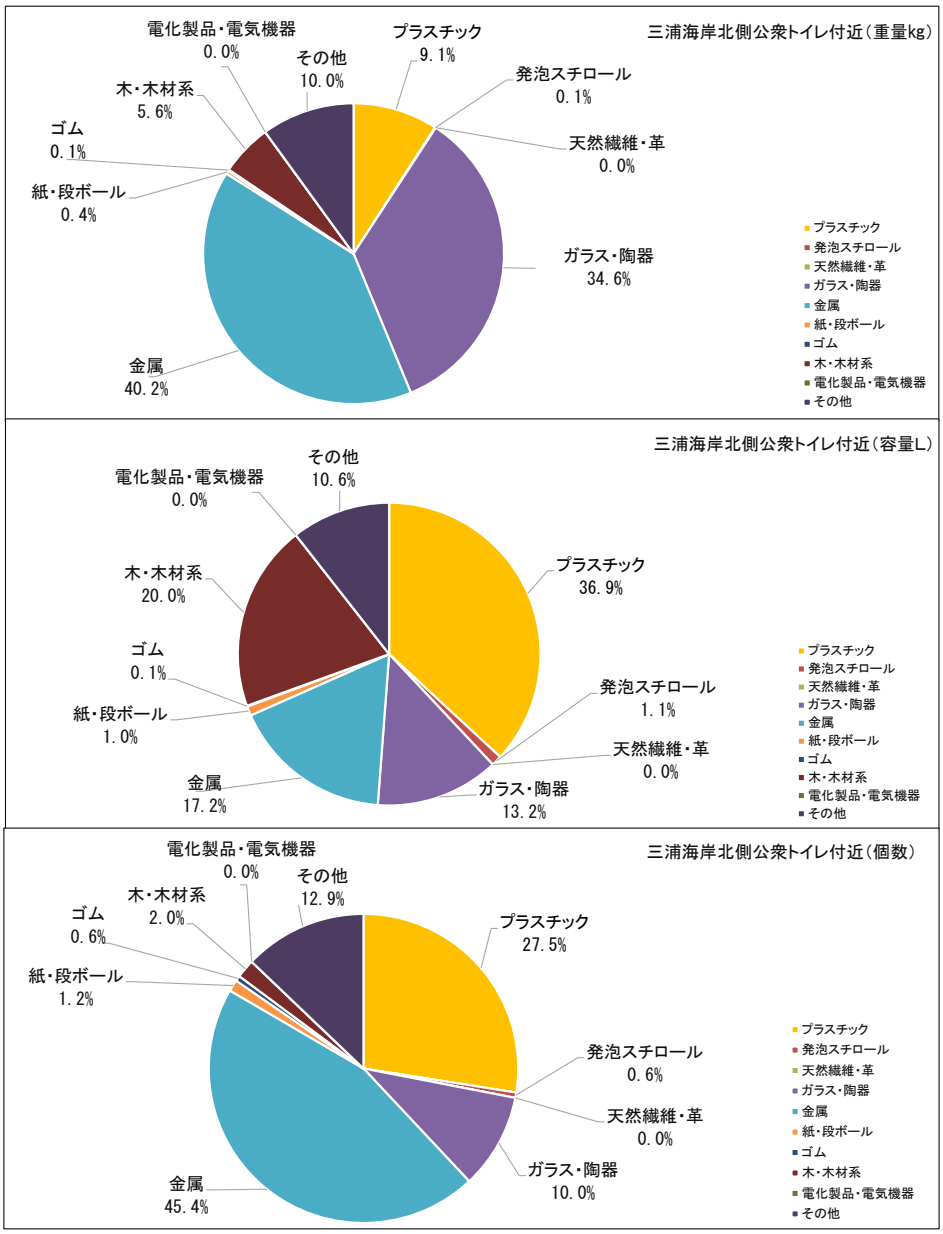


図 2.1-3（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.1-2（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.85	20.0	533
発泡スチロール	0.01	0.6	4
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	11.13	16.8	164
金属	4.38	6.2	692
紙・段ボール	0.01	0.1	3
ゴム	0.54	0.5	5
木・木材系	0.16	0.9	64
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.65	1.7	138
人工物合計	18.74	46.8	1,603

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※２　図も同様である。

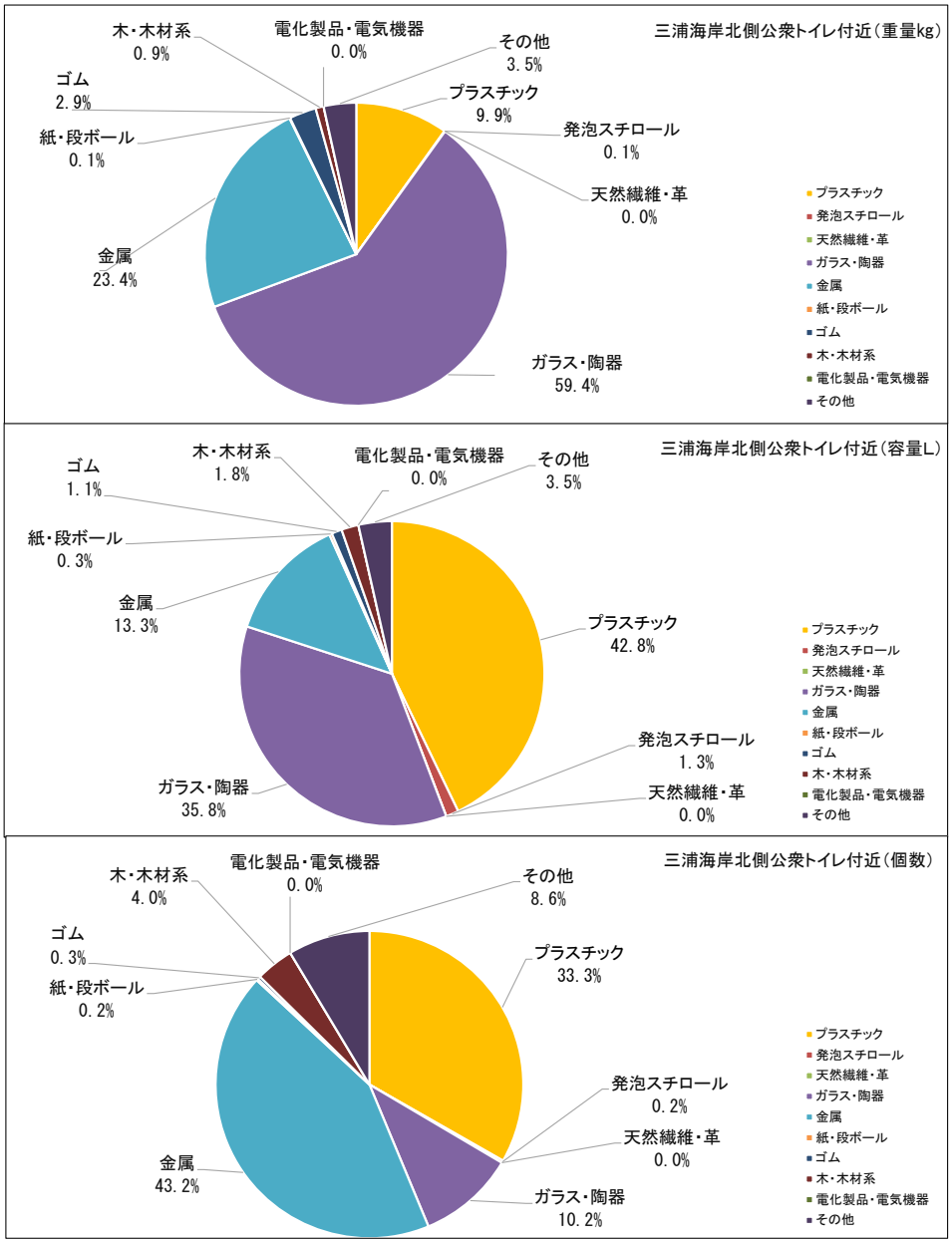


図 2.1-3（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.1-2（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.62	13.0	634
発泡スチロール	0.33	4.5	52
天然繊維・革	0.02	0.0	5
ガラス・陶器	5.20	4.8	68
金属	4.16	6.7	422
紙・段ボール	0.03	2.2	6
ゴム	0.03	0.1	8
木・木材系	0.12	0.8	36
電化製品・電気機器	0.02	0.0	1
その他	0.52	2.1	124
人工物合計	12.05	34.1	1,356

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

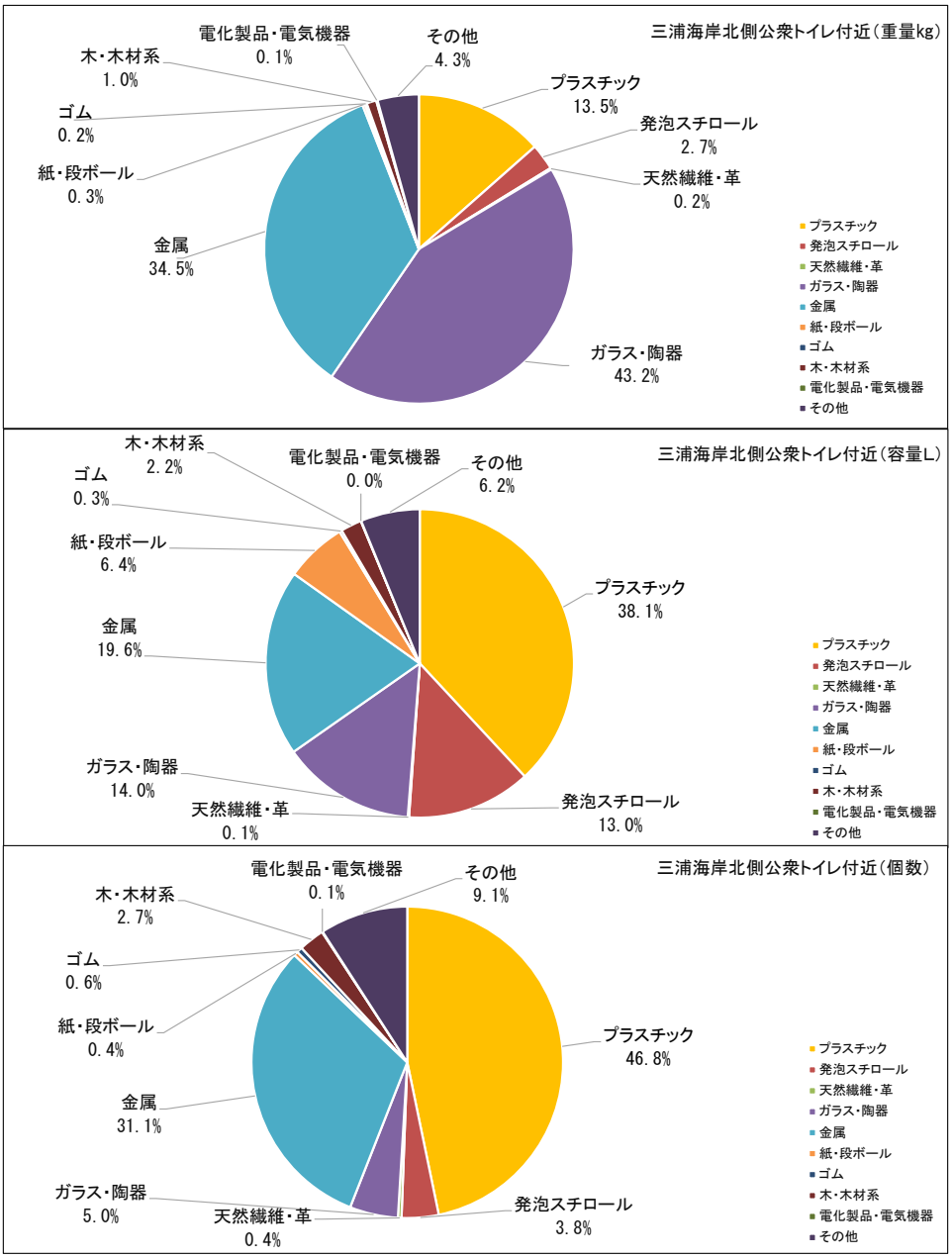


図 2.1-3（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.1-3（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.07	0.5	42
製品	0.63	6.0	180
漁具	0.01	0.0	2
合計	0.70	6.6	224

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

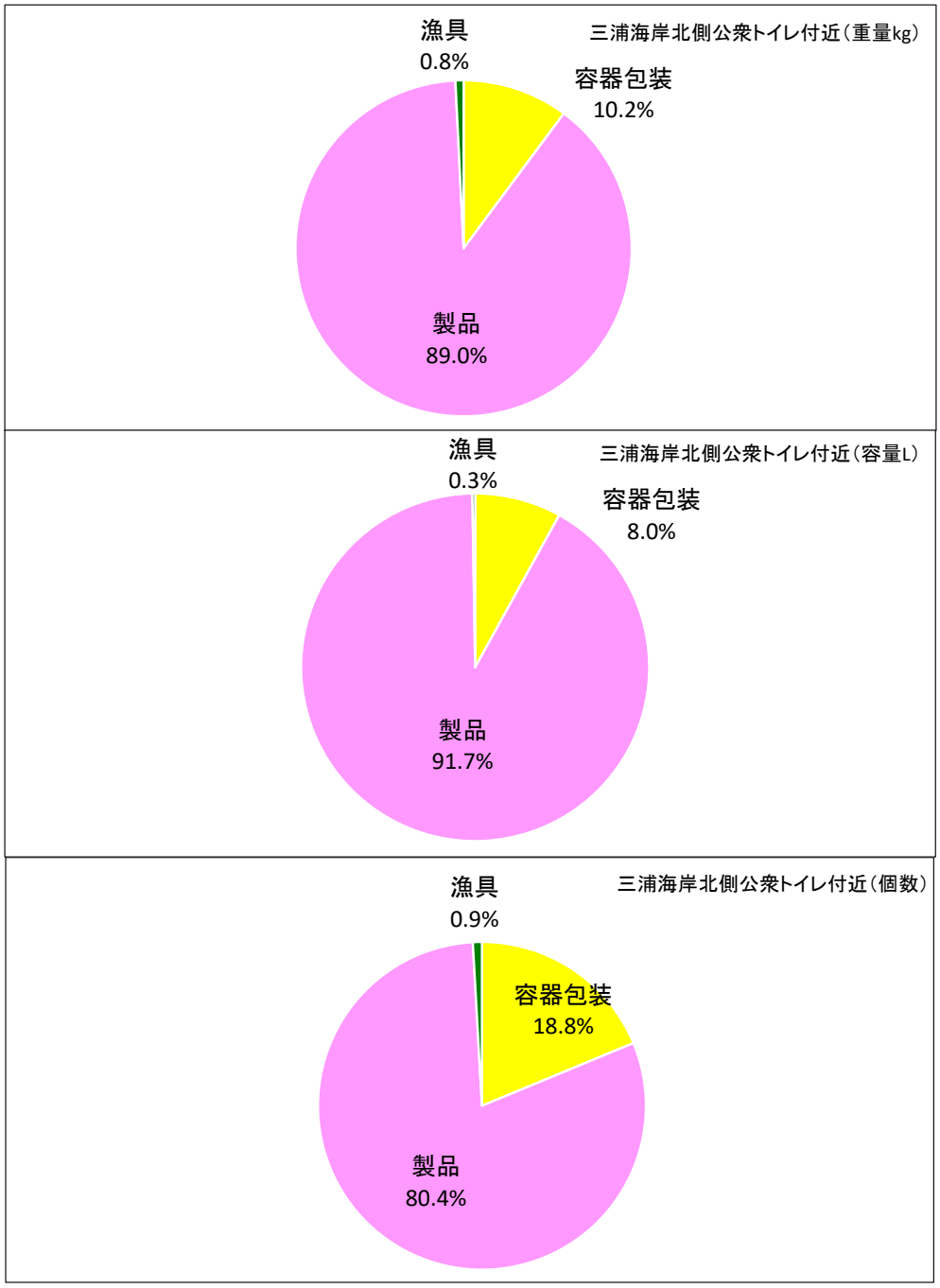


図 2.1-4（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

表 2.1-3（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.11	2.7	66
製品	0.61	5.0	314
漁具	0.05	0.3	13
合計	0.77	8.0	393

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

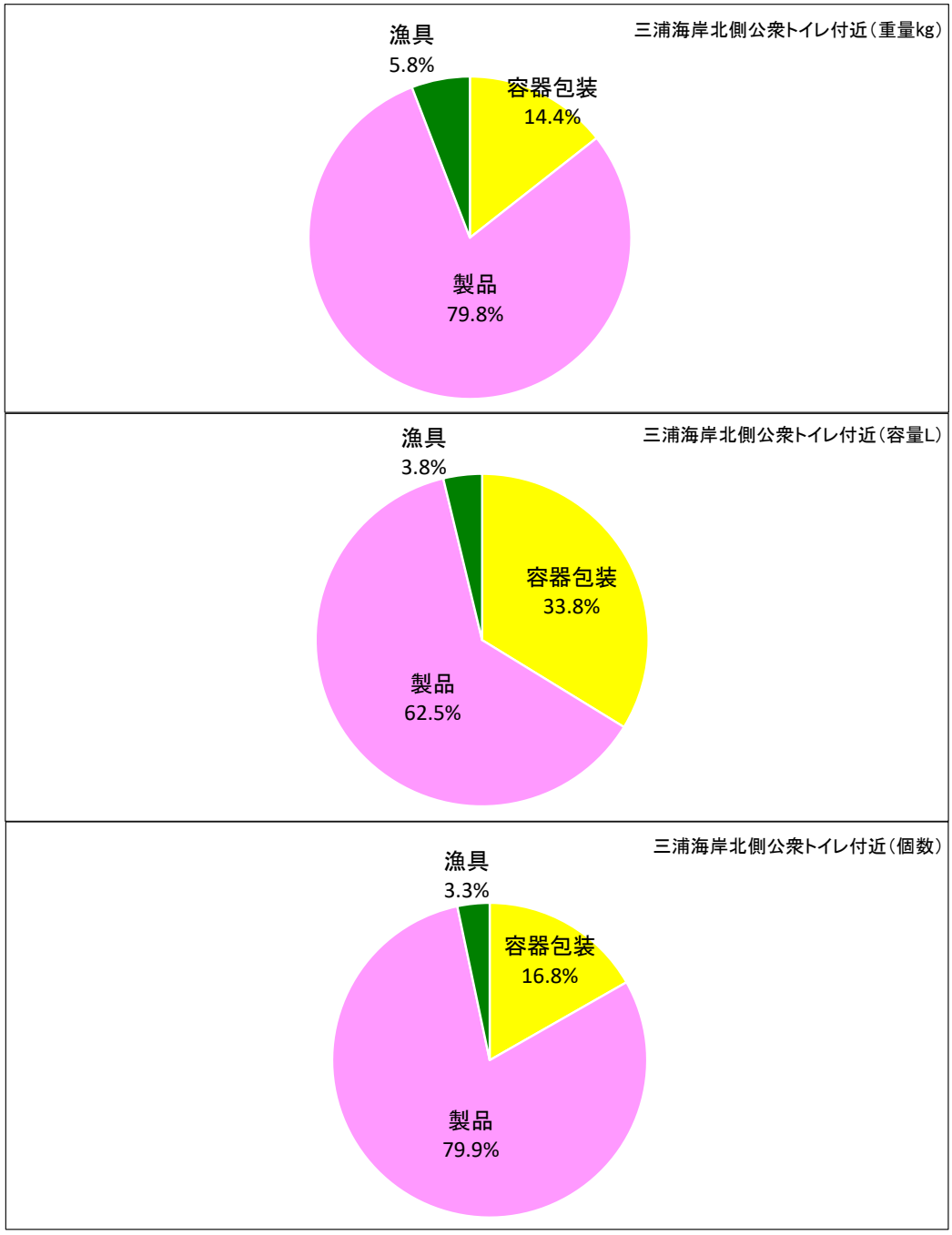


図 2.1-4（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

表 2.1-3（3）　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.14	3.6	75
製品	0.72	5.3	217
漁具	0.04	0.6	9
合計	0.89	9.5	301

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

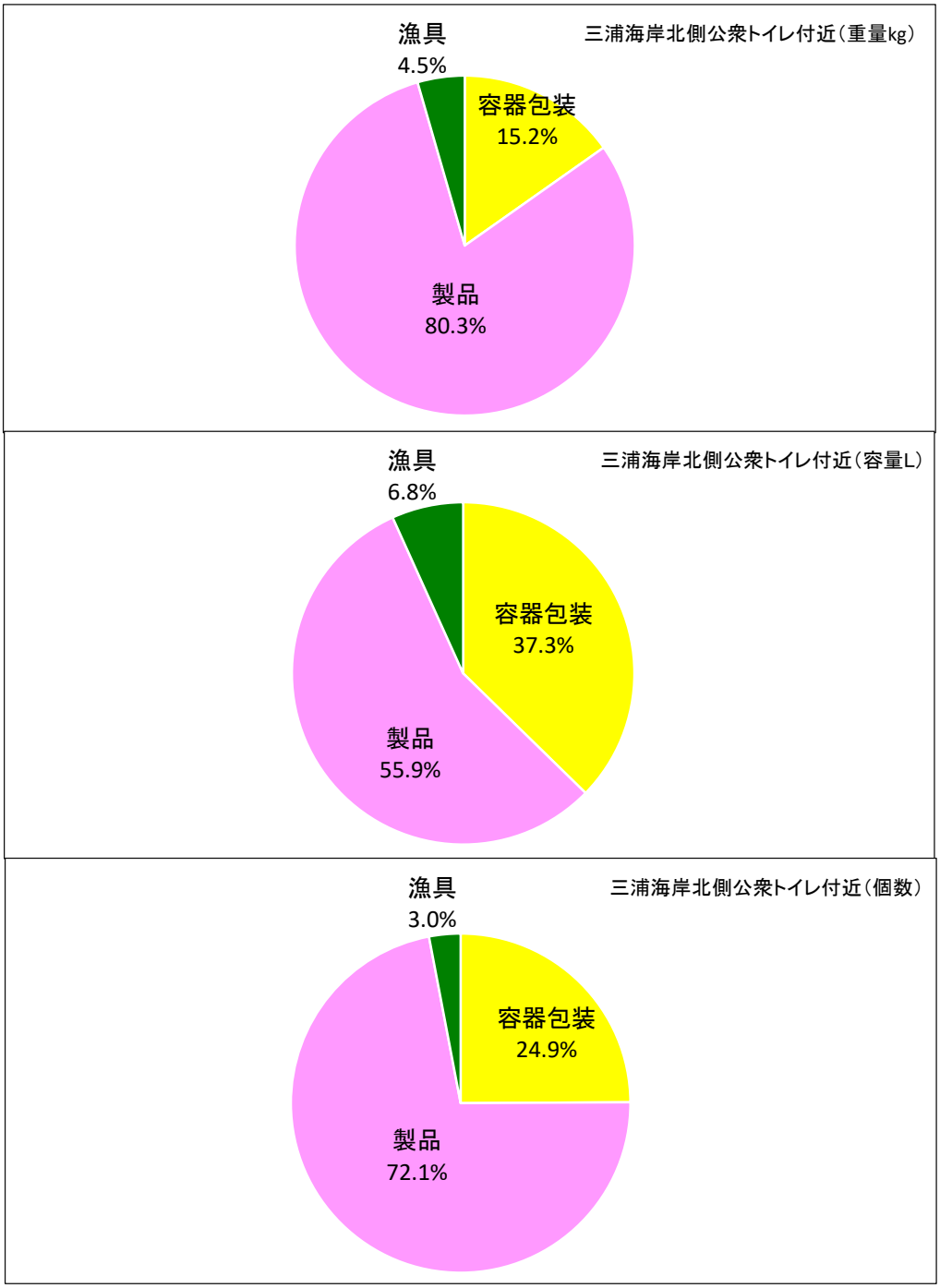


図 2.1-4（3）　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

表 2.1-3（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.18	6.3	103
製品	1.61	13.6	408
漁具	0.08	0.7	26
合計	1.87	20.7	537

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

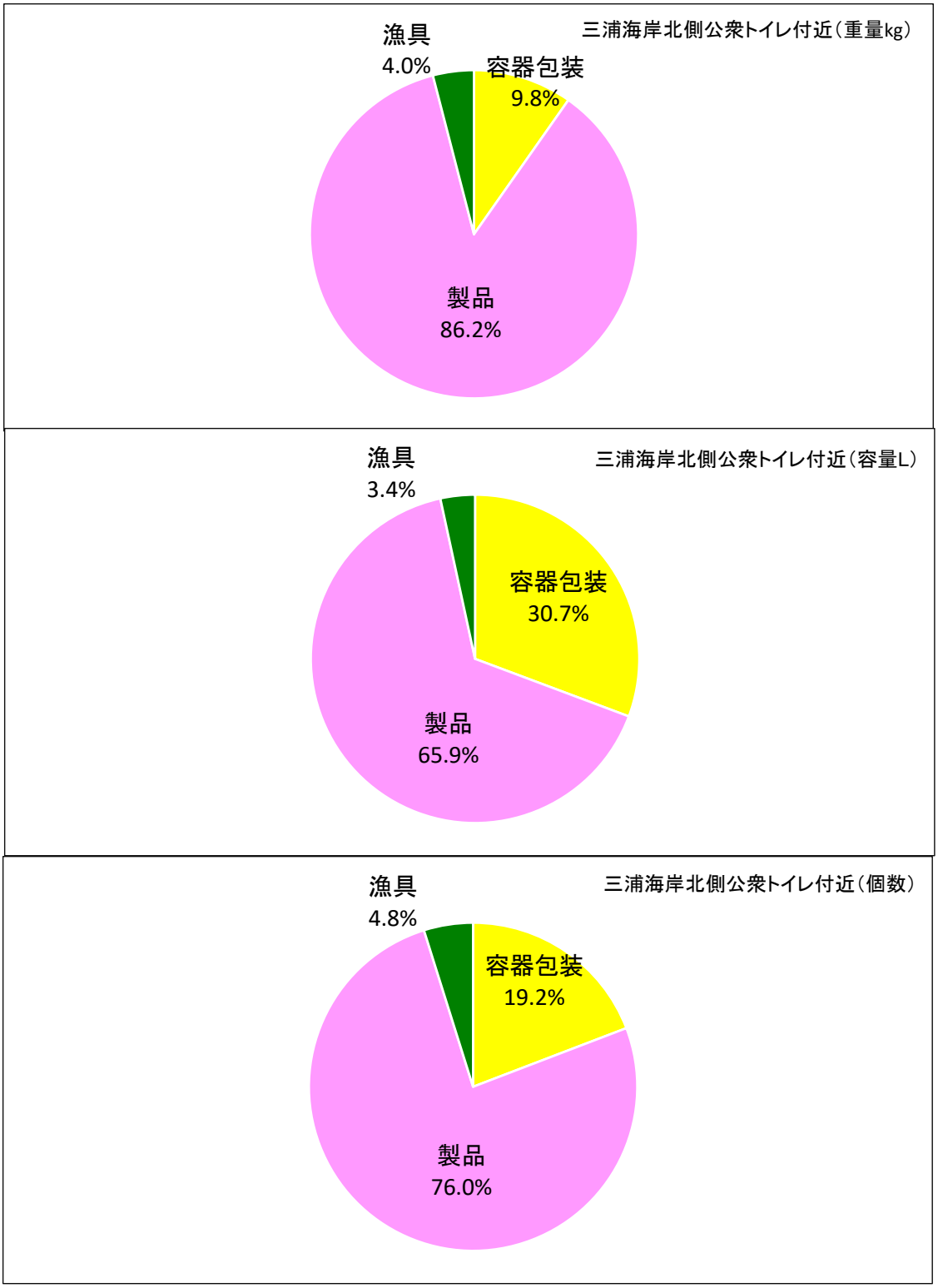


図 2.1-4（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

表 2.1-3（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.36	3.3	281
製品	1.15	8.7	351
漁具	0.44	5.5	54
合計	1.95	17.5	686

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

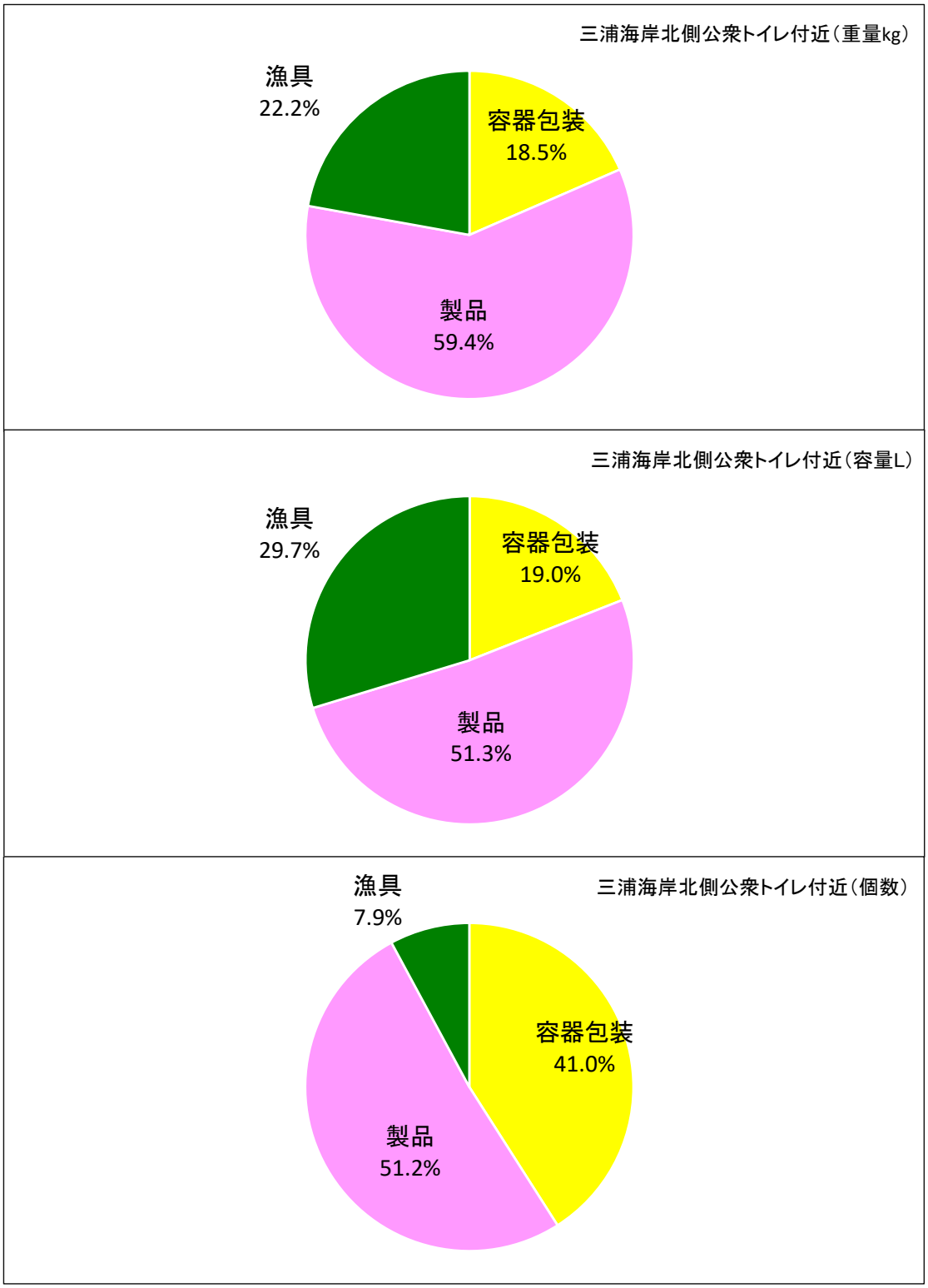


図 2.1-4（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

2.1.2発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.1-4 に示す。

本年度調査では、ペットボトルは日本１個、ペットボトルのキャップは日本 2 個、漁業用の浮子は不明１個であった。

これまでの調査で特定できた製造国は、不明を除いて日本だけであった。

表 2.1-4　製造国の特定結果

	ペットボトル		ペットボトルのキャップ		漁業用の浮子	
	本年度調査	R2～R6の合計	本年度調査	R2～R6の合計	本年度調査	R2～R6の合計
日本	1	2	2	30	0	0
中国・台湾	0	0	0	0	0	0
韓国	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	27	1	7
合計	1	2	2	57	1	7

2.2 引地川河口部右岸（藤沢市）

2.2.1組成調査

(1) 現地の状況等

引地川河口部右岸（藤沢市）での状況写真は、図 2.2-1 に示す。

本海岸での清掃は比較的ゆきとどいており、漂着ごみはほとんど見られなかった。主に波打ち際から海岸奥側に破片状の灌木が分布していた。その大きさから通常の清掃での回収の対象となっていないものと思われた。その内側や下側に、主に小さなプラスチック類が散在しており、これらが、今回の主な回収物である。

過年度調査（R01～R05）でも、同様な状況であった。

回収前

回収後

回収作業

図 2.2-1　引地川河口部右岸（藤沢市）での状況写真

(2) ３分類別の組成

３分類別の組成は、表 2.2-1、図 2.2-2 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 14.90kg、容量 118.8Ｌ、個数 222 個であった。３分類別の組成は、重量、容量では自然物（灌木）がそれぞれ 82.0%、92.6%、個数では人工物（漁具を除く）が 93.7%と最も多かった。なお、灌木の個数は、環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R01～R05）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 0.1～2.8 倍で、容量で 0.2～2.2 倍、個数で 0.4～2.9 倍と変動幅が大きかった。３分類別の組成は、重量、容量では自然物が多いこと、個数では人工物（漁具を除く）が多いことから、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

(3) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.2-2、図 2.2-3 に示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量では木・木材系が 57.4%、容量、個数ではプラスチックがそれぞれ 63.8%、94.1%と最も多かった。これらは、木・木材系では木材、プラスチックではボトルのキャップ、ふた、食品の容器包装、硬質プラスチック破片（容量のみ）、たばこ吸殻（フィルター）が多くを占めていた。

過年度調査（R01～R05）での人工物は、本年度調査の重量で 0.1～0.9 倍で、容量で 0.1～1.0 倍、個数で 0.4～3.0 倍と概ね少ない傾向にあった。人工物の大分類別の組成は、プラスチック、木・木材系が多いが、年度によってはガラス・陶器、金属が混じるので、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

(4) プラスチックの容器包装等の組成

プラスチックの容器包装等の組成は、表 2.2-3、図 2.2-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ69.0%、55.9%、47.6%と最も多かった。重量、容量、個数の割合が多かった製品は、たばこ吸殻（フィルター）であった。

過年度調査（R01～R05）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で0.1～0.8倍で、容量で0.1～1.0倍、個数で0.4～2.8倍と概ね少ない傾向にあった。プラスチックの容器包装等の組成は、製品の割合が多いこと、年度によっては容器包装の割合が多くなることから、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

表 2.2-1（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.57	8.4	208
漁具	0.11	0.4	11
自然物	12.22	110.0	3
合計	14.90	118.8	222

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

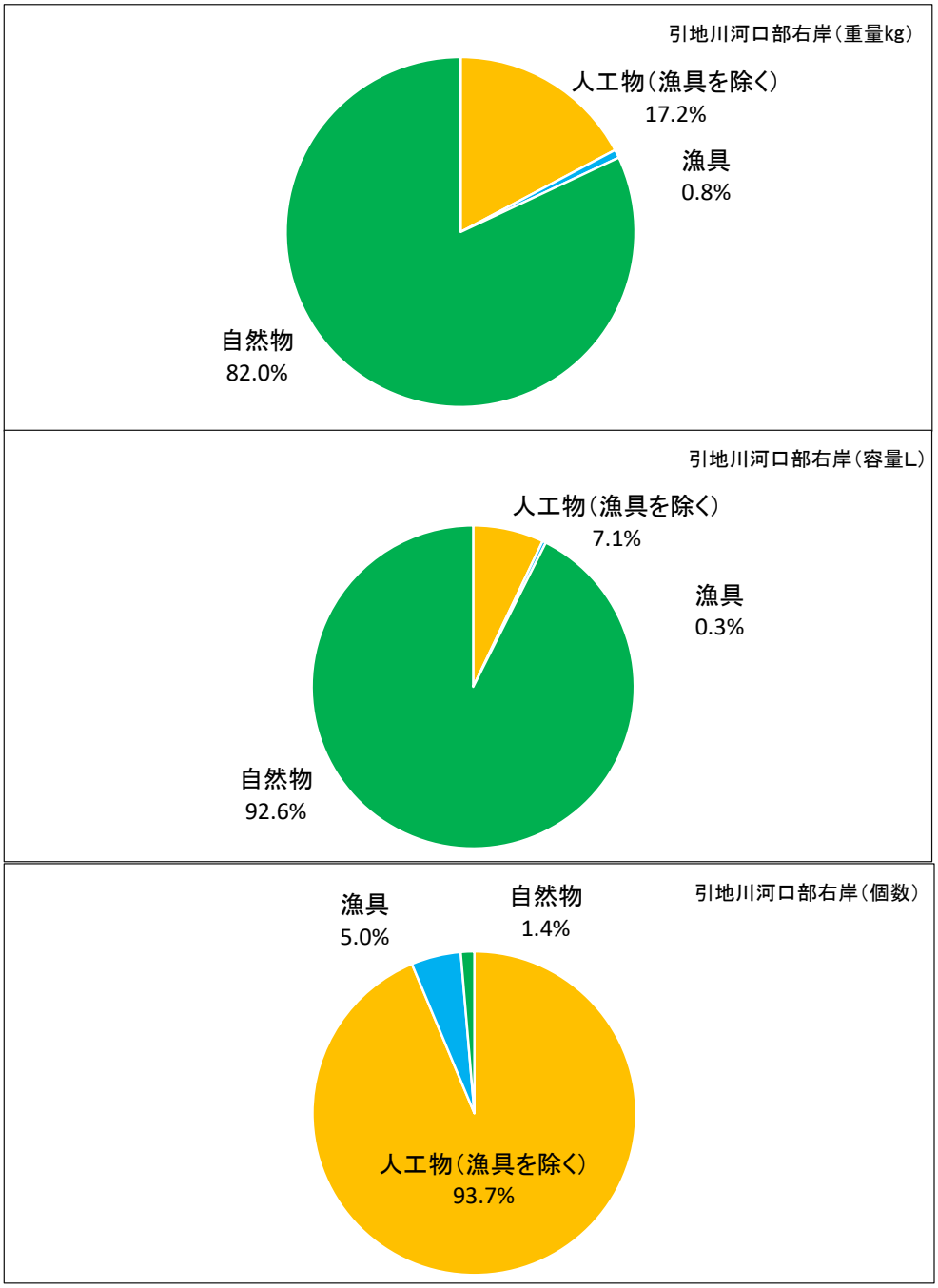


図 2.2-2（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.2-1（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.28	8.6	640
漁具	0.02	0.1	12
自然物	39.44	250.2	1
合計	41.73	258.9	653

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

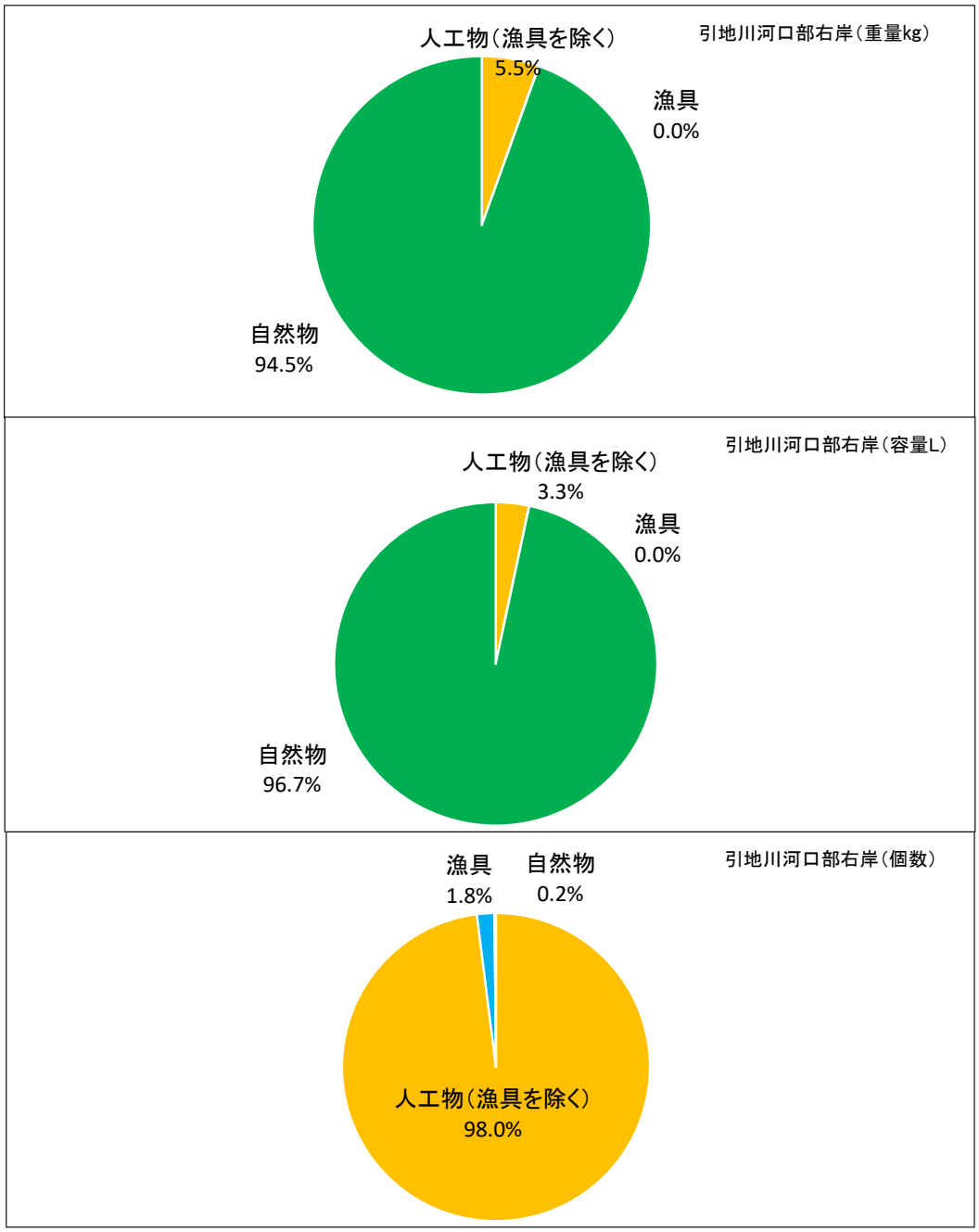


図 2.2-2（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.2-1（3）　３分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.27	1.1	79
漁具	0.00	0.0	0
自然物	6.36	120.0	0
合計	6.63	121.1	79

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

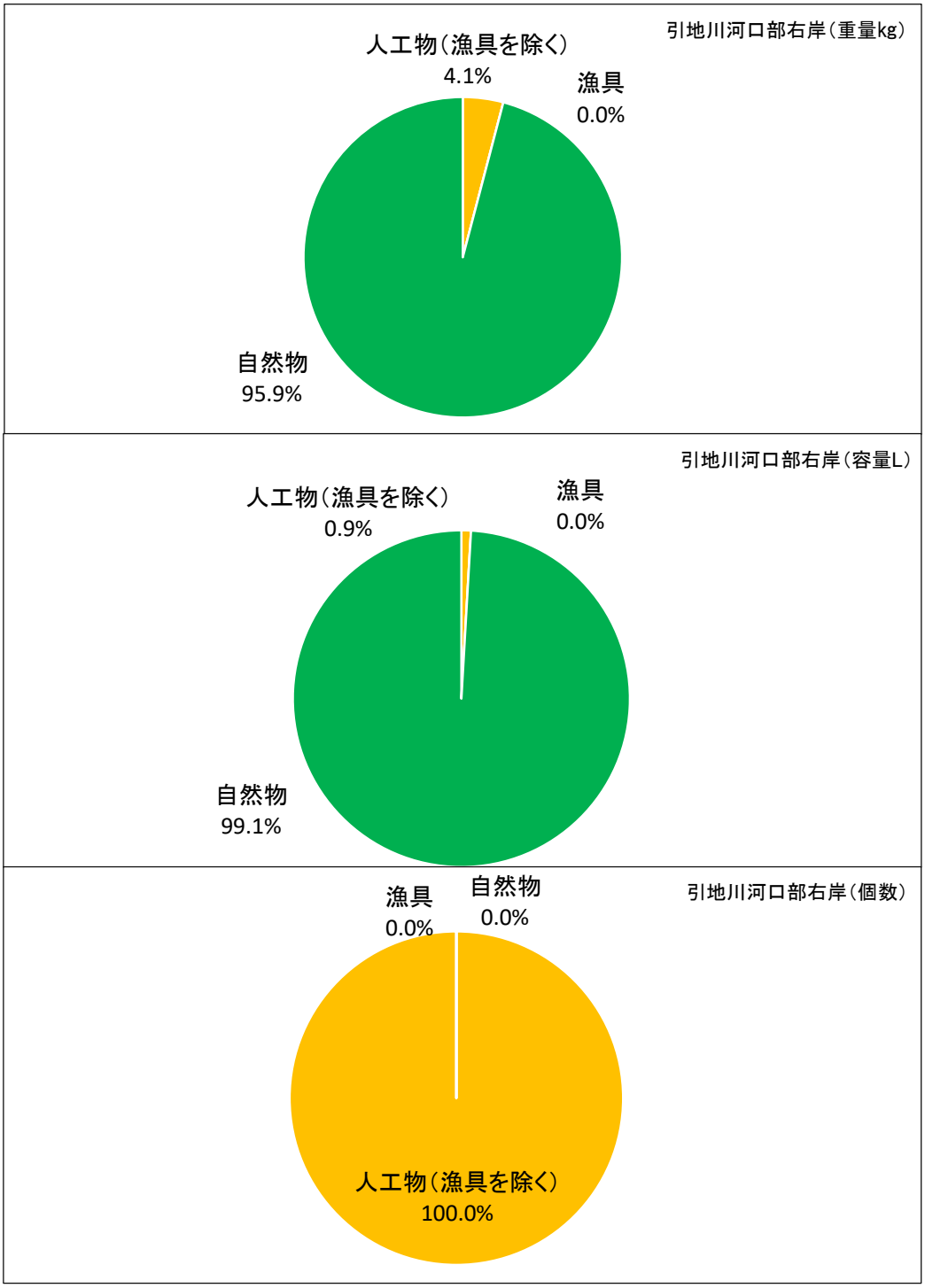


図 2.2-2（3）　３分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.2-1（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.77	3.0	87
漁具	0.01	0.1	8
自然物	0.46	41.5	1
合計	1.24	44.5	96

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

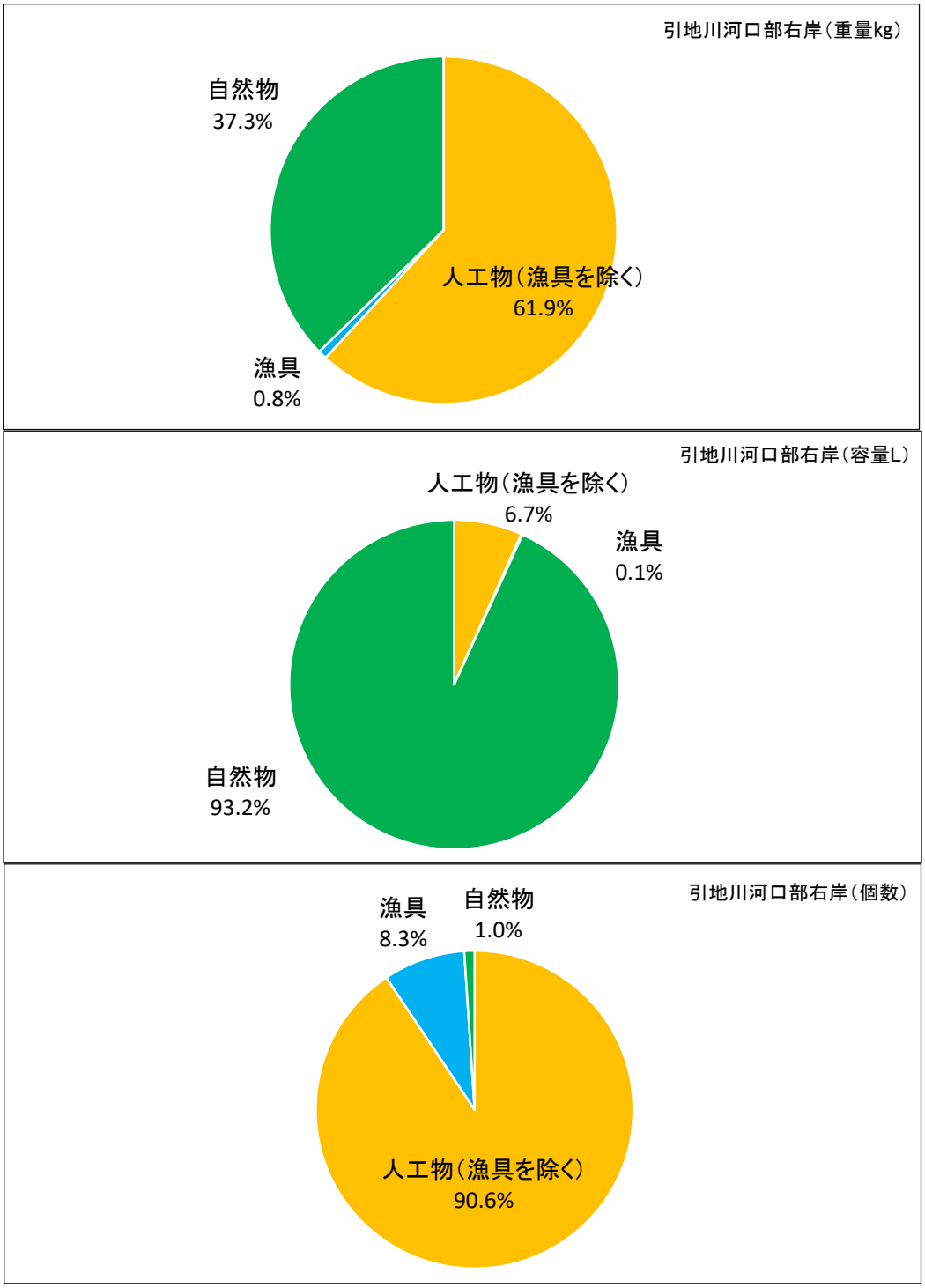


図 2.2-2（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.2-1（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.41	1.6	90
漁具	0.01	0.0	6
自然物	3.00	25.0	0
合計	3.42	26.6	96

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

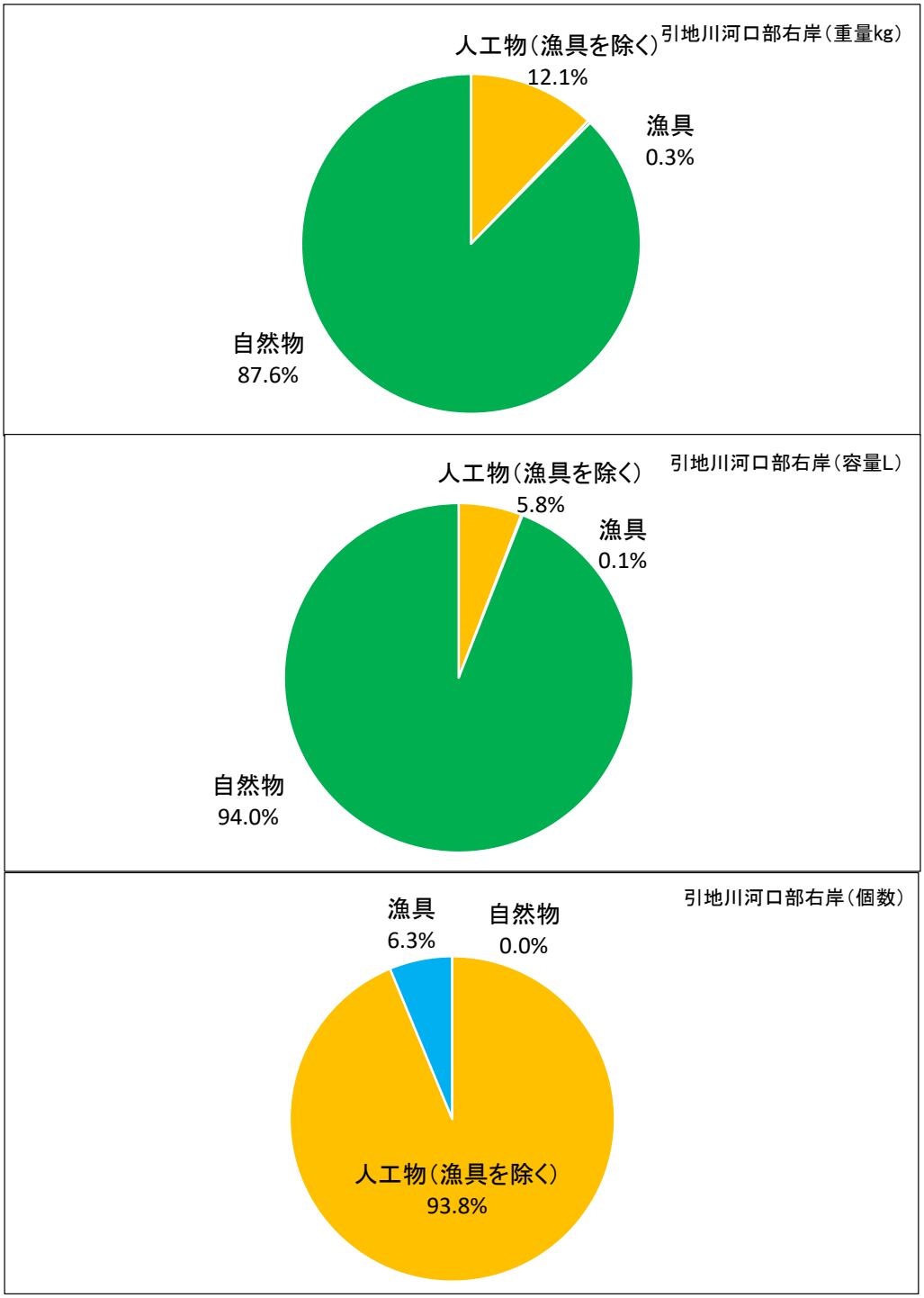


図 2.2-2（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.2-1（6）　３分類別の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.88	4.0	710
漁具	0.01	0.0	6
自然物	20.33	273.0	0
合計	21.22	277.0	716

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

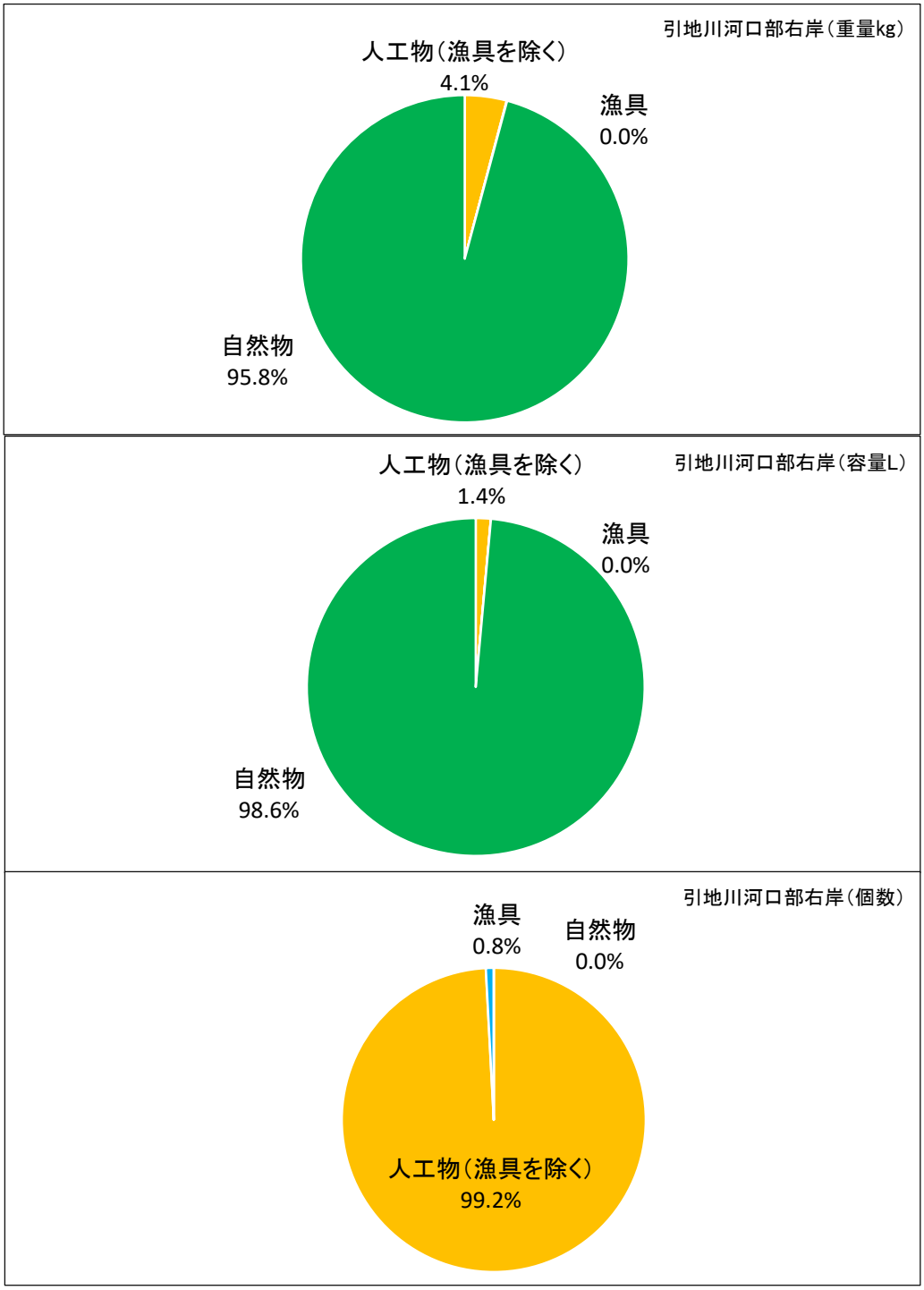


図 2.2-2（6）　３分類別の組成（R01 年度調査）

表 2.2-2（1）　　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.08	5.6	206
発泡スチロール	0.00	0.1	0
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.04	0.0	0
金属	0.01	0.0	7
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	1
木・木材系	1.54	3.0	4
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.02	0.1	1
人工物合計	2.68	8.8	219

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※２　図も同様である。

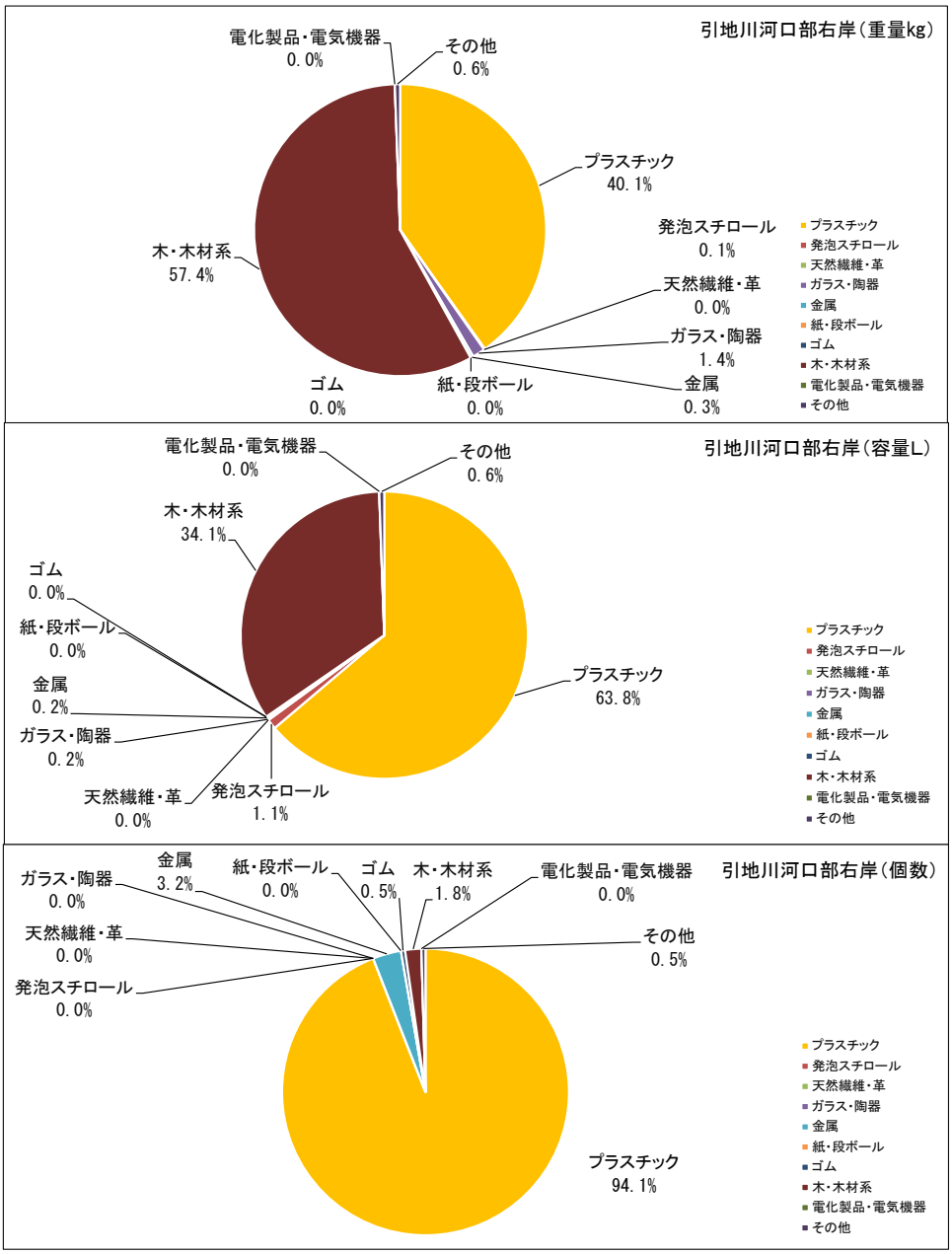


図 2.2-3（1）　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.2-2（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.88	5.3	561
発泡スチロール	0.01	0.3	23
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	0
金属	0.01	0.0	1
紙・段ボール	0.01	0.1	1
ゴム	0.02	0.1	11
木・木材系	1.30	2.5	15
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.06	0.3	40
人工物合計	2.29	8.7	652

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

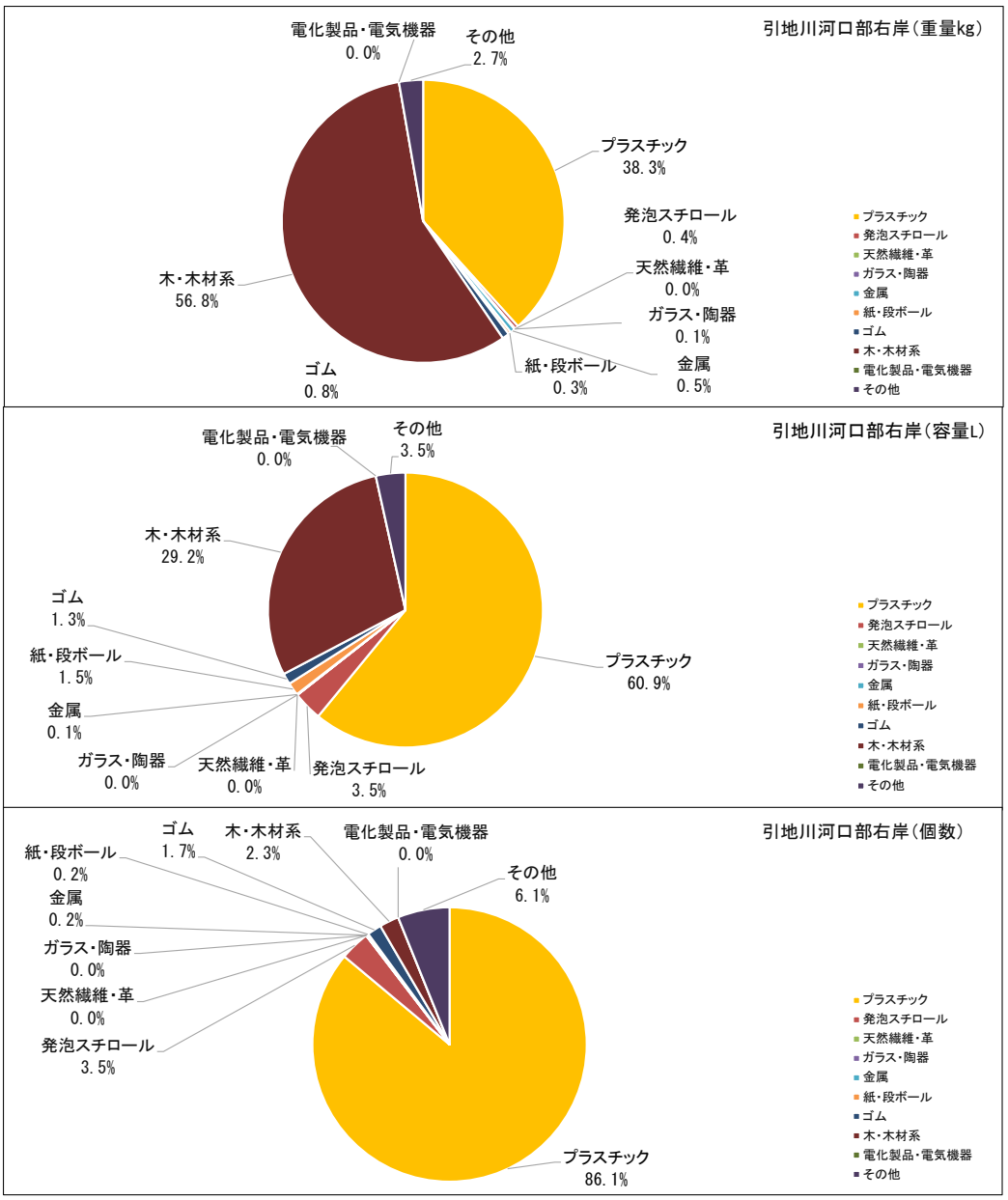


図 2.2-3（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.2-2（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.06	0.6	65
発泡スチロール	0.01	0.2	13
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.15	0.2	0
金属	0.00	0.0	0
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	0.05	0.1	1
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.27	1.1	79

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※２　図も同様である。

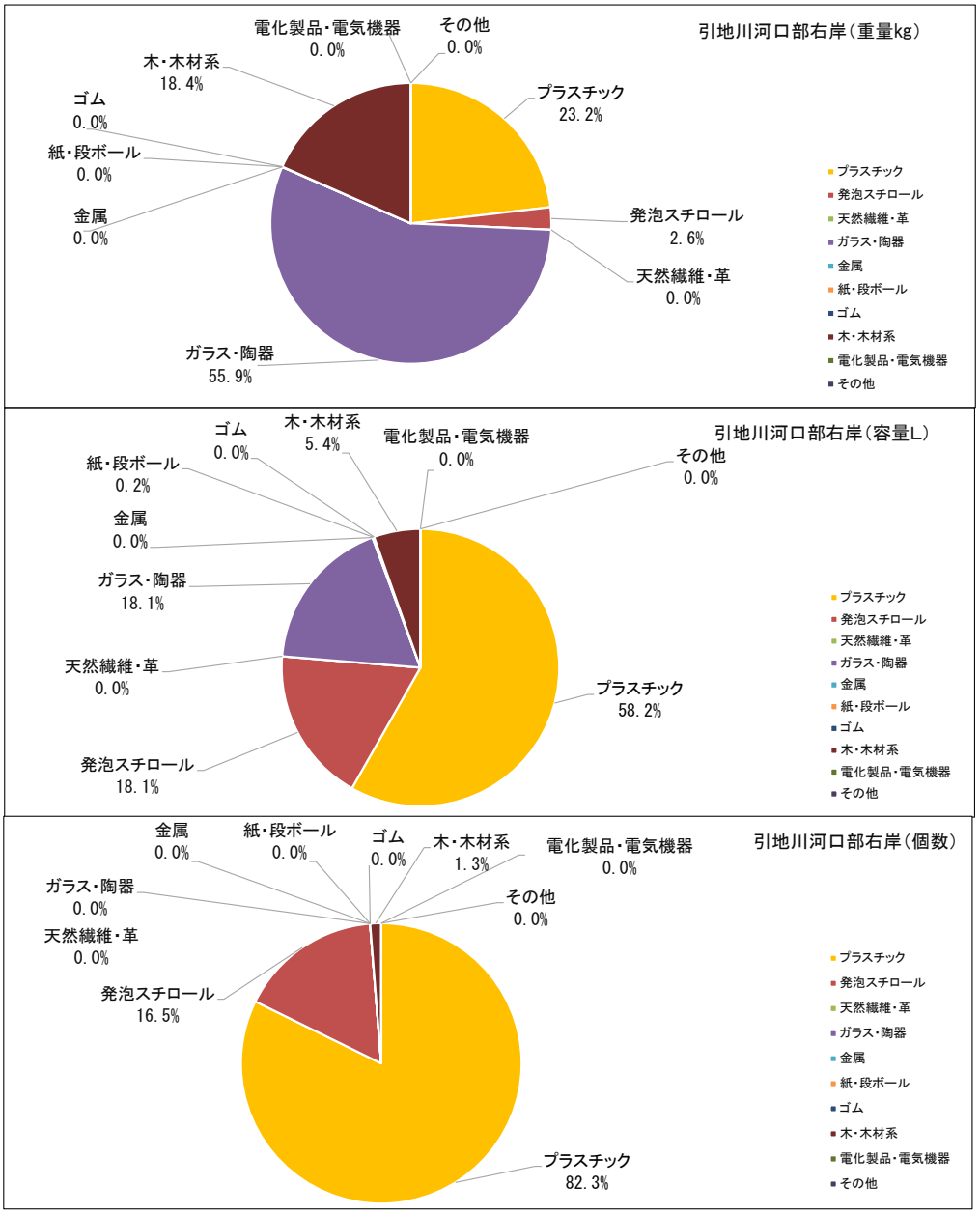


図 2.2-3（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.2-2（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.31	2.1	76
発泡スチロール	0.00	0.0	4
天然繊維・革	0.01	0.1	3
ガラス・陶器	0.11	0.1	2
金属	0.17	0.3	5
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	0.10	0.3	2
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.07	0.1	3
人工物合計	0.78	3.0	95

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

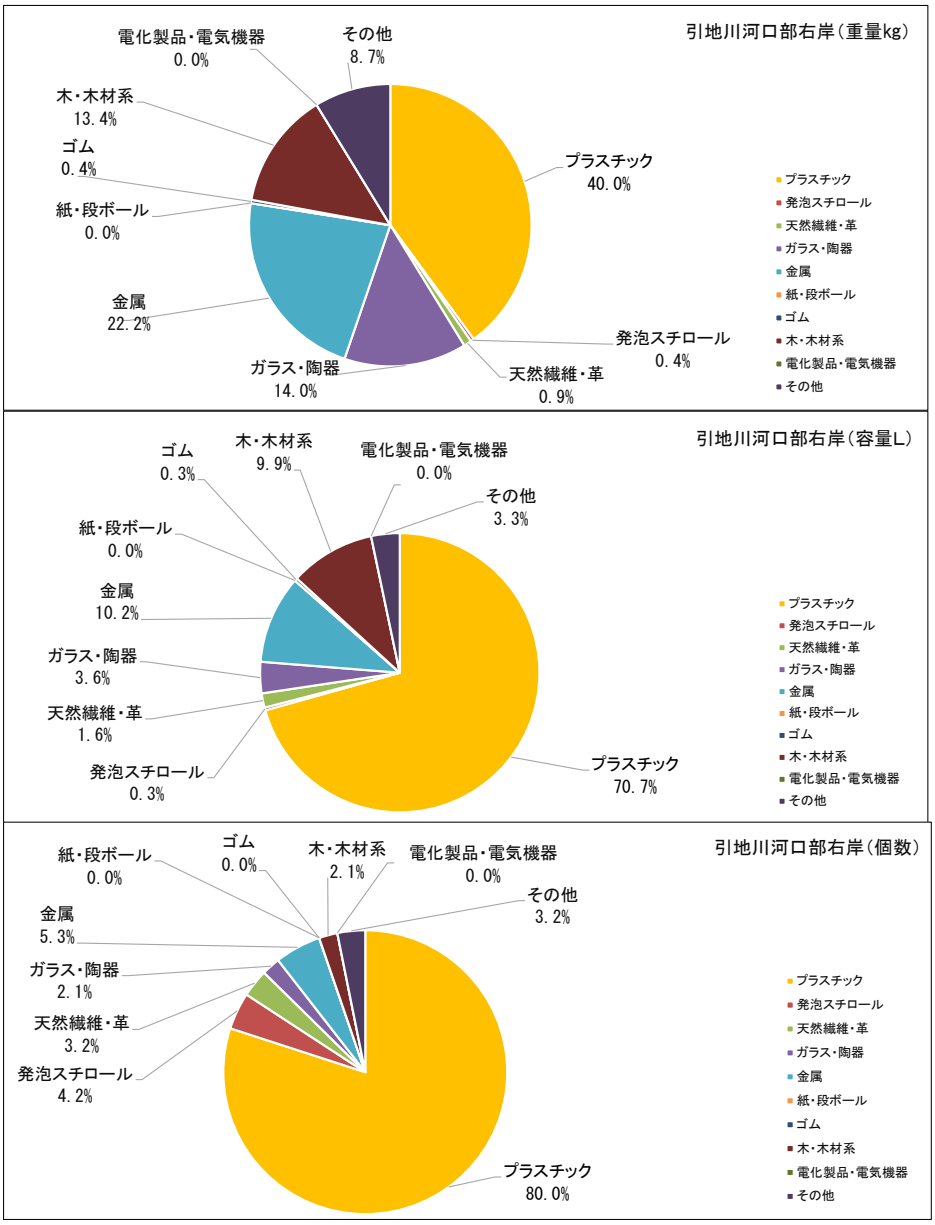


図 2.2-3（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.2-2（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.25	0.9	79
発泡スチロール	0.00	0.0	0
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.04	0.1	0
金属	0.01	0.0	1
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.01	0.0	1
木・木材系	0.09	0.5	4
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.02	0.1	11
人工物合計	0.42	1.6	96

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

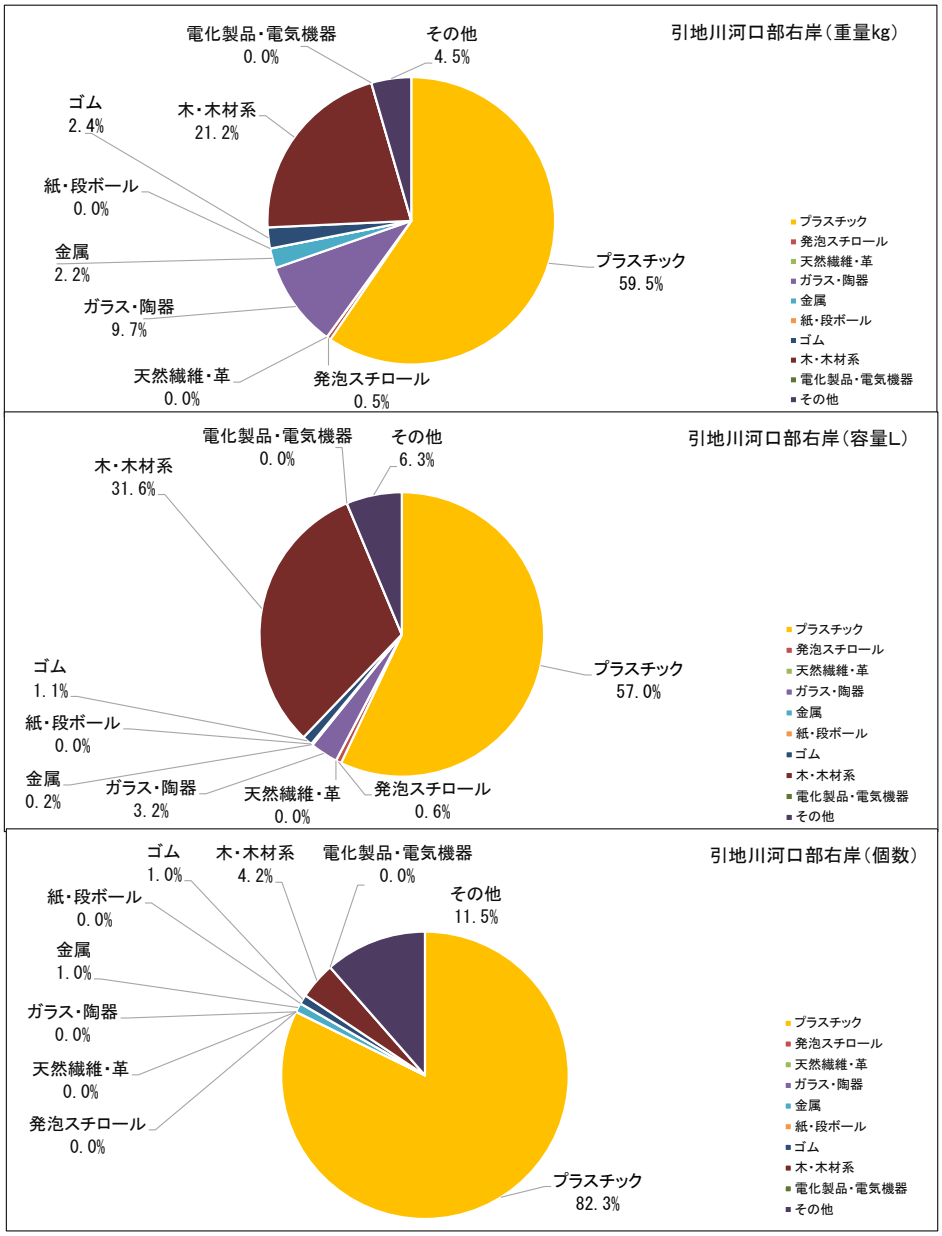


図 2.2-3（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.2-2（6）　人工物の大分類別の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.45	2.7	681
発泡スチロール	0.01	0.4	14
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.01	0.1	4
金属	0.00	0.0	1
紙・段ボール	0.00	0.0	1
ゴム	0.00	0.0	1
木・木材系	0.41	0.8	14
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.89	4.0	716

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

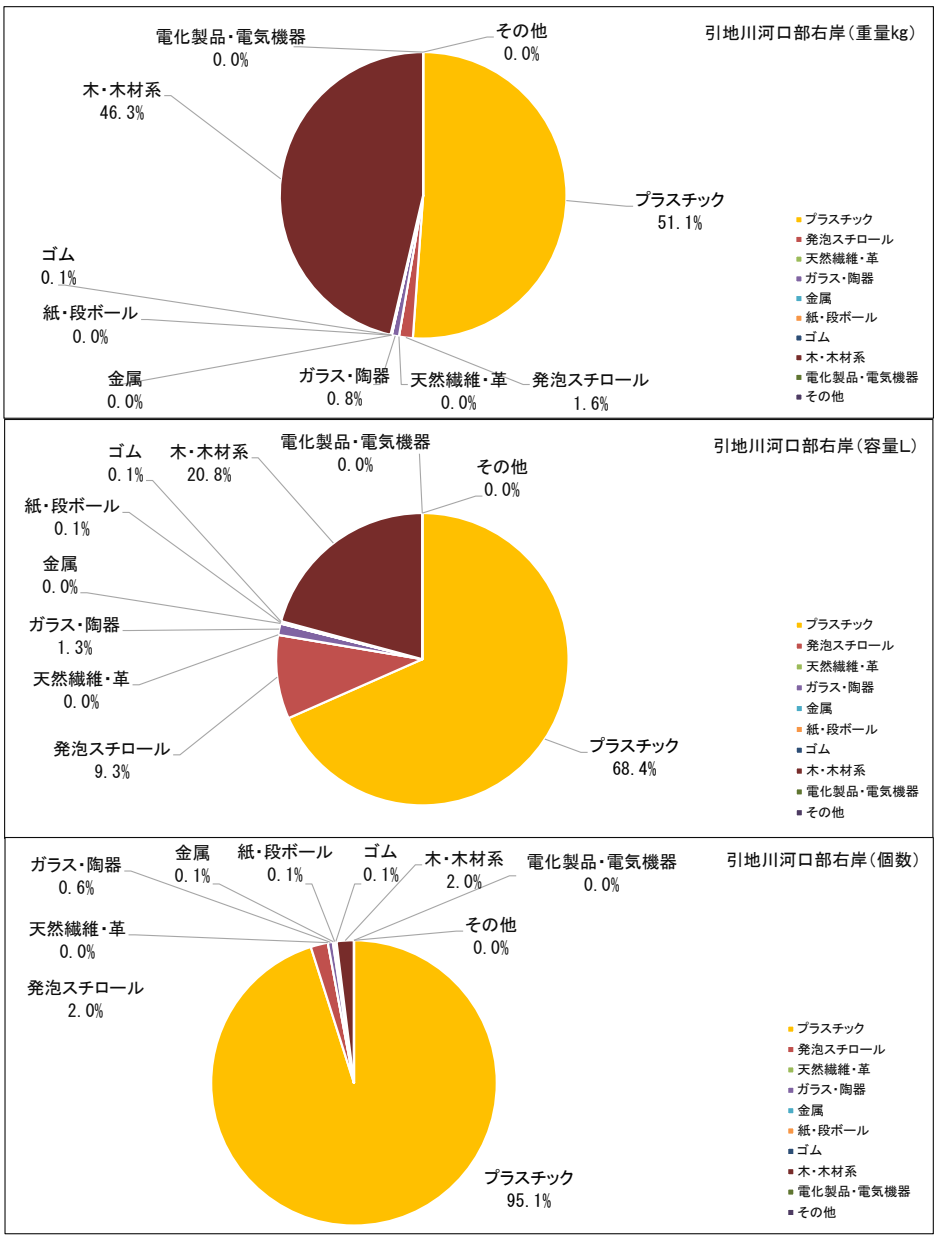


図 2.2-3（6）　人工物の大分類別の組成（R01 年度調査）

表 2.2-3（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.22	2.1	97
製品	0.75	3.2	98
漁具	0.11	0.4	11
合計	1.08	5.7	206

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

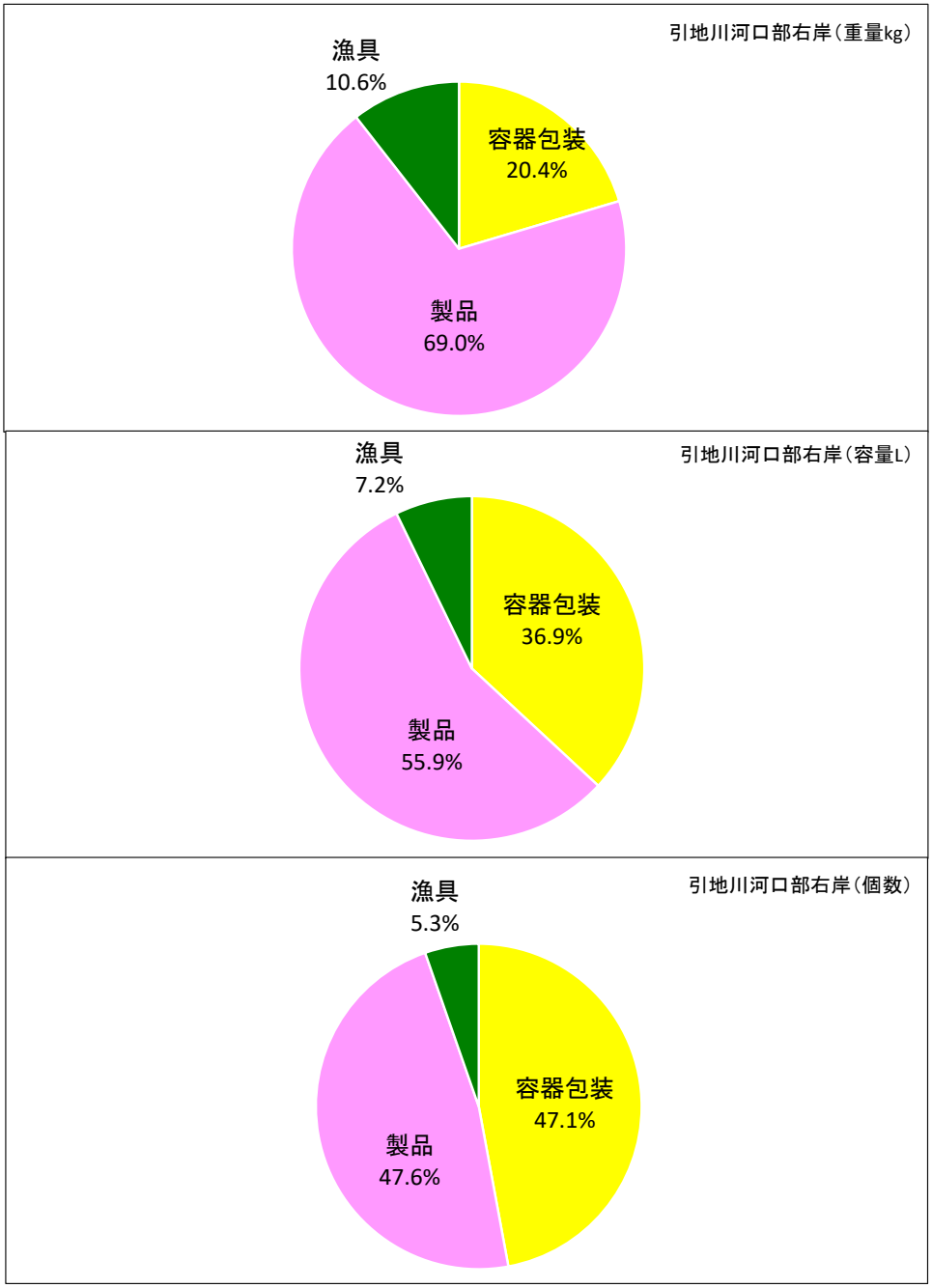


図 2.2-4（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

表 2.2-3（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.05	0.7	70
製品	0.82	4.8	502
漁具	0.02	0.1	12
合計	0.89	5.6	584

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

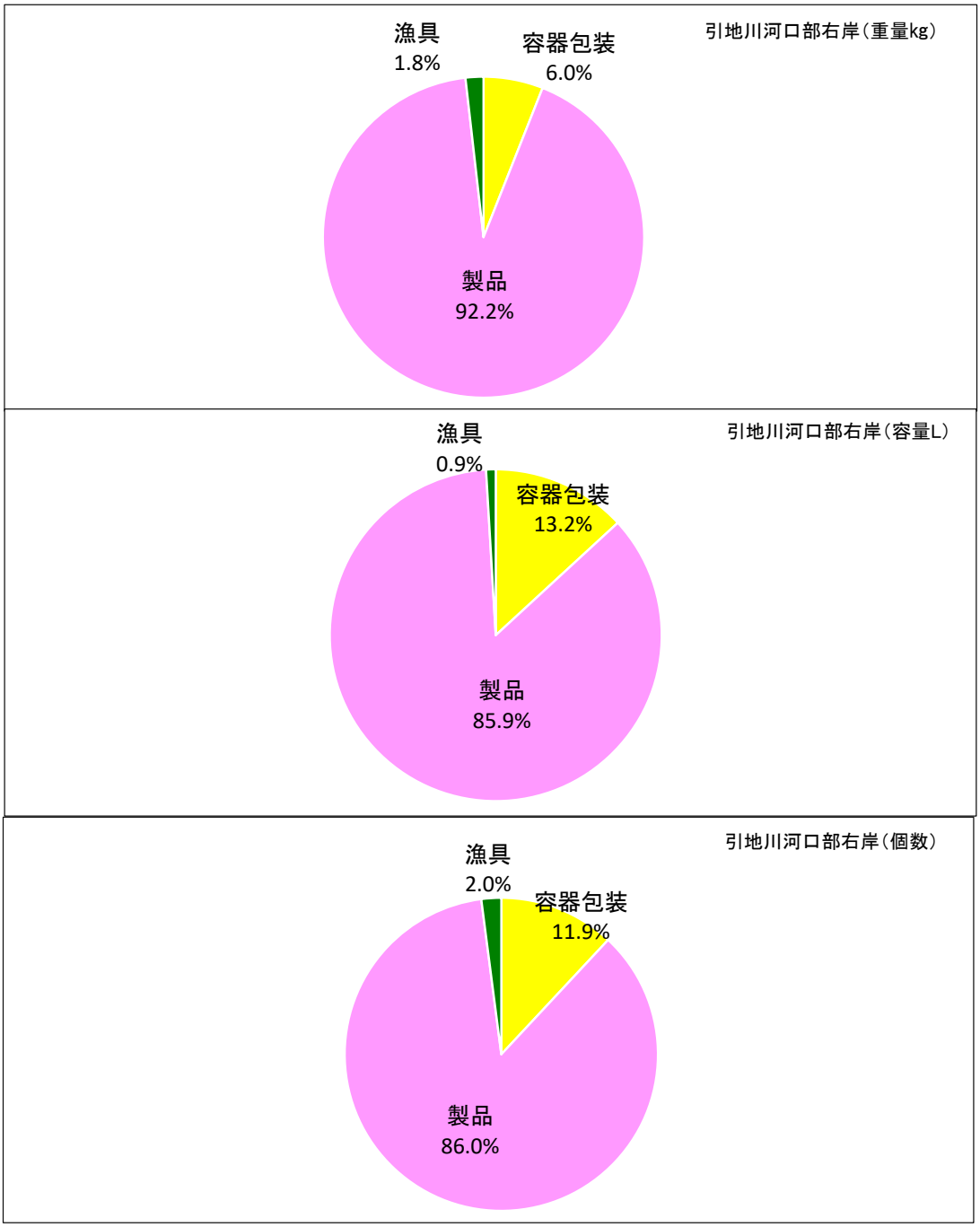


図 2.2-4（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

表 2.2-3（3）　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.00	0.0	22
製品	0.07	0.8	56
漁具	0.00	0.0	0
合計	0.07	0.8	78

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

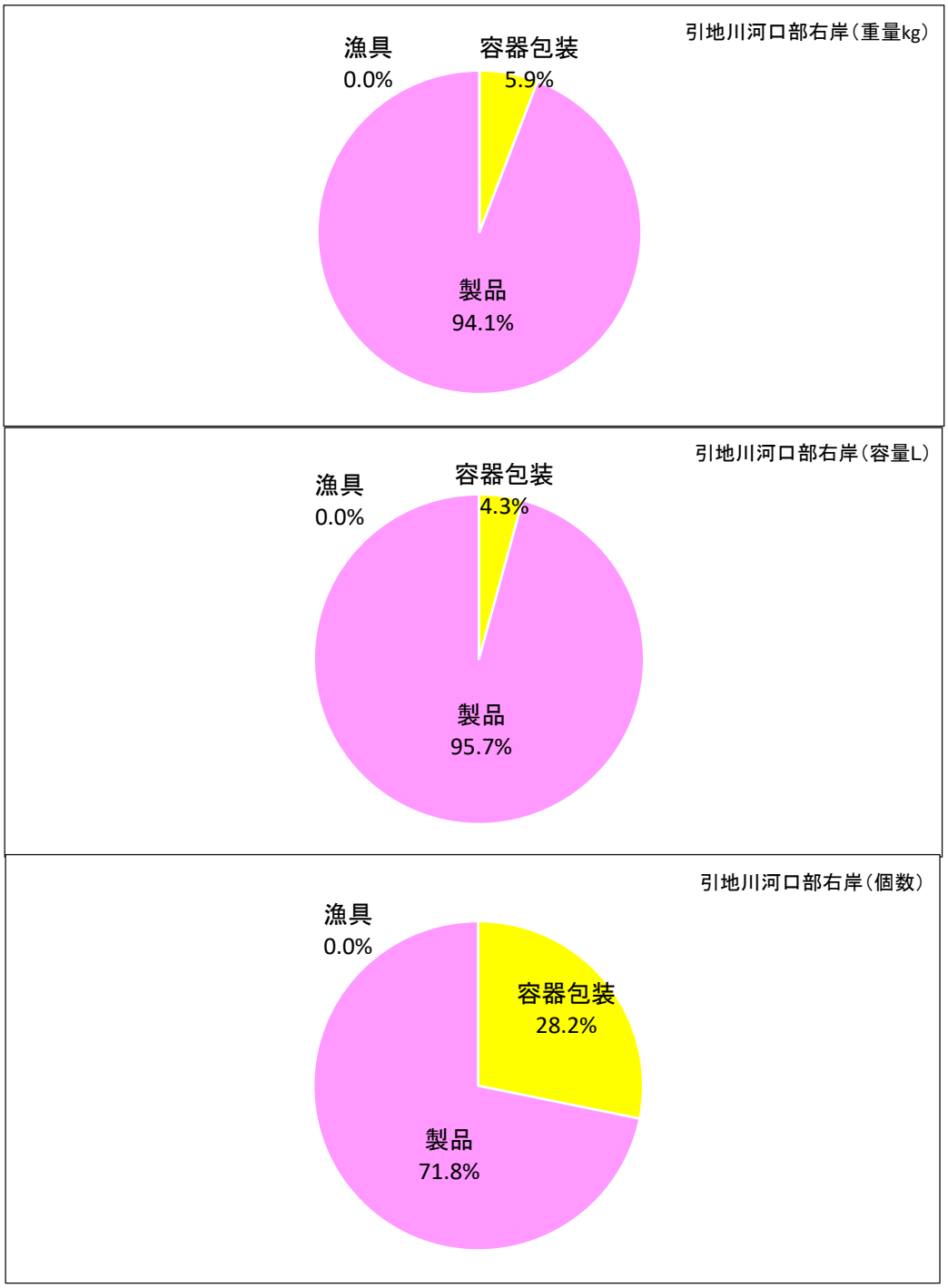


図 2.2-4（3）　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

表 2.2-3（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.03	0.2	17
製品	0.27	1.9	55
漁具	0.01	0.1	8
合計	0.31	2.2	80

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

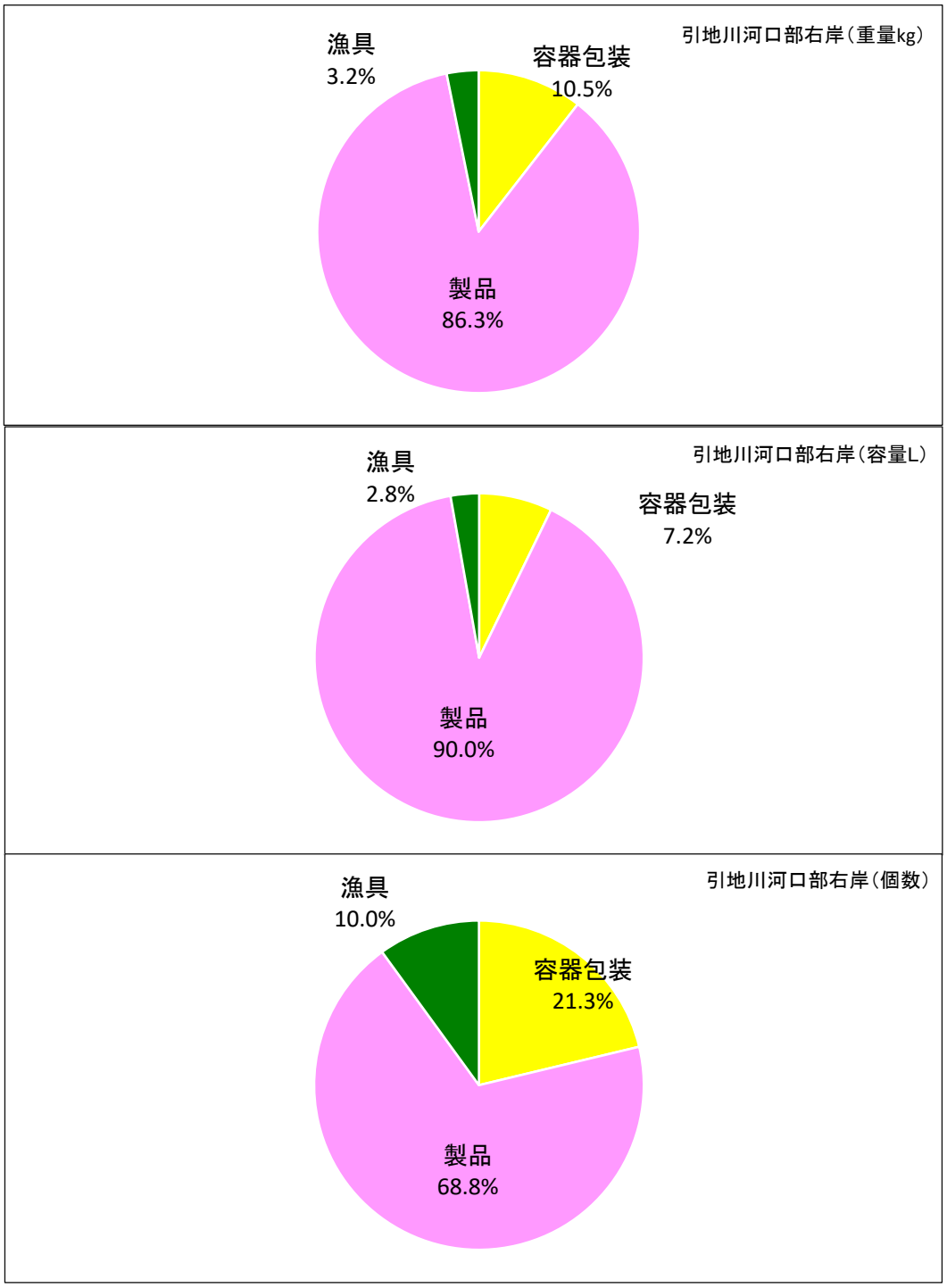


図 2.2-4（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

表 2.2-3（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.04	0.3	18
製品	0.20	0.6	55
漁具	0.01	0.0	6
合計	0.25	0.9	79

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

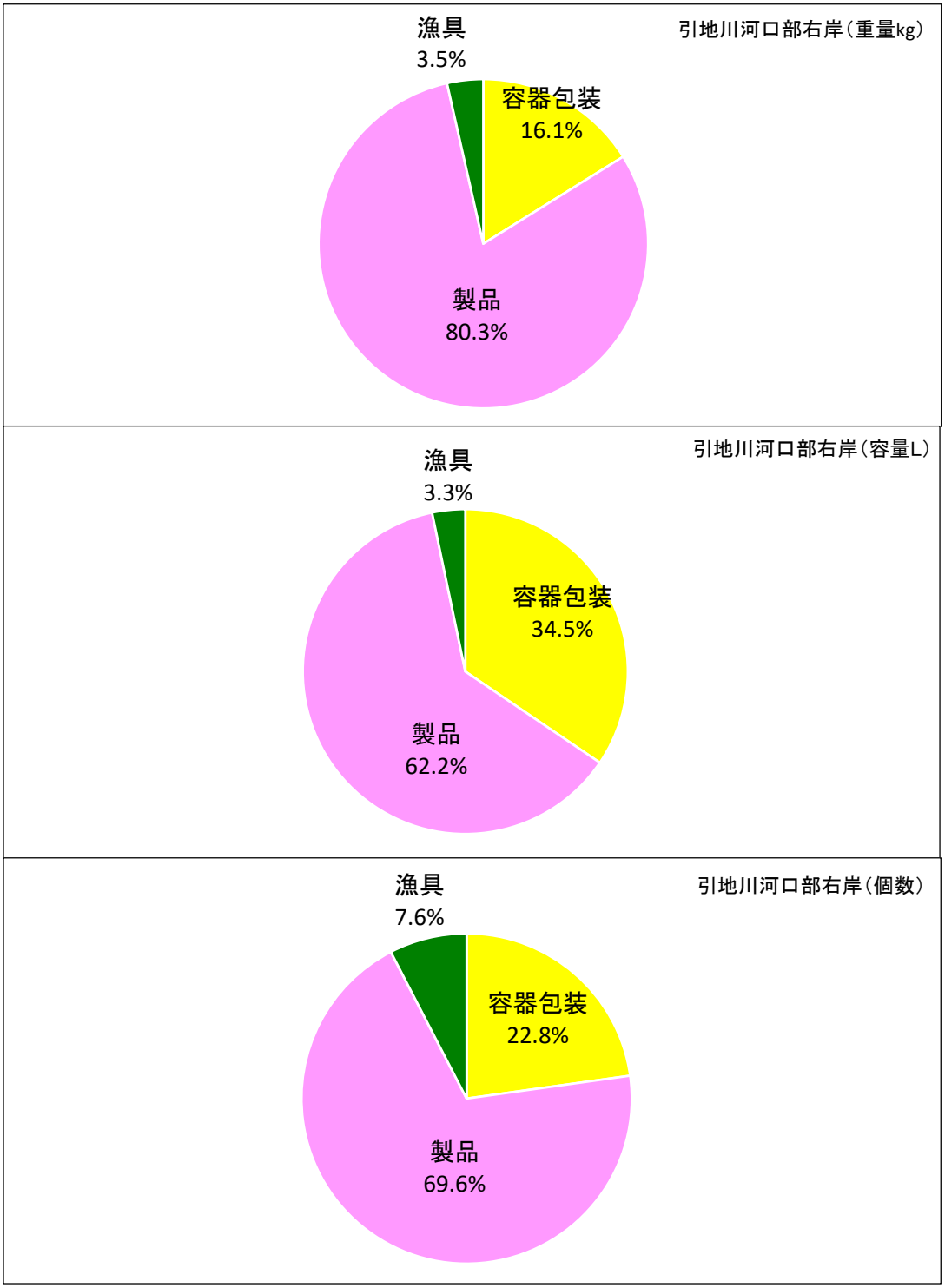


図 2.2-4（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

表 2.2-3（6）　プラスチックの容器包装等の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.01	0.2	32
製品	0.46	2.9	660
漁具	0.00	0.0	3
合計	0.47	3.1	695

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

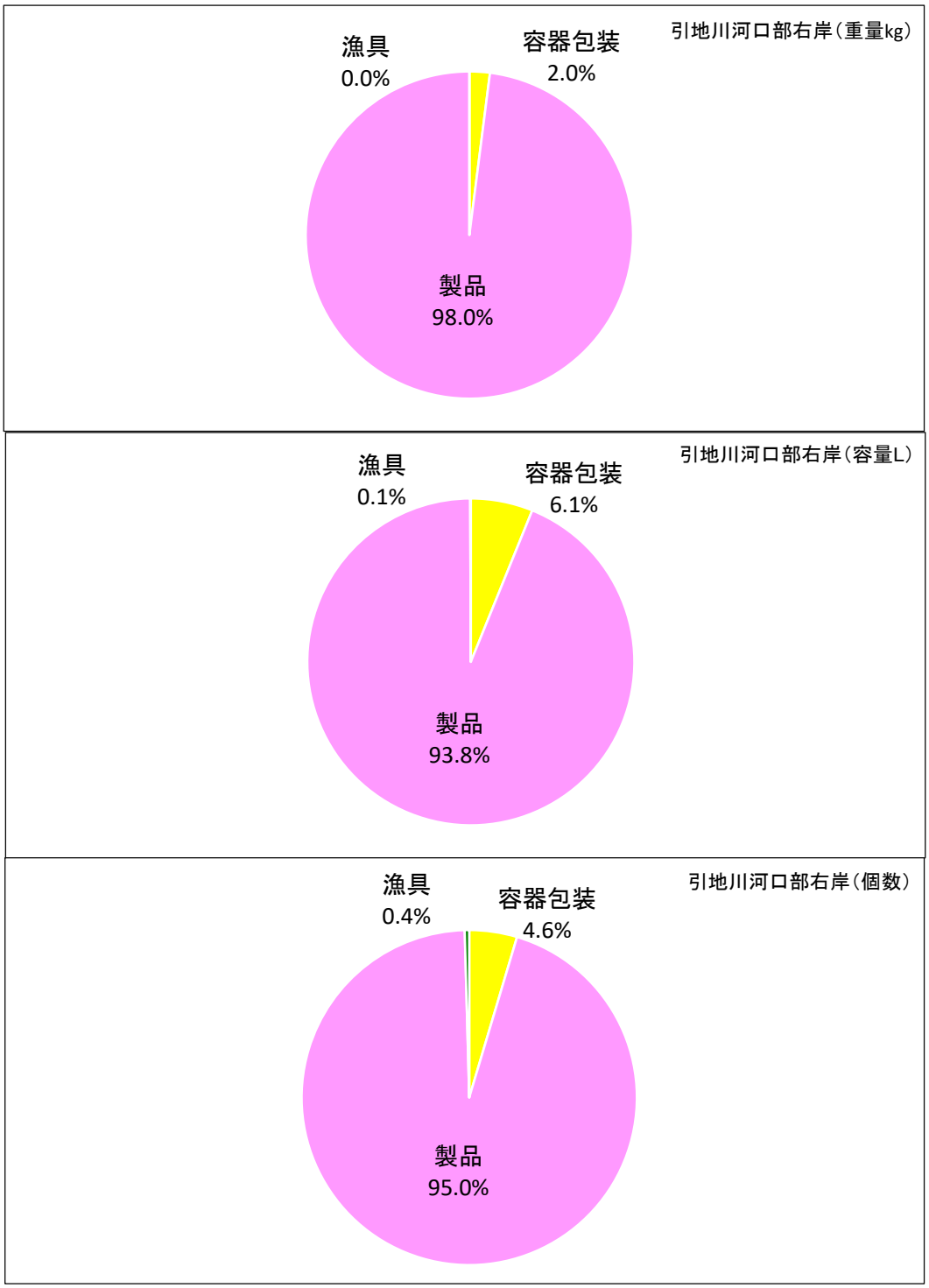


図 2.2-4（6）　プラスチックの容器包装等の組成（R01 年度調査）

2.2.2発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.2-4 に示す。

本年度調査では、ペットボトルのキャップは日本 17 個、不明 7 個、漁業用の浮子は中国・台湾 1 個であった。

これまでの調査で特定できた製造国は、不明を除いてほとんどが日本であった。

表 2.2-4　製造国の特定結果

	ペットボトル		ペットボトルのキャップ		漁業用の浮子	
	本年度調査	R1～R6の合計	本年度調査	R1～R6の合計	本年度調査	R1～R6の合計
日本	0	0	17	27	0	0
中国・台湾	0	0	0	0	1	1
韓国	0	0	0	1	0	0
不明	0	0	7	15	0	0
合計	0	0	24	43	1	1

2.3 金目川河口部左岸（平塚市）

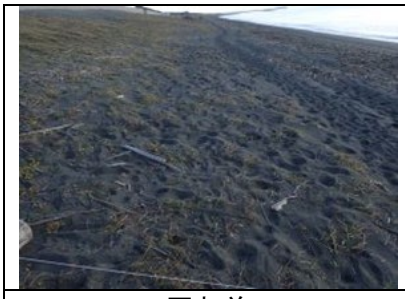
2.3.1組成調査

(1) 現地の状況等

金目川河口部左岸（平塚市）での状況写真は、図 2.3-1 に示す。

本海岸には、ビーチバレーのコートがあり、清掃もゆきとどいていた。それから１km 程度離れた場所に調査地点がある。大きな漂着ごみはほとんど見られなかったが、波打ち際から海岸の奥側にかけて灌木が漂着していた。その大きさから通常の清掃の回収の対象となっていないものと思われた。その中側や下側に、主に小さなプラスチック類が散在しており、これらが、主な人工物である。

過年度調査（R01～R05）でも同様な状況であった。



回収前

回収後

回収作業

図 2.3-1　金目川河口部左岸（平塚市）での状況写真

(2) ３分類別の組成

３分類別の組成は、表 2.3-1、図 2.3-2 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 290.62kg、容量 2,013.0Ｌ、個数 426 個であった。３分類別の組成は、重量、容量では自然物（灌木、流木）がそれぞれ 93.4%、99.3%、個数では人工物（漁具を除く）が 89.9%と最も多かった。なお、灌木の個数は環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R01～R05）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 0.0～0.4 倍で、容量で 0.0～1.1 倍、個数で 0.1～0.9 倍と少なかった。３分類別の組成は、重量、容量で自然物が多いこと、個数で人工物（漁具を除く）が多いことから、重量、容量、個数ともに比較的類似していた。

(3) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.3-2、図 2.3-3 に示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量では木・木材系が 95.1%、容量、個数ではプラスチックがそれぞれ 45.6%、49.2%と最も多かった。これらは、木・木材系では木材が多くを占めていたが、プラスチックでは多様な品目が占めていた。

過年度調査（R01～R05）での人工物は、本年度調査の重量で 0.0～0.1 倍で、容量で 0.1～3.2 倍、個数で 0.1～1.0 倍と変動幅が大きい傾向にあり、今回の重量は他の調査回と比べて多かった。人工物の大分類別の組成は、プラスチック、木・木材系が多いこと、年度によってはガラス・陶器、金属、ゴムなどの割合が多くなることがあるが、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

(4) プラスチックの容器包装等の組成

プラスチックの容器包装等の組成は、表 2.3-3、図 2.3-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量ともに、製品がそれぞれ 79.0%、63.3%、個数は容器包装が 60.3%と最も多かった。重量、容量の割合が多かった製品は、シートや

袋の破片、硬質プラスチック破片、ウレタンで、個数の割合が多かった容器包装は、食品容器（発泡スチロール）であった。

過年度調査（R01～R05）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で 0.1～2.1 倍で、容量で 0.1～3.8 倍、個数で 0.0～1.0 倍と変動幅が大きかった。プラスチックの容器包装等の組成は、製品の割合が多いこと、年度によっては容器包装の割合が多いことから、重量、容量、個数ともにやや類似していた。

表 2.3-1（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	19.03	13.2	383
漁具	0.01	0.1	5
自然物	271.58	1,999.7	38
合計	290.62	2,013.0	426

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

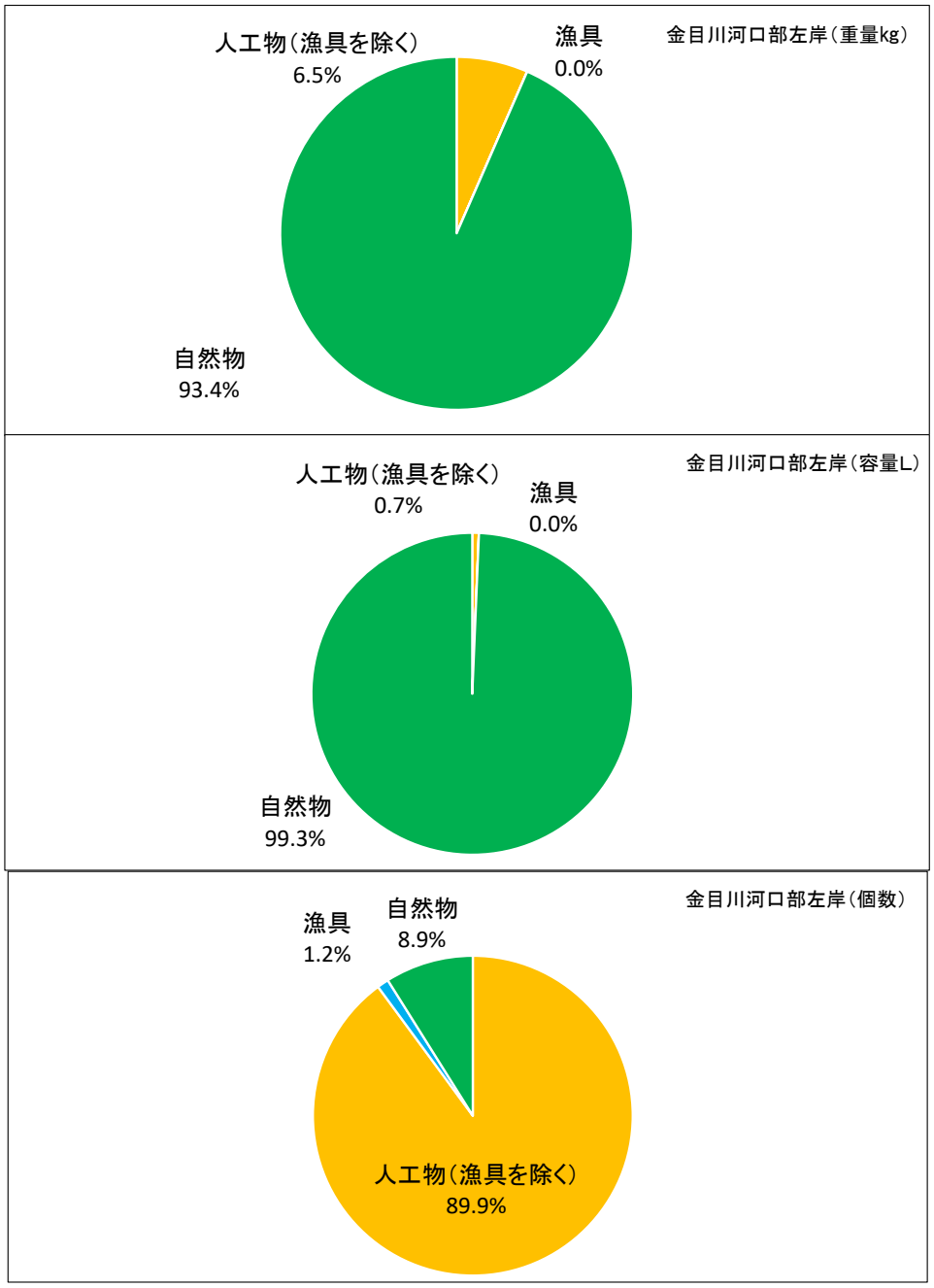


図 2.3-2（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.3-1（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.68	16.5	278
漁具	0.00	0.0	1
自然物	50.70	269.4	1
合計	53.38	285.9	280

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

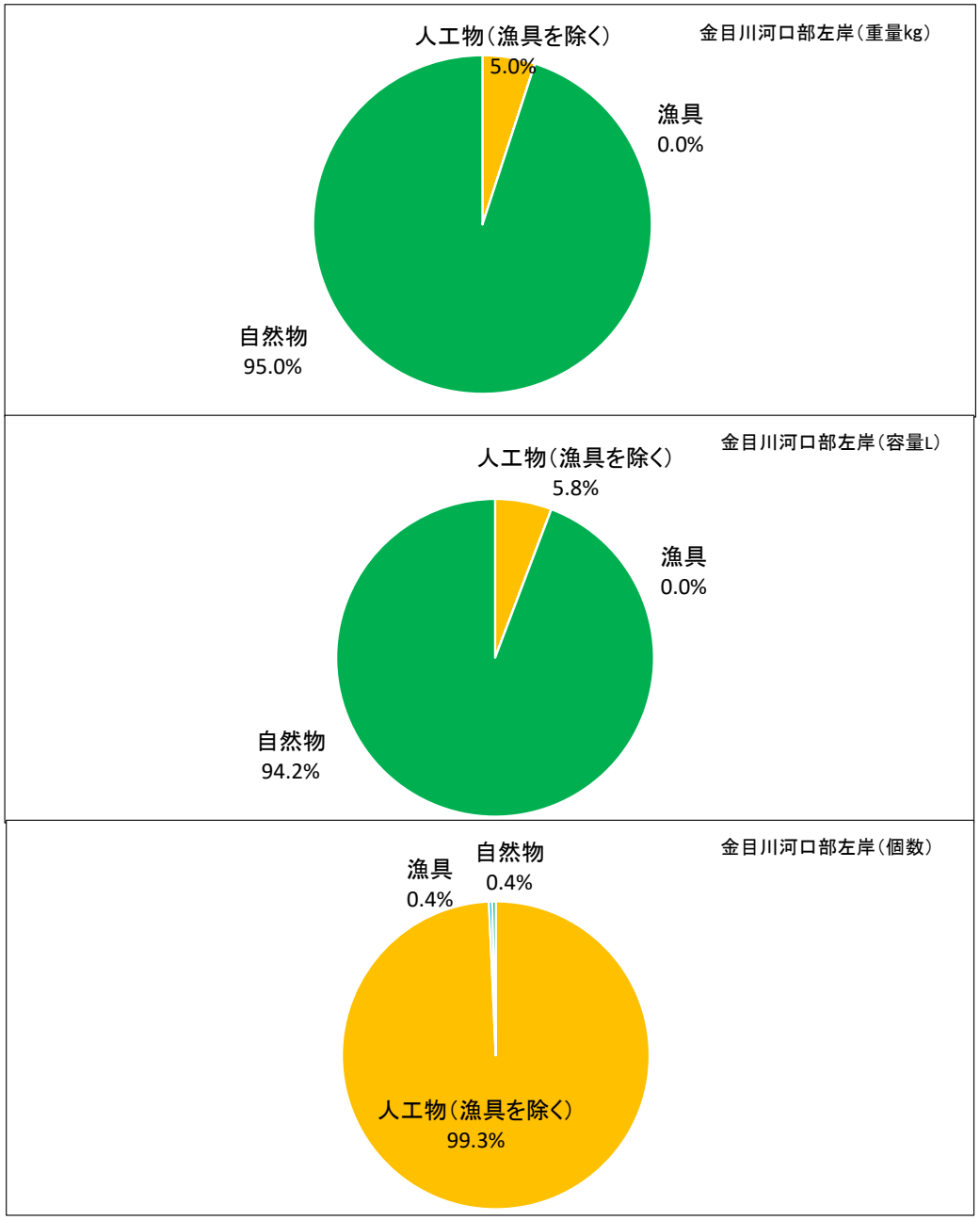


図 2.3-2（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.3-1 (3)　３分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.68	23.6	353
漁具	0.00	0.0	6
自然物	29.20	385.0	4
合計	31.88	408.7	363

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

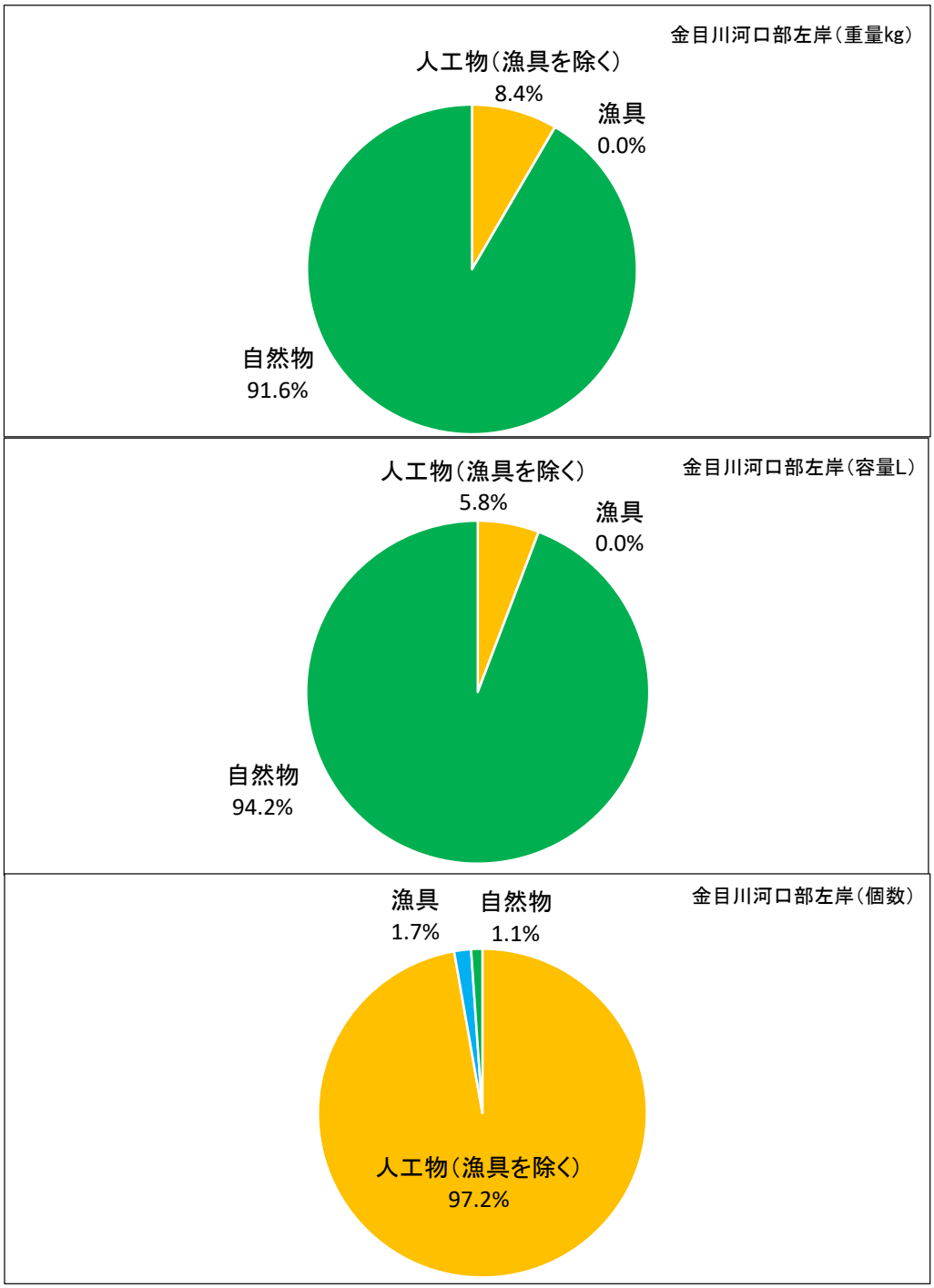


図 2.3-2 (3)　３分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.3-1（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.57	41.9	382
漁具	0.05	0.1	8
自然物	99.56	2092.7	1
合計	102.18	2134.7	391

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

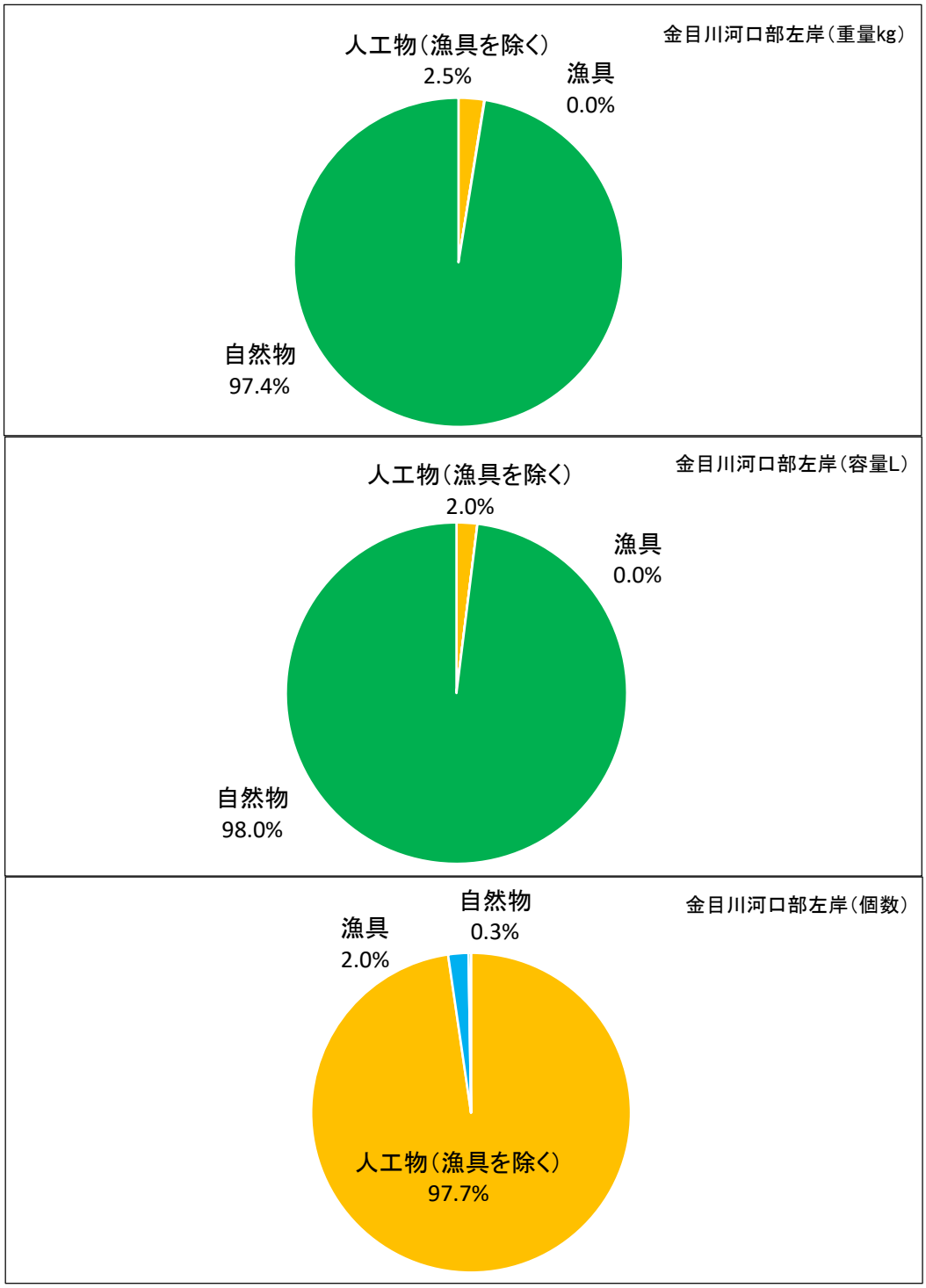


図 2.3-2（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.3-1（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.23	1.7	19
漁具	0.00	0.0	2
自然物	5.06	90.2	2
合計	5.29	91.9	23

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

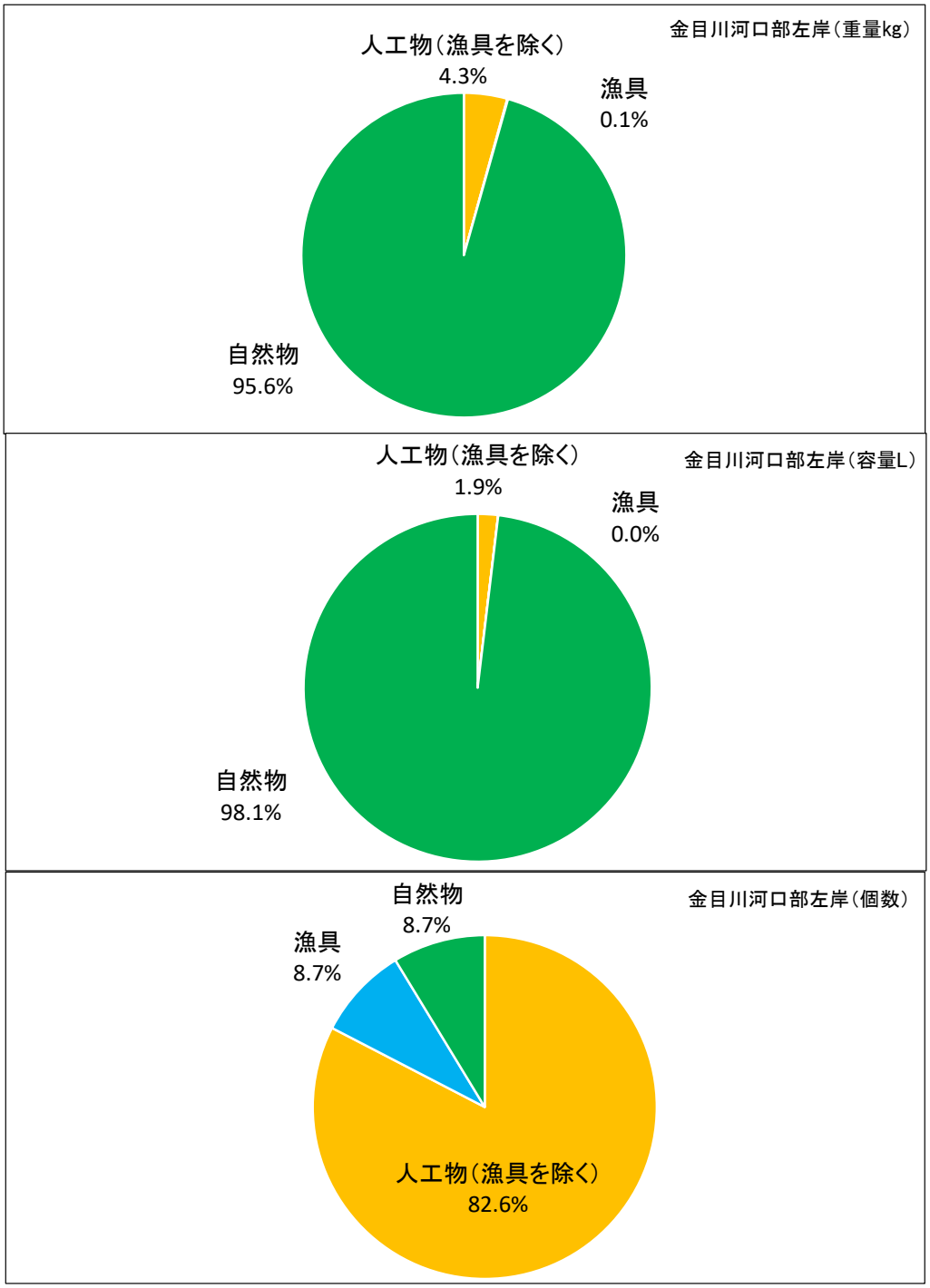


図 2.3-2（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.3-1（6）　３分類別の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	1.57	14.4	148
漁具	0.00	0.0	2
自然物	86.61	1,297.2	56
合計	88.18	1,311.7	206

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

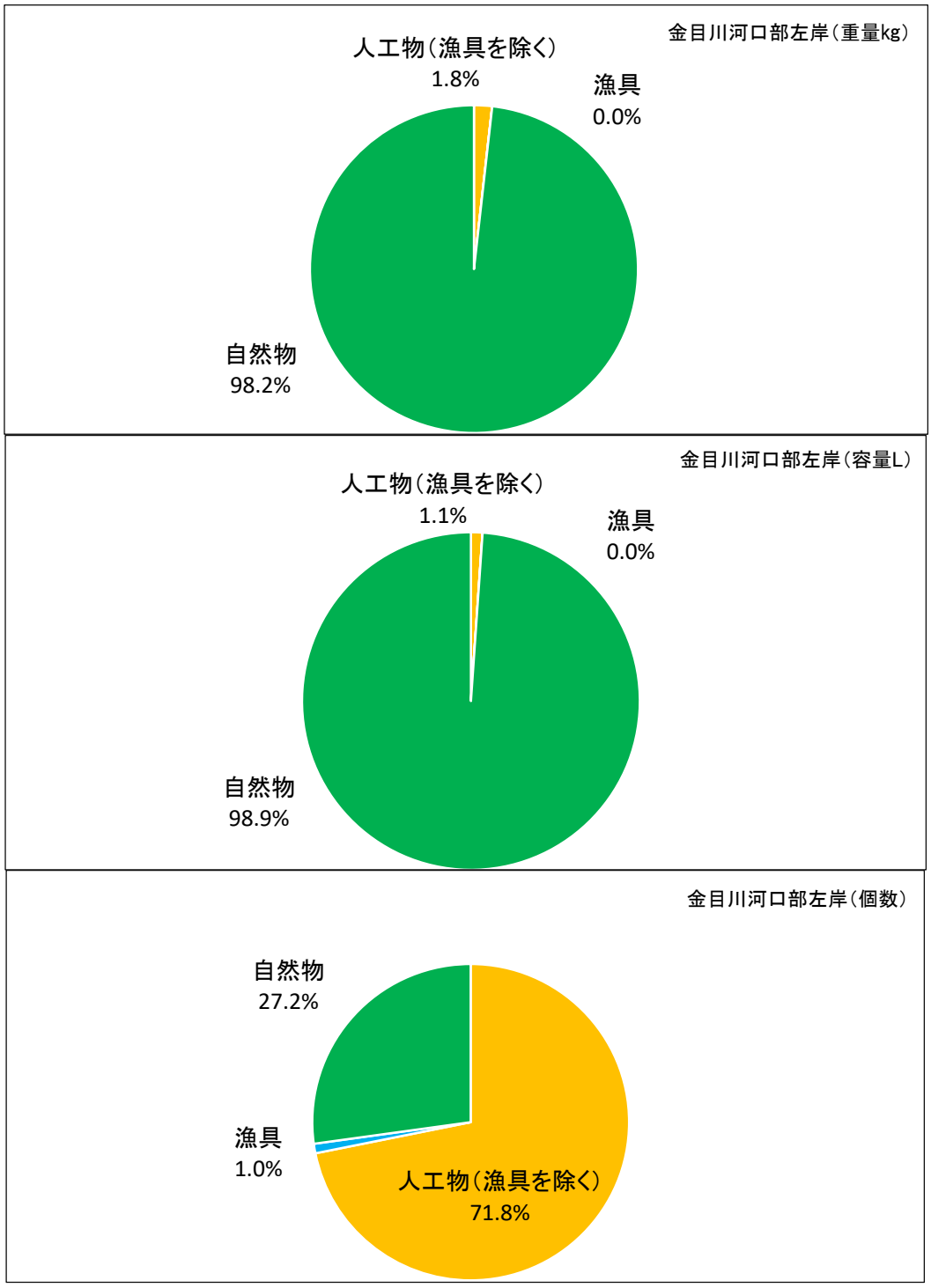


図 2.3-2（6）　３分類別の組成（R01 年度調査）

表 2.3-2（1）　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.59	6.1	191
発泡スチロール	0.07	3.5	169
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.10	0.2	1
金属	0.13	0.4	3
紙・段ボール	0.01	0.2	2
ゴム	0.01	0.2	2
木・木材系	18.10	2.7	12
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.03	0.2	8
人工物合計	19.04	13.3	388

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

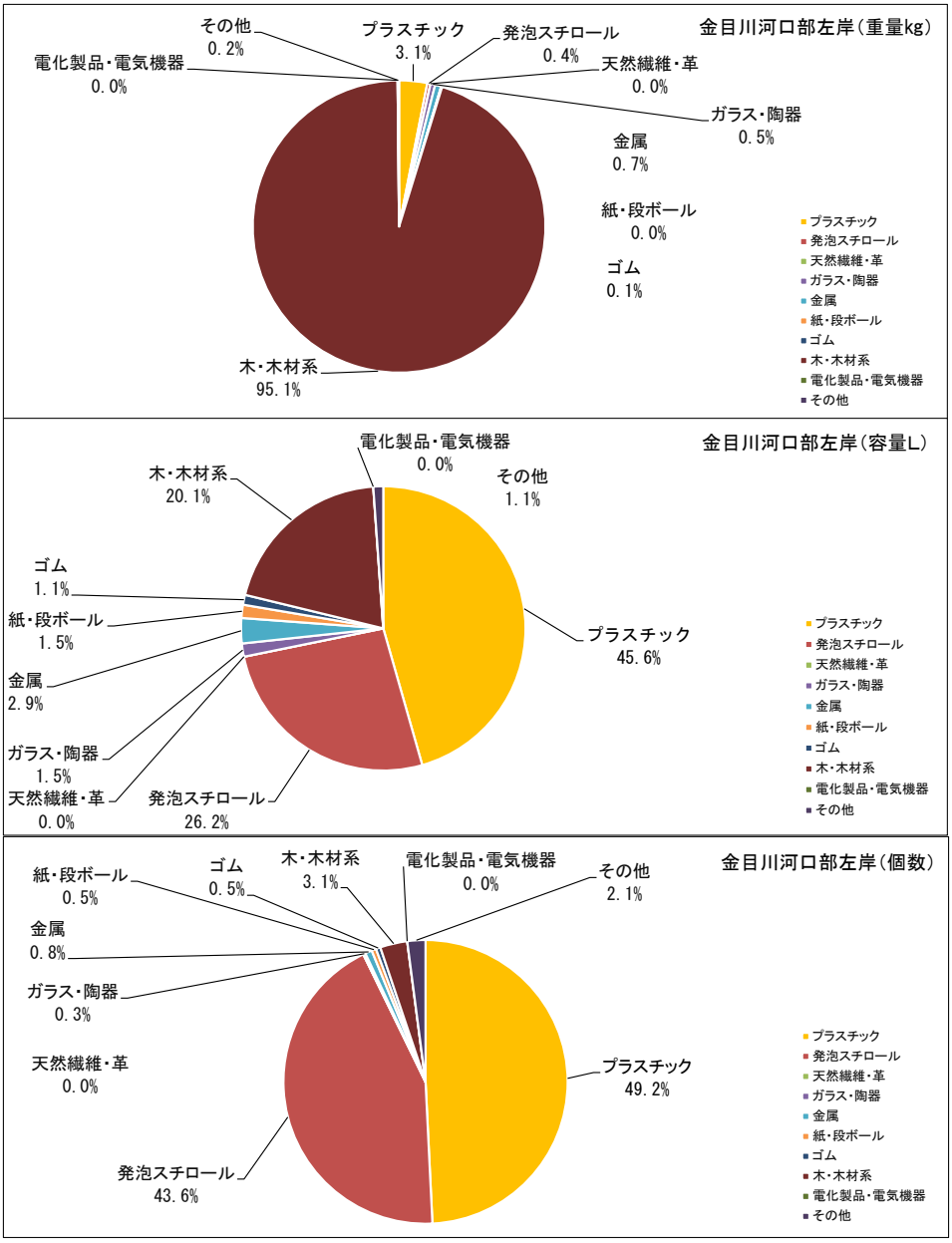


図 2.3-3（1）　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.3-2（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.45	8.2	193
発泡スチロール	0.01	0.2	17
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.06	0.1	0
金属	0.44	1.5	38
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.01	0.1	4
木・木材系	1.51	6.0	17
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.20	0.4	10
人工物合計	2.68	16.5	279

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

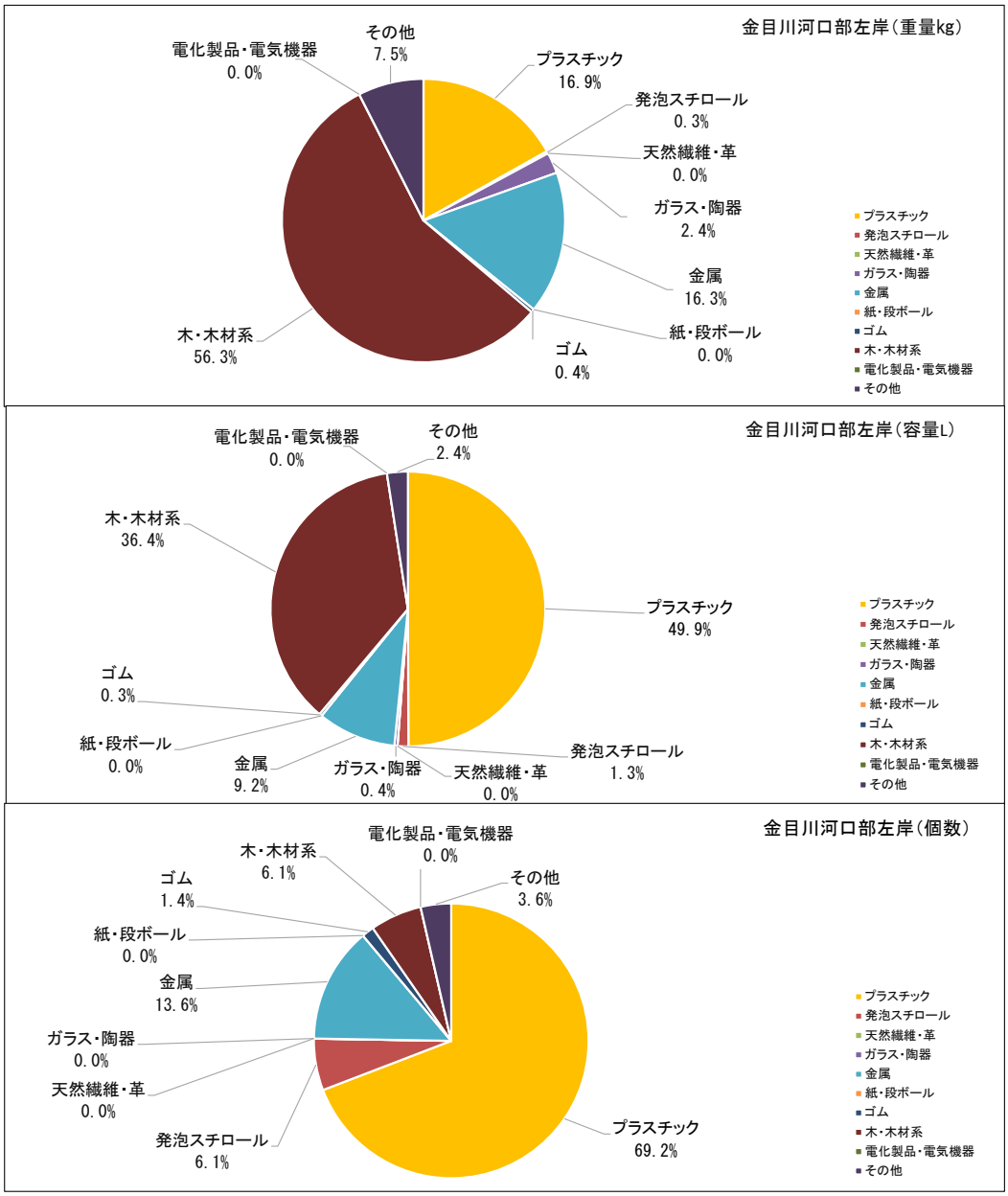


図 2.3-3（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.3-2（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.60	8.1	218
発泡スチロール	0.04	2.1	75
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	0
金属	0.01	0.2	8
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.41	8.0	1
木・木材系	1.58	4.9	39
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.03	0.5	18
人工物合計	2.68	23.7	359

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

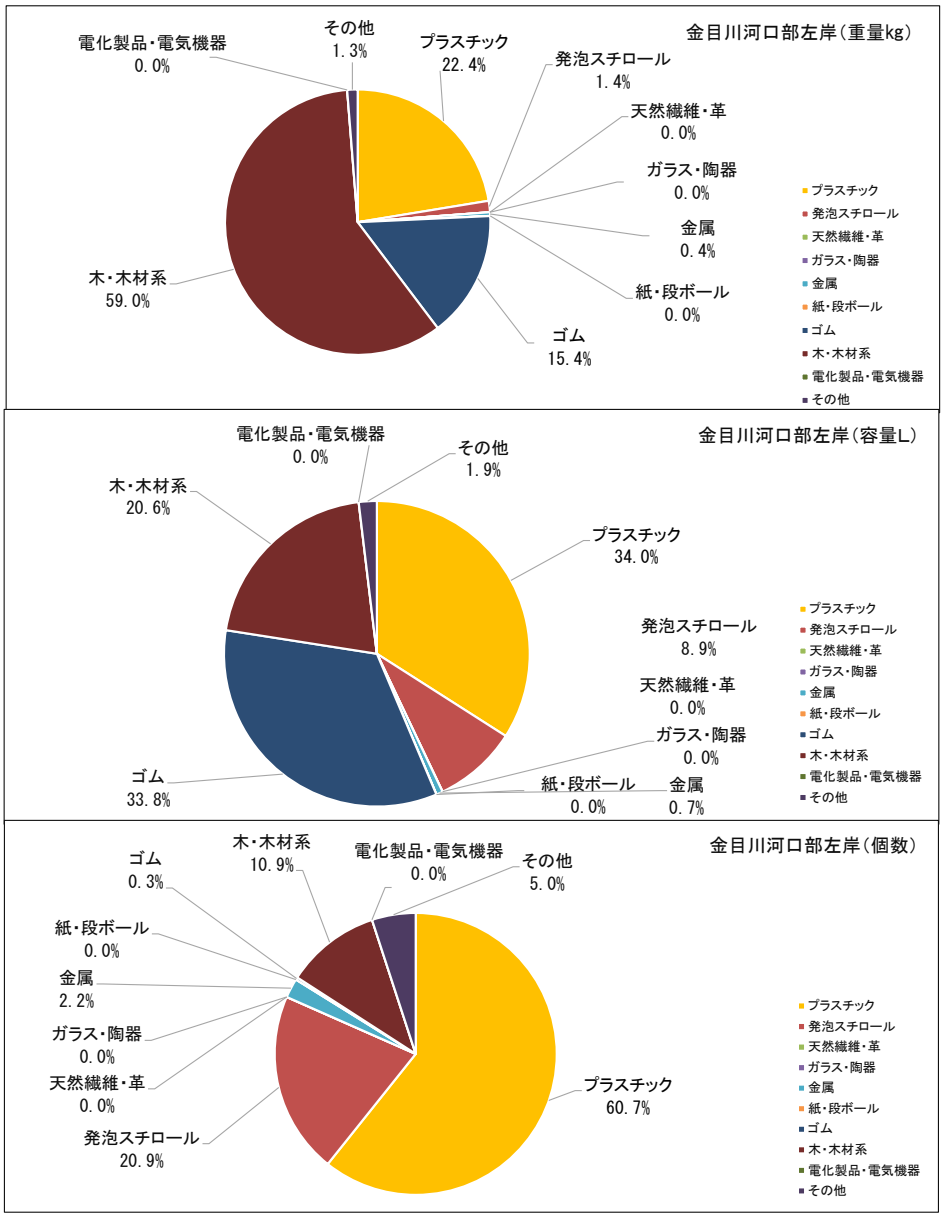


図 2.3-3（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.3-2（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	1.36	35.3	358
発泡スチロール	0.03	1.2	8
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.10	0.3	1
金属	0.18	0.7	5
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.07	0.3	2
木・木材系	0.84	4.0	8
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.05	0.4	8
人工物合計	2.62	42.0	390

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

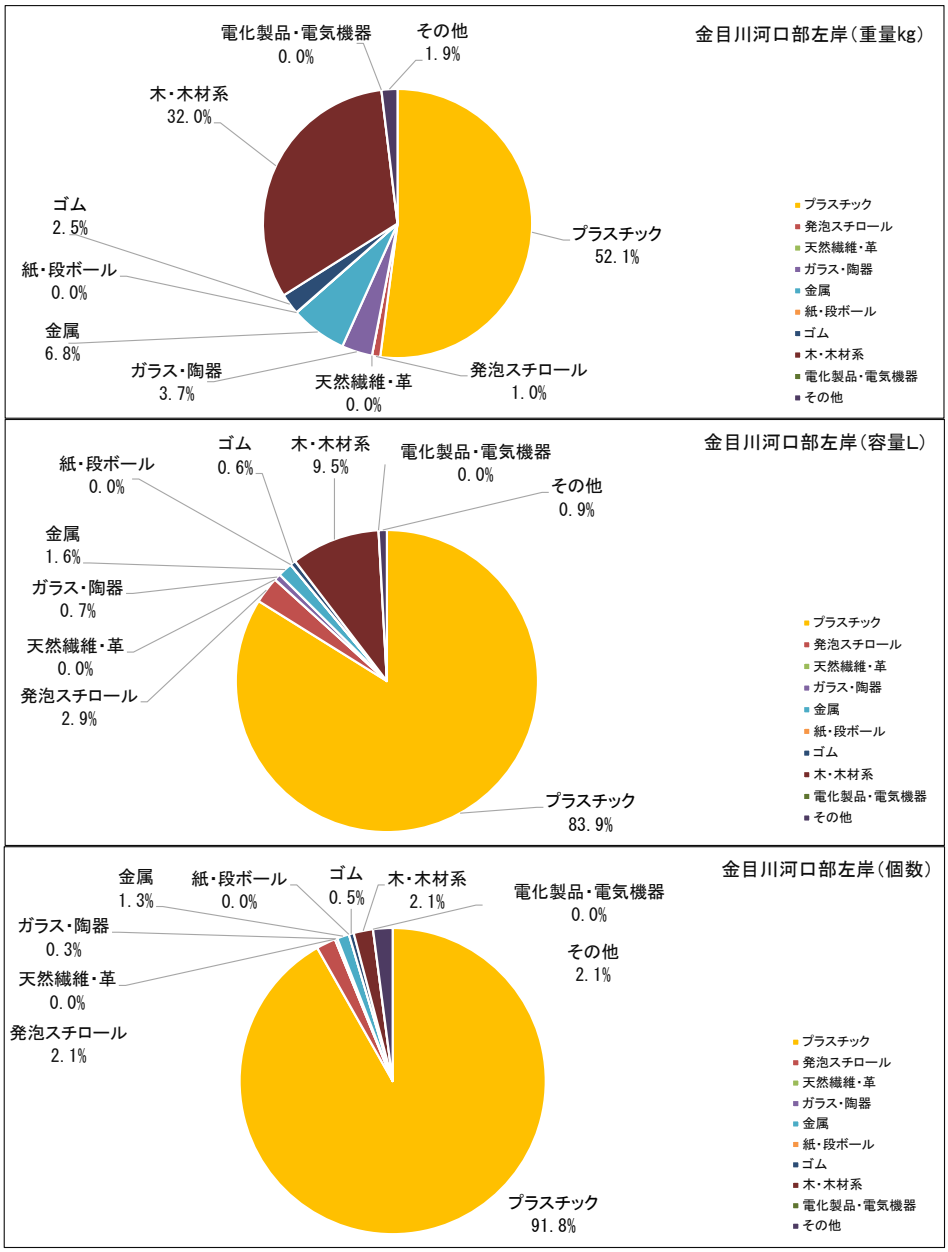


図 2.3-3（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.3-2（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.07	1.3	11
発泡スチロール	0.01	0.2	2
天然繊維・革	0.00	0.0	1
ガラス・陶器	0.10	0.1	1
金属	0.01	0.1	3
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	0.03	0.1	2
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.1	1
人工物合計	0.23	1.7	21

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

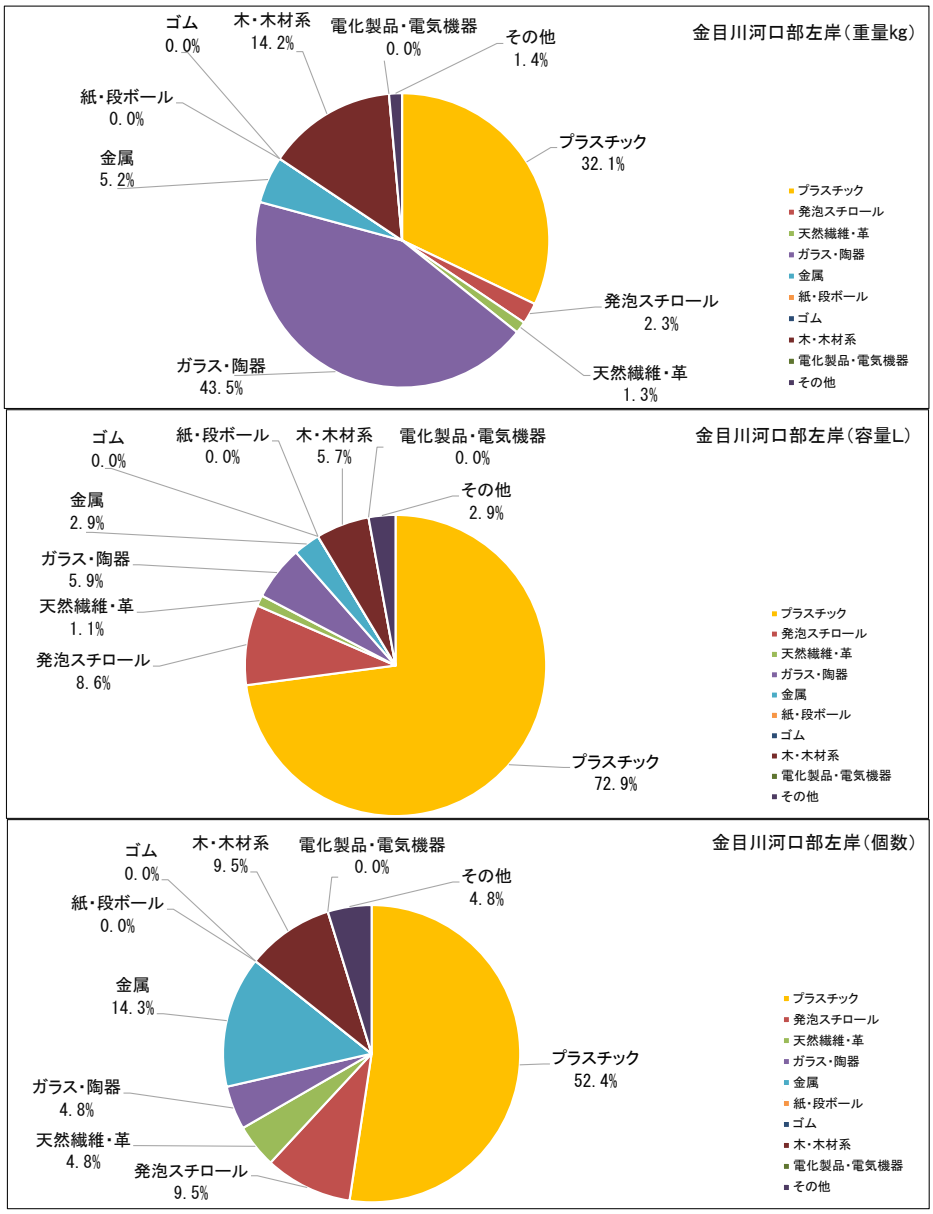


図 2.3-3（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.3-2（6）　人工物の大分類別の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.64	6.5	94
発泡スチロール	0.04	3.1	32
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	1
金属	0.16	1.0	10
紙・段ボール	0.00	0.2	1
ゴム	0.11	0.7	2
木・木材系	0.62	3.0	10
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	1.57	14.5	150

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

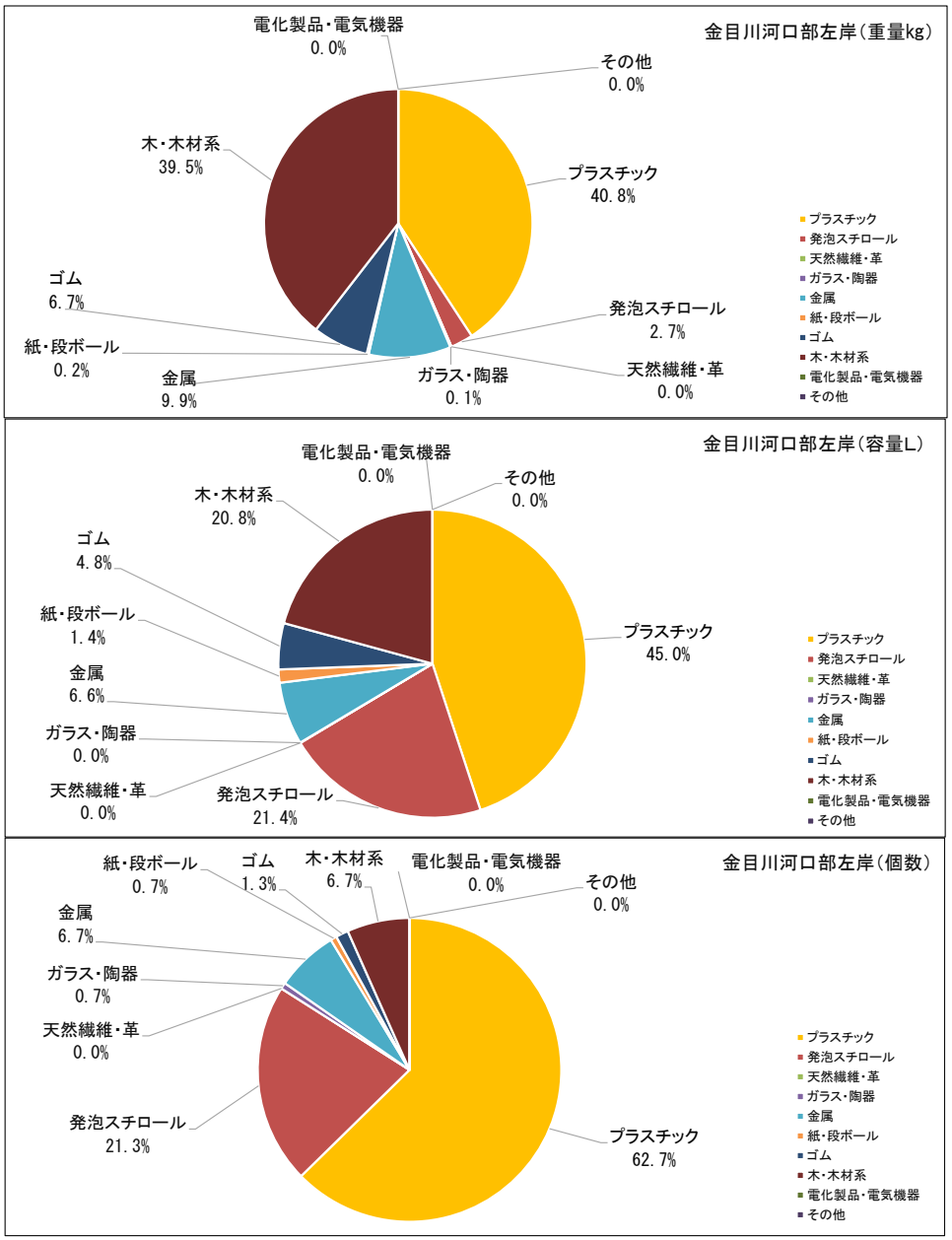


図 2.3-3（6）　人工物の大分類別の組成（R01 年度調査）

表 2.3-3（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.13	3.4	217
製品	0.52	6.1	138
漁具	0.01	0.1	5
合計	0.66	9.6	360

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

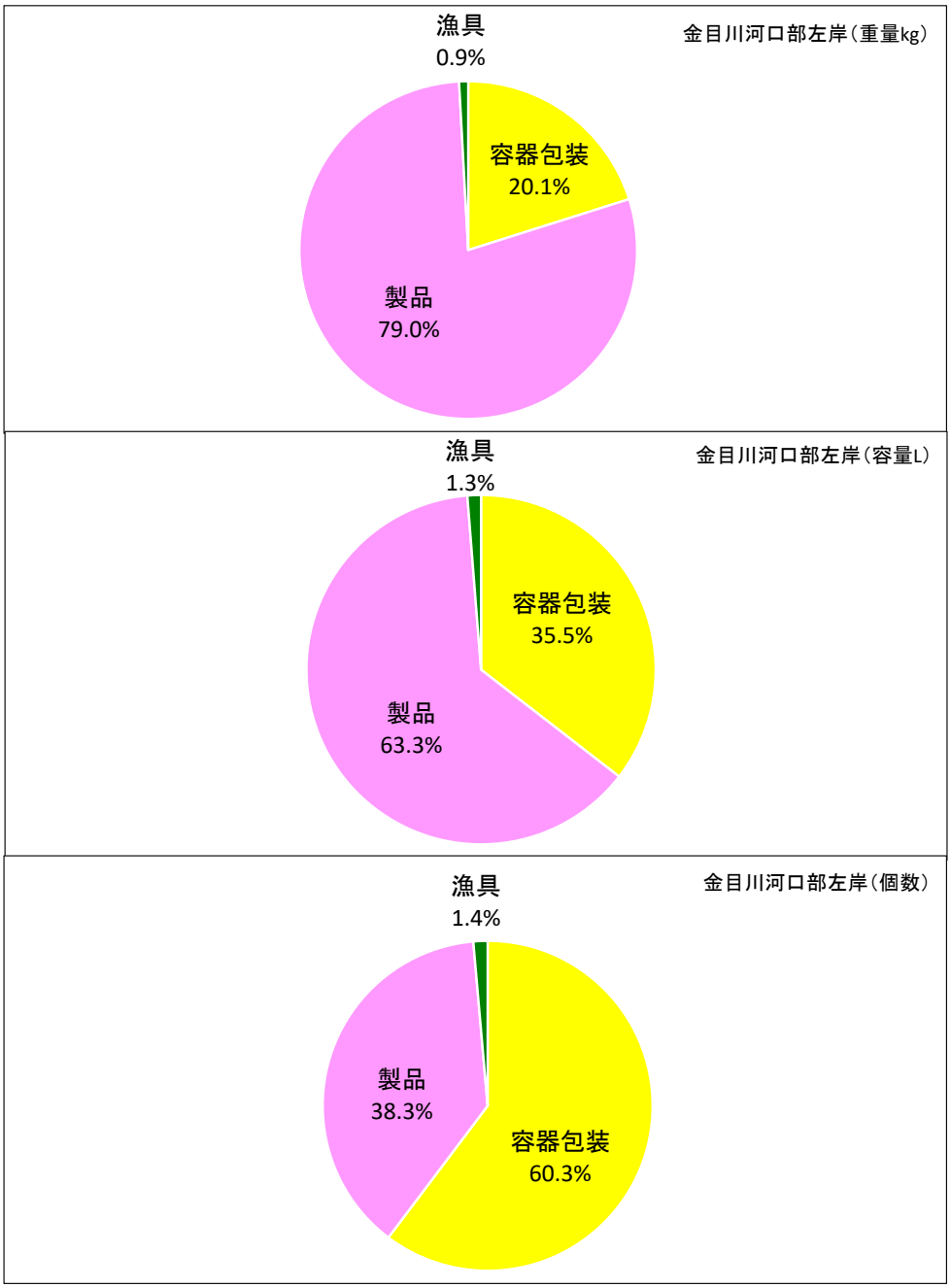


図 2.3-4（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

表 2.3-3（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.07	1.9	57
製品	0.39	6.6	152
漁具	0.00	0.0	1
合計	0.46	8.4	210

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

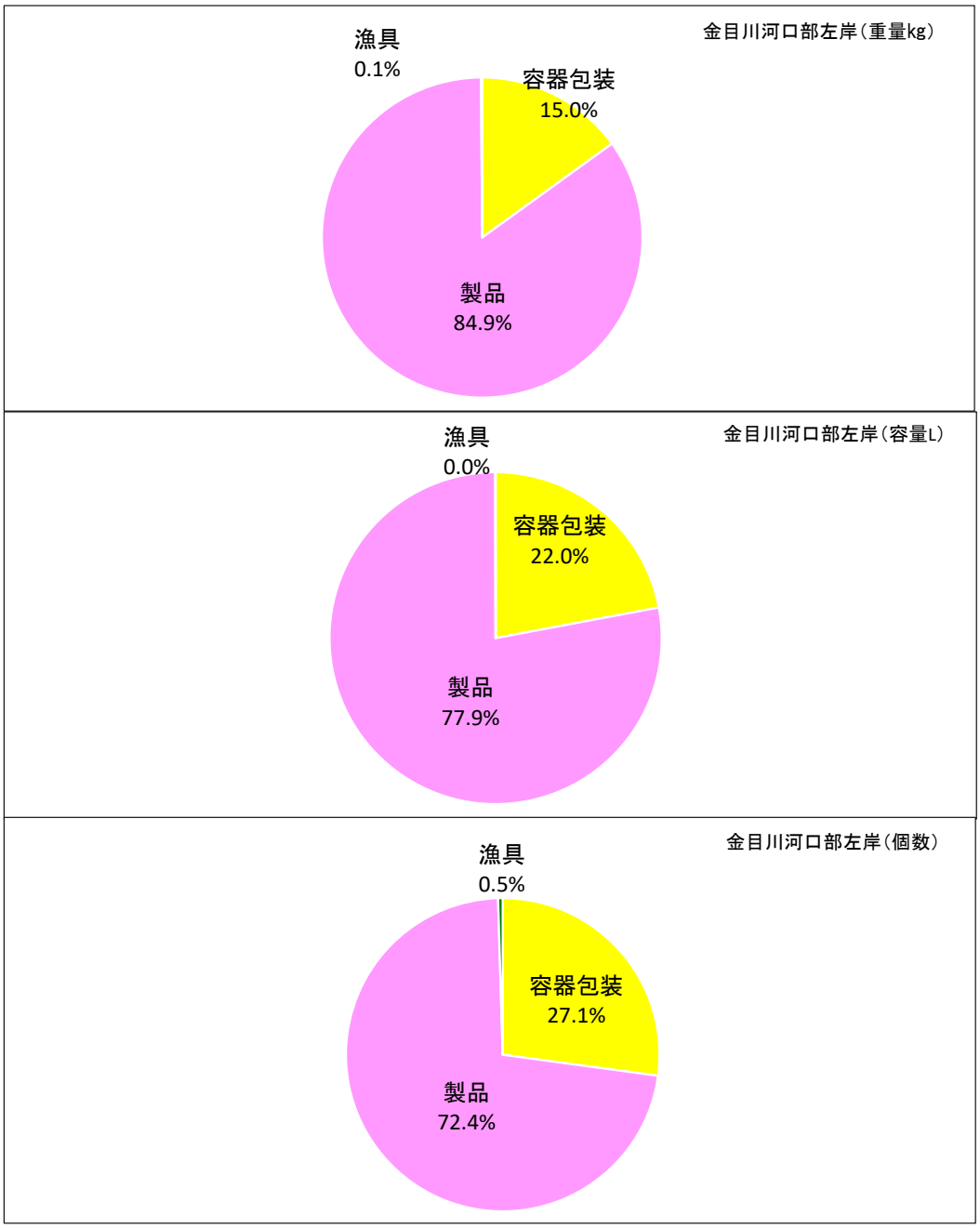


図 2.3-4（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

表 2.3-3 (3)　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.12	2.9	135
製品	0.52	7.3	154
漁具	0.00	0.0	4
合計	0.64	10.2	293

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

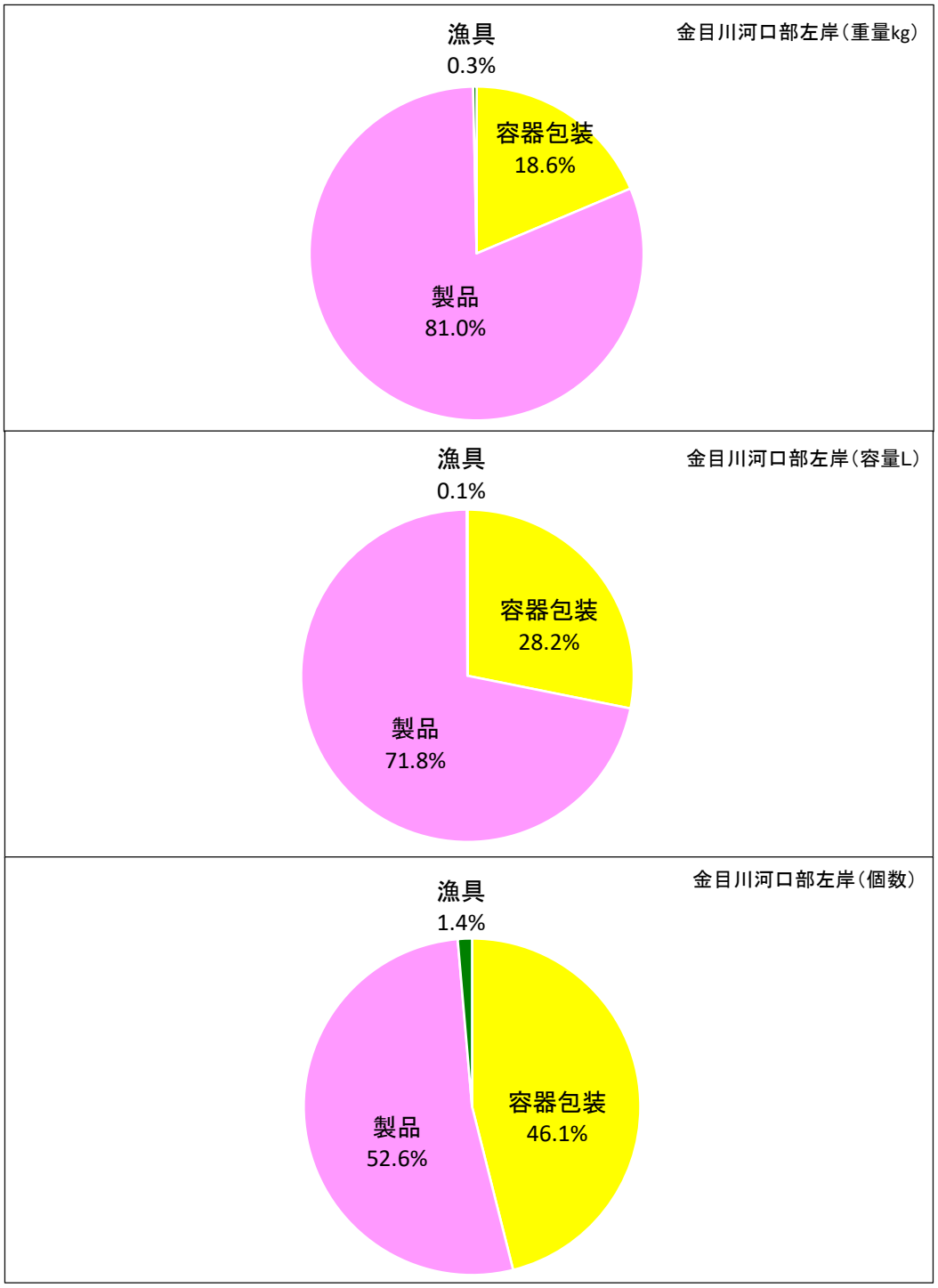


図 2.3-4 (3)　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

表 2.3-3（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.27	11.0	145
製品	1.07	25.3	213
漁具	0.05	0.1	8
合計	1.39	36.5	366

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

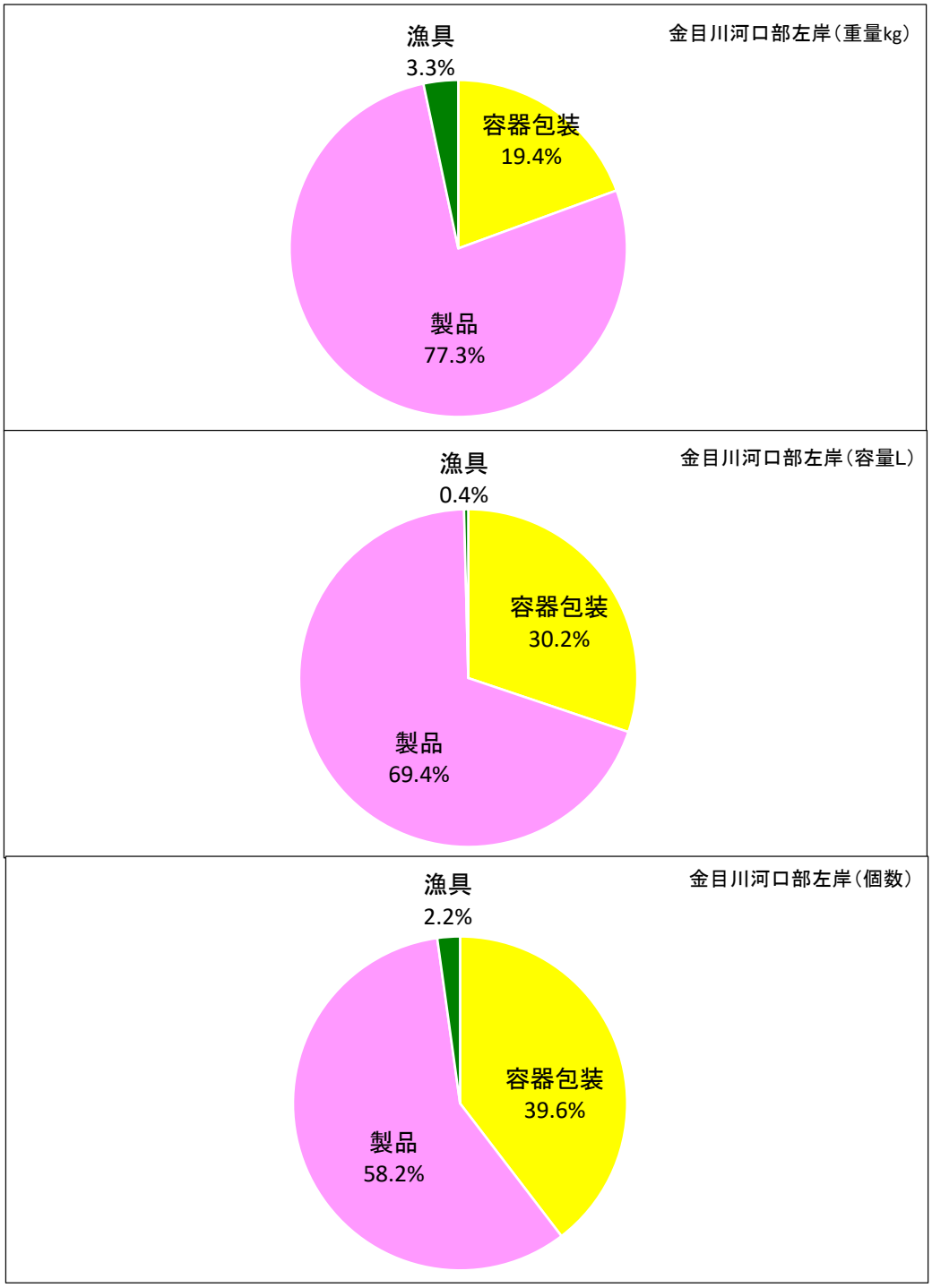


図 2.3-4（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

表 2.3-3（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.05	1.2	6
製品	0.03	0.2	5
漁具	0.00	0.1	2
合計	0.08	1.4	13

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

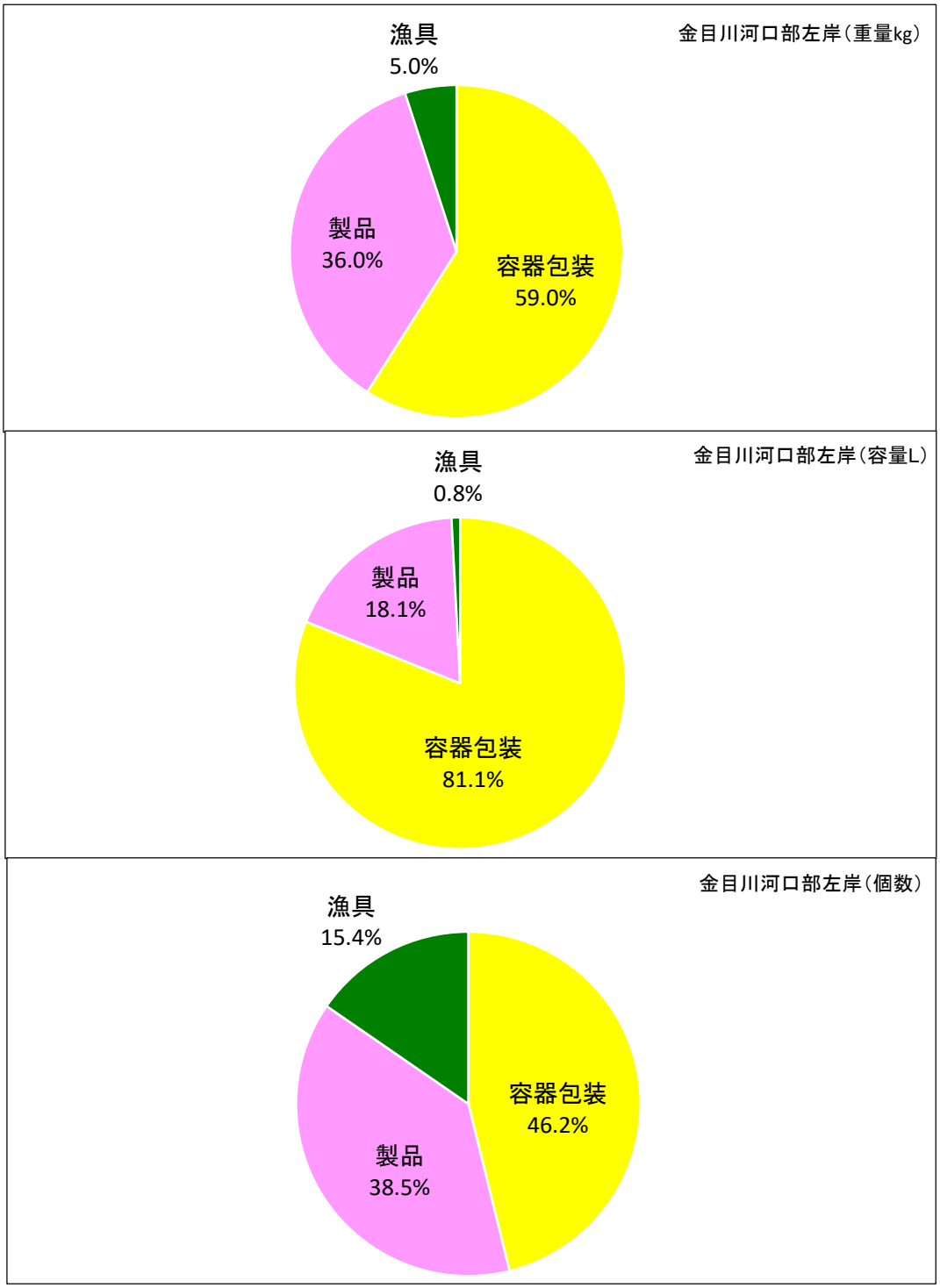


図 2.3-4（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

表 2.3-3（6）　プラスチックの容器包装等の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.10	5.2	58
製品	0.42	4.1	64
漁具	0.16	0.4	4
合計	0.68	9.6	126

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

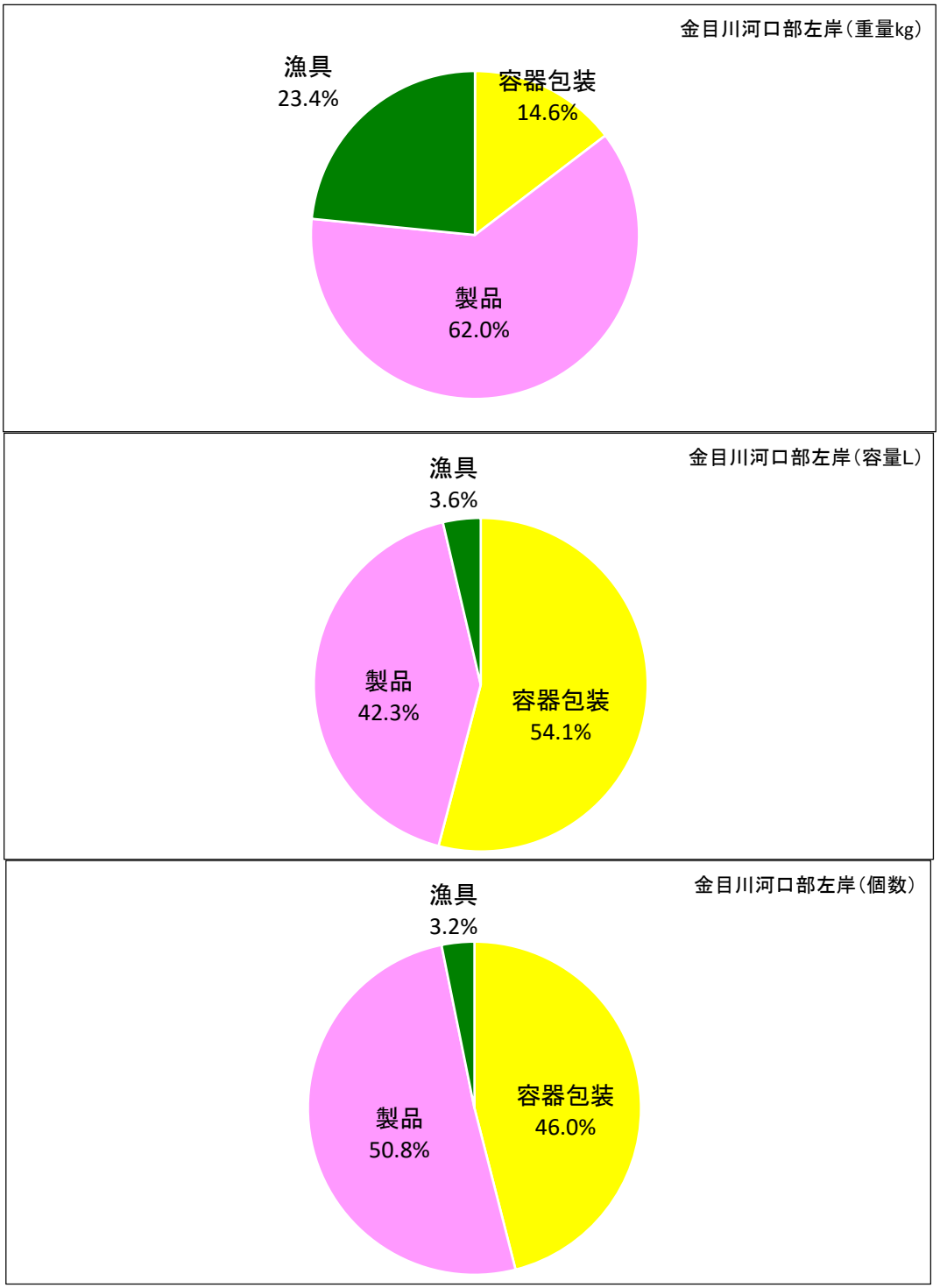


図 2.3-4（6）　プラスチックの容器包装等の組成（R01 年度調査）

2.3.2発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.3-3 に示す。

本年度調査では、ペットボトルは日本１個、ペットボトルのキャップは日本３個、不明１個であった。

これまでの調査で特定できた製造国は、不明を除いて日本のみであった。

表 2.3-3　製造国の特定結果

	ペットボトル		ペットボトルのキャップ		漁業用の浮子	
	本年度調査	R1～R6の合計	本年度調査	R1～R6の合計	本年度調査	R1～R6の合計
日本	1	2	3	18	0	0
中国・台湾	0	0	0	0	0	0
韓国	0	0	0	0	0	0
不明	0	1	1	14	2	3
合計	1	3	4	32	2	3

2.4 酒匂川河口部右岸（小田原市）

2.4.1組成調査

(1) 現地の状況等

酒匂川河口部右岸（小田原市）での状況写真は、図 2.4-1 に示す。

本海岸での清掃も比較的ゆきとどいており、大きな人工物の漂着ごみはほとんど見られなかった。しかし、現地清掃での回収の対象となっていないと思われる多量の灌木が見られた。その内側や下側に、プラスチック等が散在しており、これらが、主な人工物である。

過年度調査（R01～R05）でも、同様な状況であった。

回収前

回収後

回収作業

図 2.4-1　酒匂川右岸（小田原市）での状況写真

(2) ３分類別の組成

３分類別の組成は、表 2.4-1、図 2.4-2 に示す。

本年度調査で回収された漂着ごみは、重量 46.84kg、容量 458.0Ｌ、個数 67 個であった。３分類別の組成は、重量、容量がともに自然物（灌木、流木）がそれぞれ 98.1%、98.8%、個数では人工物（漁具を除く）が 74.6%と最も多かった。なお、灌木の個数は環境省ガイドラインに従って本調査では計数していない。

過年度調査（R01～R05）で回収された漂着ごみは、本年度調査の重量で 0.6～40.1 倍で、容量で 0.2～12.5 倍、個数で 0.5～6.0 倍と大きく変動していた。３分類別の組成は、重量、容量で自然物が多いこと、個数で人工物（漁具を除く）が多いことから、やや類似していた。

(3) 人工物の大分類別の組成

人工物の大分類別の組成は、表 2.4-2、図 2.4-3 に示す。

本年度調査での人工物の大分類別の組成は、重量、容量では木・木材系がそれぞれ 48.3%、36.1%、個数ではプラスチックが 70.6%と最も多かった。これら多かった品目は、木・木材系では木材が、プラスチックではシートや袋の破片、硬質プラスチック破片、ウレタンであった。

過年度調査（R01～R05）での人工物は、本年度調査の重量で 0.9～43.0 倍で、容量で 0.4～38.1 倍、個数で 0.7～7.6 倍と大きく変動していた。人工物の大分類別の組成は、プラスチック、木・木材系が多い年度と、ゴム、金属が多い年度があることから、重量、容量、個数ともにあまり類似していなかった。

(4) プラスチックの容器包装等の組成

プラスチックの容器包装等の組成は、表 2.4-3、図 2.4-4 に示す。

本年度調査でのプラスチックの容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、製品がそれぞれ 76.3%、79.9%、65.1%と最も多かった。

過年度調査（R01～R05）でのプラスチックの容器包装等は、本年度調査の重量で 0.5～43.1 倍で、

容量で0.3～44.5倍、個数で0.5～6.2倍と大きく変動していた。プラスチックの容器包装等の組成は、製品の割合が多い年度と、容器包装の割合が多い年度があることから、重量、容量、個数ともにあまり類似していなかった。

表 2.4-1（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.86	5.5	50
漁具	0.01	0.0	1
自然物	45.97	452.5	16
合計	46.84	458.0	67

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

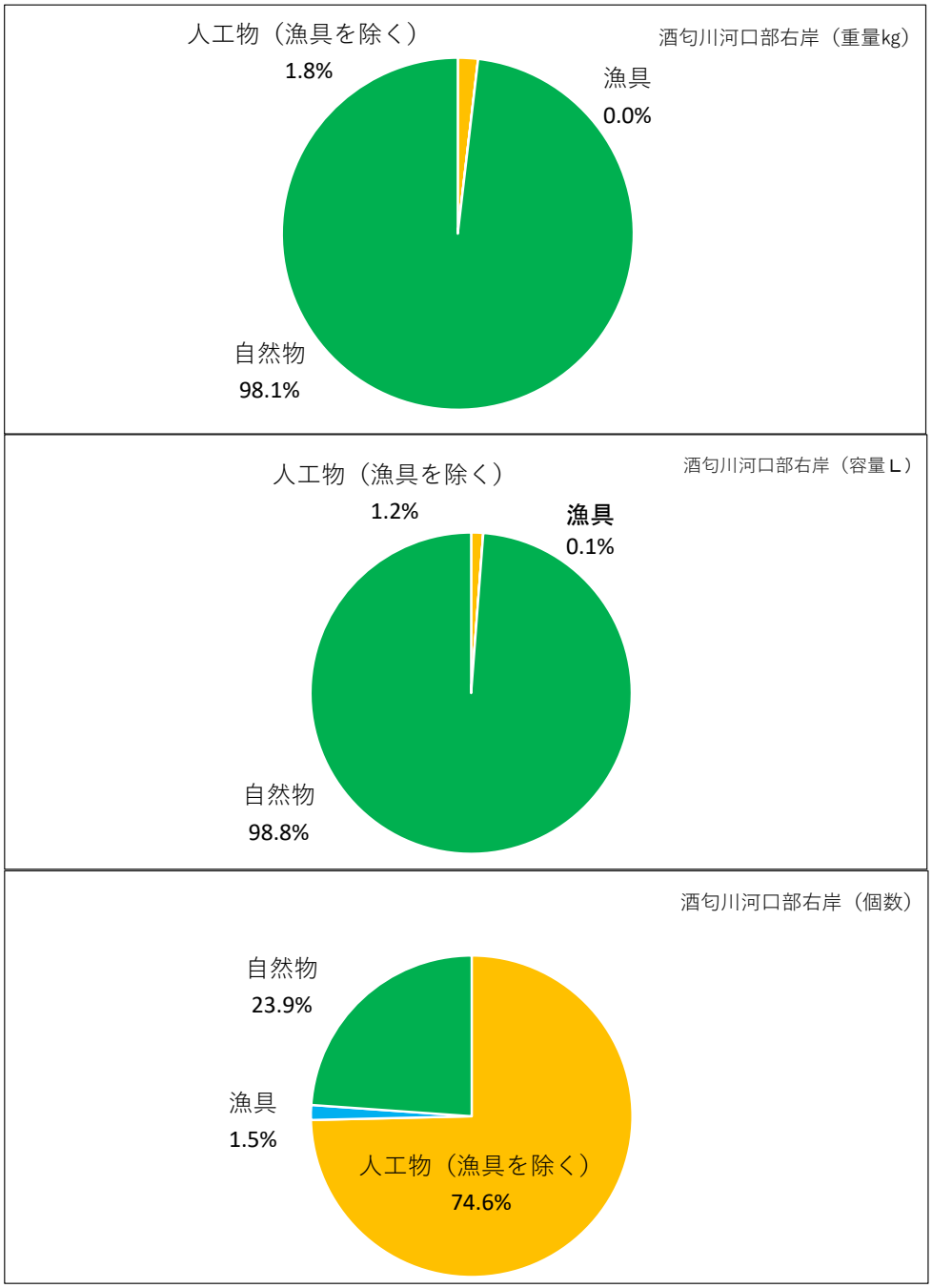


図 2.4-2（1）　３分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.4-1（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	0.76	2.0	33
漁具	0.00	0.1	1
自然物	28.79	78.0	1
合計	29.55	80.1	35

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

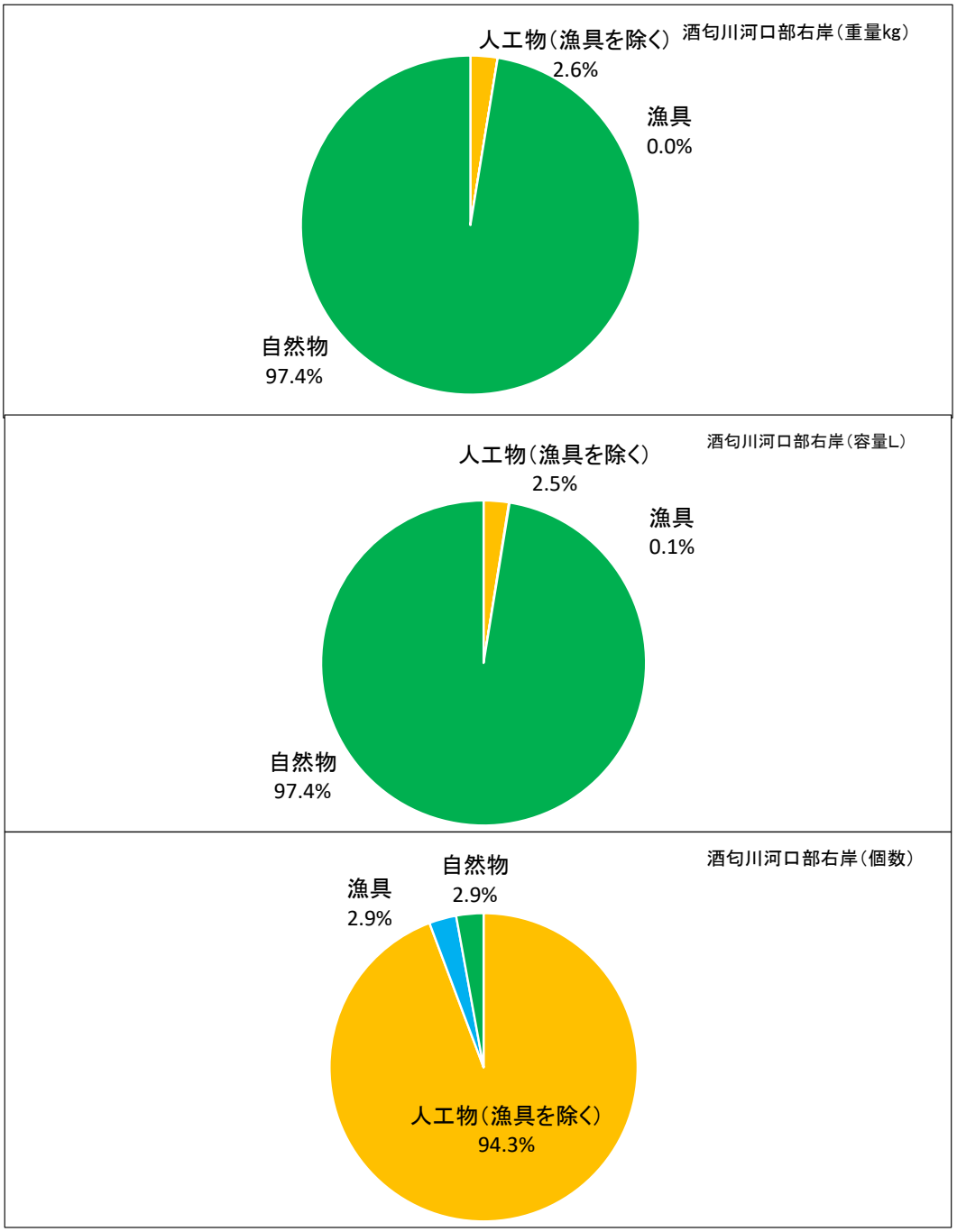


図 2.4-2（2）　３分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.4-1（3）　３分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	11.48	67.8	189
漁具	0.02	0.0	1
自然物	18.68	220.0	2
合計	30.18	287.8	192

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

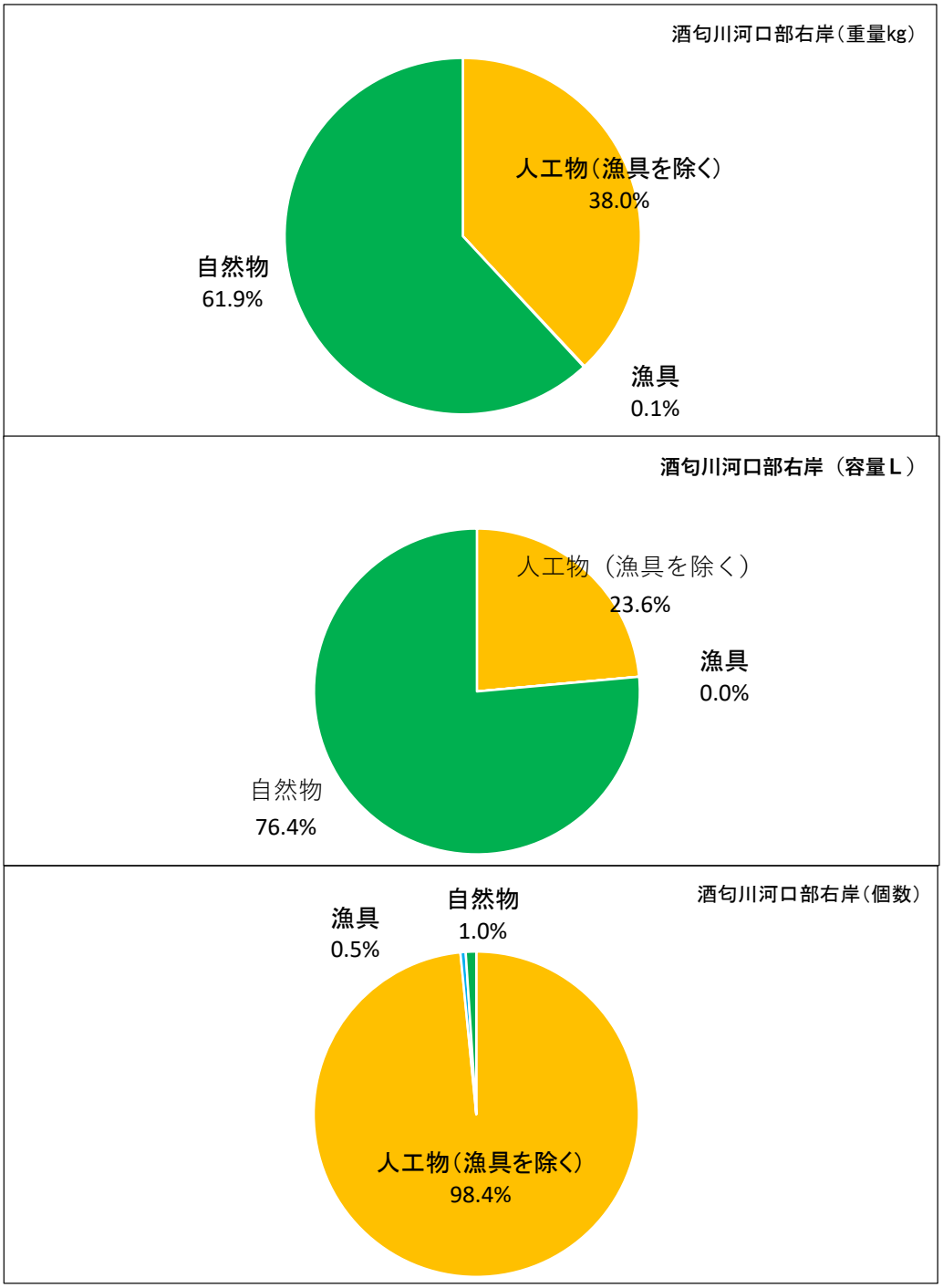


図 2.4-2（3）　３分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.4-1（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	37.26	196.5	383
漁具	0.07	0.1	4
自然物	297.30	1,282.5	16
合計	334.63	1,479.1	403

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

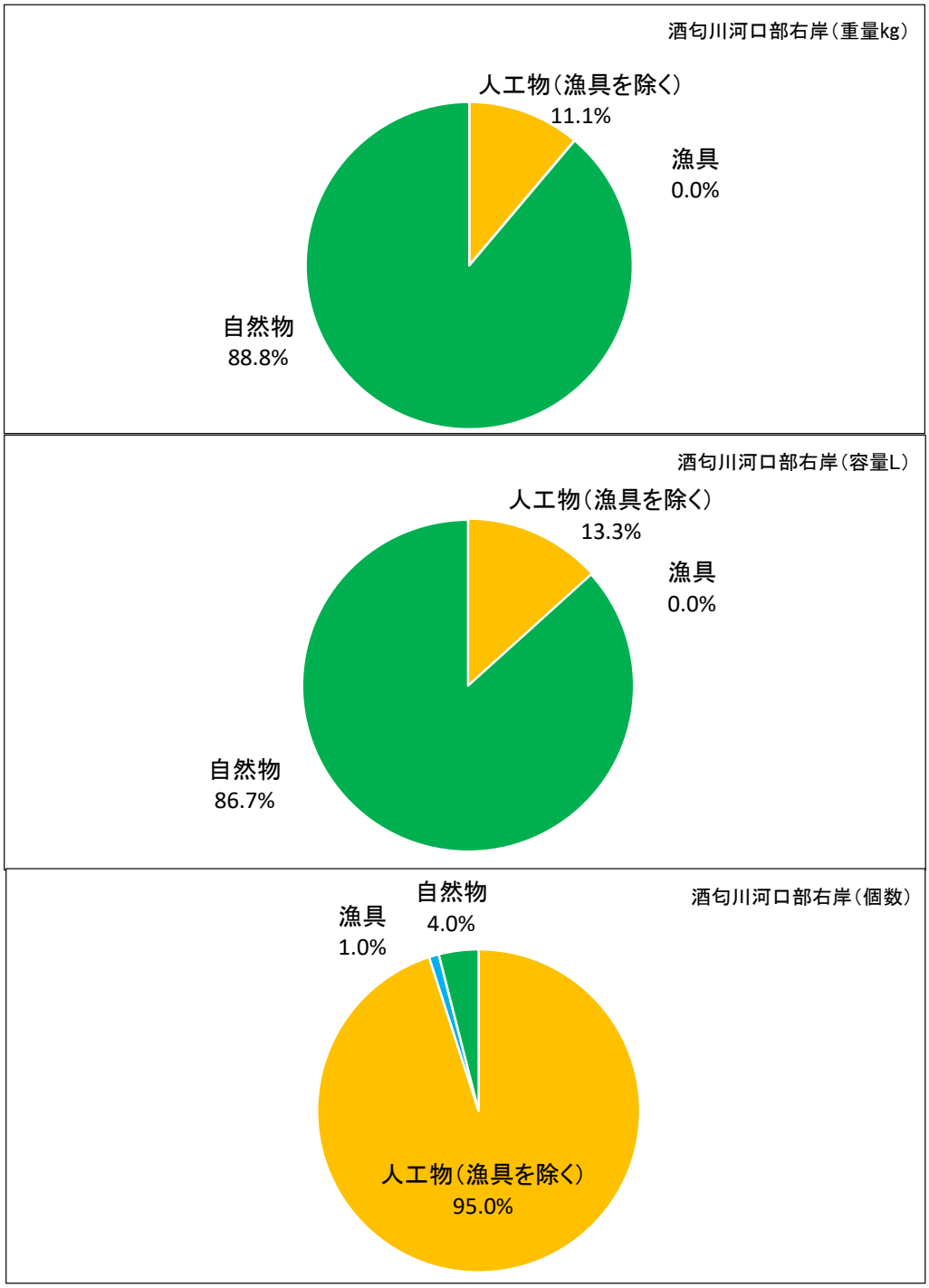


図 2.4-2（4）　３分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.4-1（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	30.99	209.4	113
漁具	0.01	0.1	3
自然物	1,847.91	5,517.0	11
合計	1,878.91	5,726.5	127

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

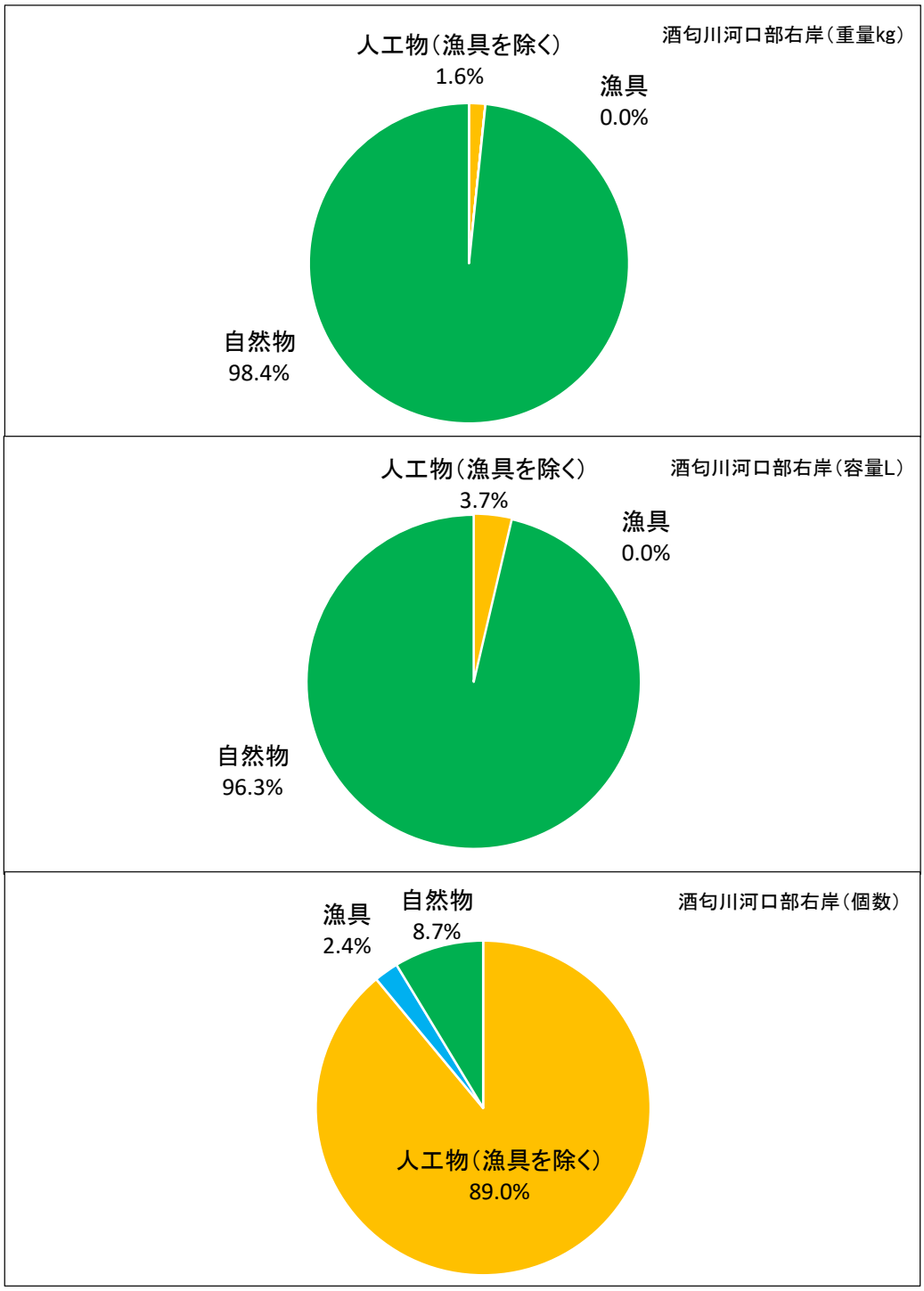


図 2.4-2（5）　３分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.4-1（6）　３分類別の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
人工物(漁具を除く)	2.16	29.6	48
漁具	0.01	0.1	3
自然物	1,209.90	2,933.0	15
合計	1,212.06	2,962.7	66

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

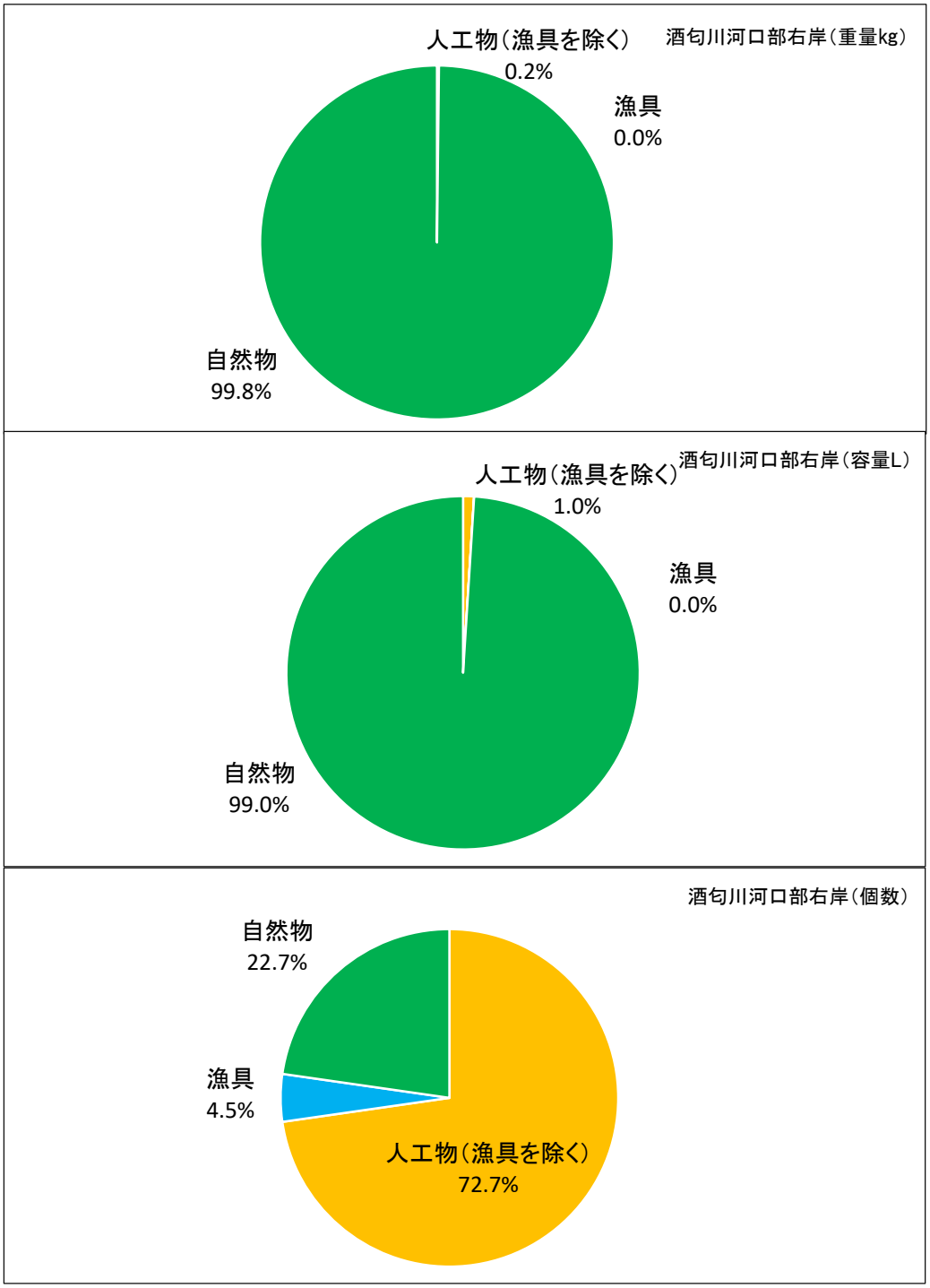


図 2.4-2（6）　３分類別の組成（R01 年度調査）

表 2.4-2（1）　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.13	1.8	36
発泡スチロール	0.01	0.6	7
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	0
金属	0.15	0.7	4
紙・段ボール	0.16	0.5	1
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	0.42	2.0	3
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.87	5.5	51

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※２　図も同様である。

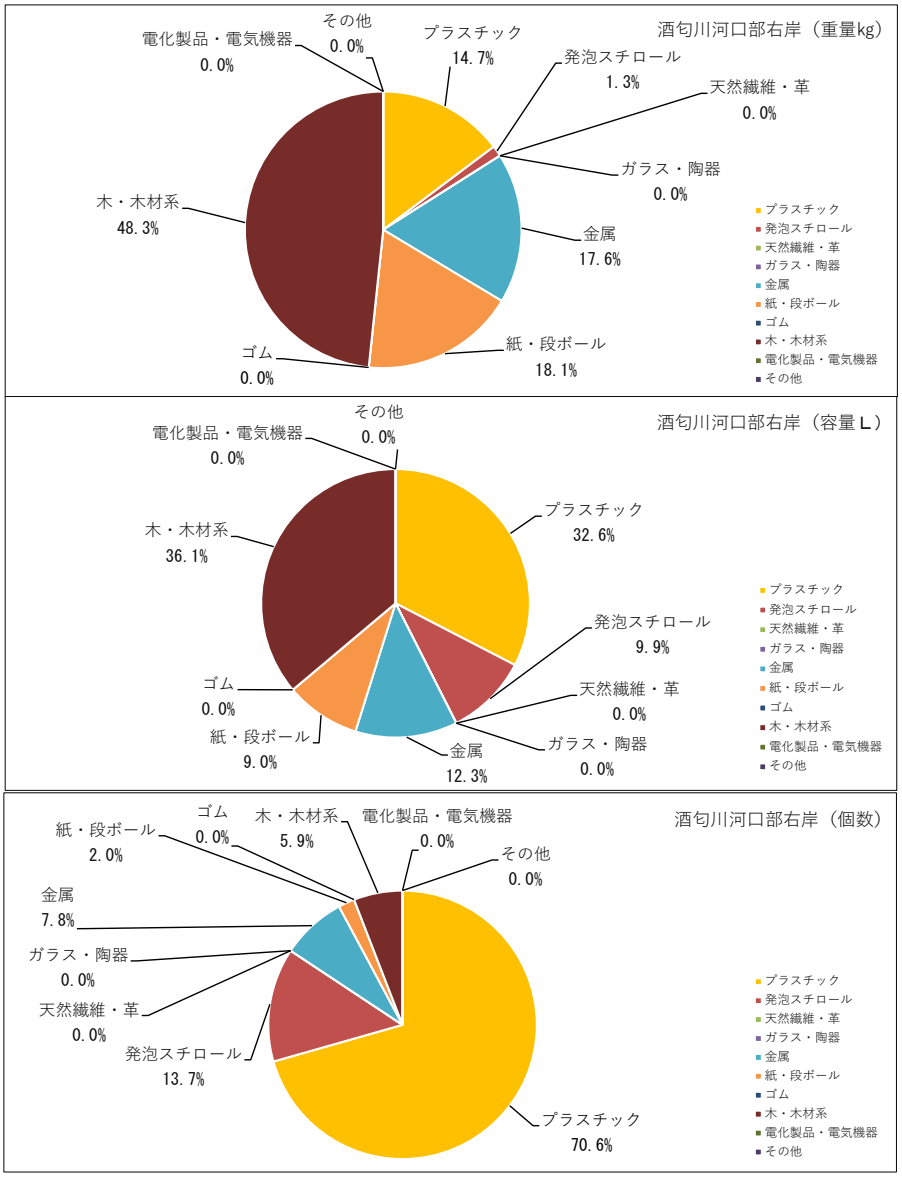


図 2.4-3（1）　人工物の大分類別の組成（R06 年度調査）

表 2.4-2（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.06	0.5	20
発泡スチロール	0.01	0.3	2
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.25	0.2	0
金属	0.24	0.5	4
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.01	0.0	0
木・木材系	0.20	0.6	8
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.76	2.1	34

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。

※２　図も同様である。

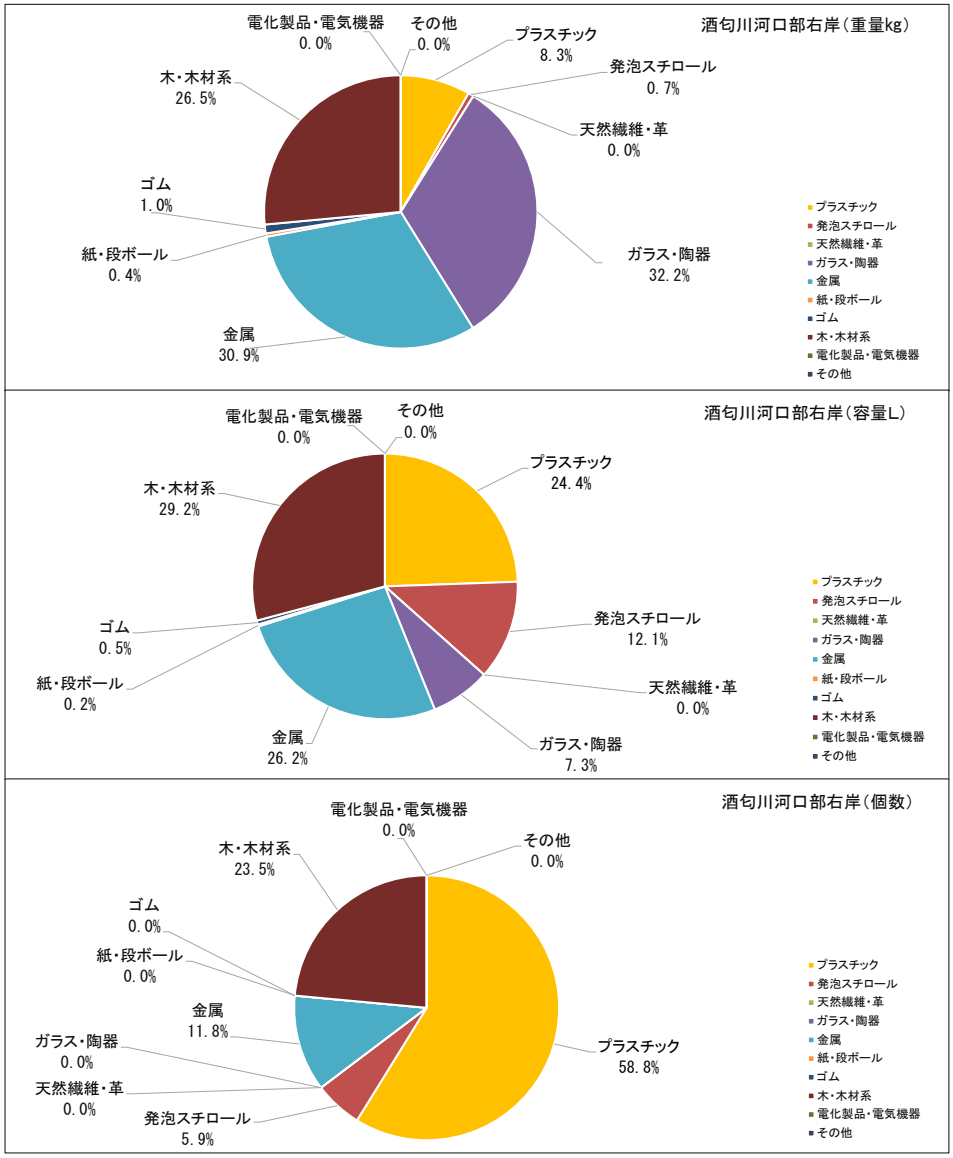


図 2.4-3（2）　人工物の大分類別の組成（R05 年度調査）

表 2.4-2（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	6.04	25.8	126
発泡スチロール	0.00	0.3	4
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.46	0.3	2
金属	0.75	4.7	30
紙・段ボール	0.04	0.8	5
ゴム	3.72	32.4	11
木・木材系	0.08	0.4	5
電化製品・電気機器	0.31	2.0	3
その他	0.09	1.2	4
人工物合計	11.50	67.8	190

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

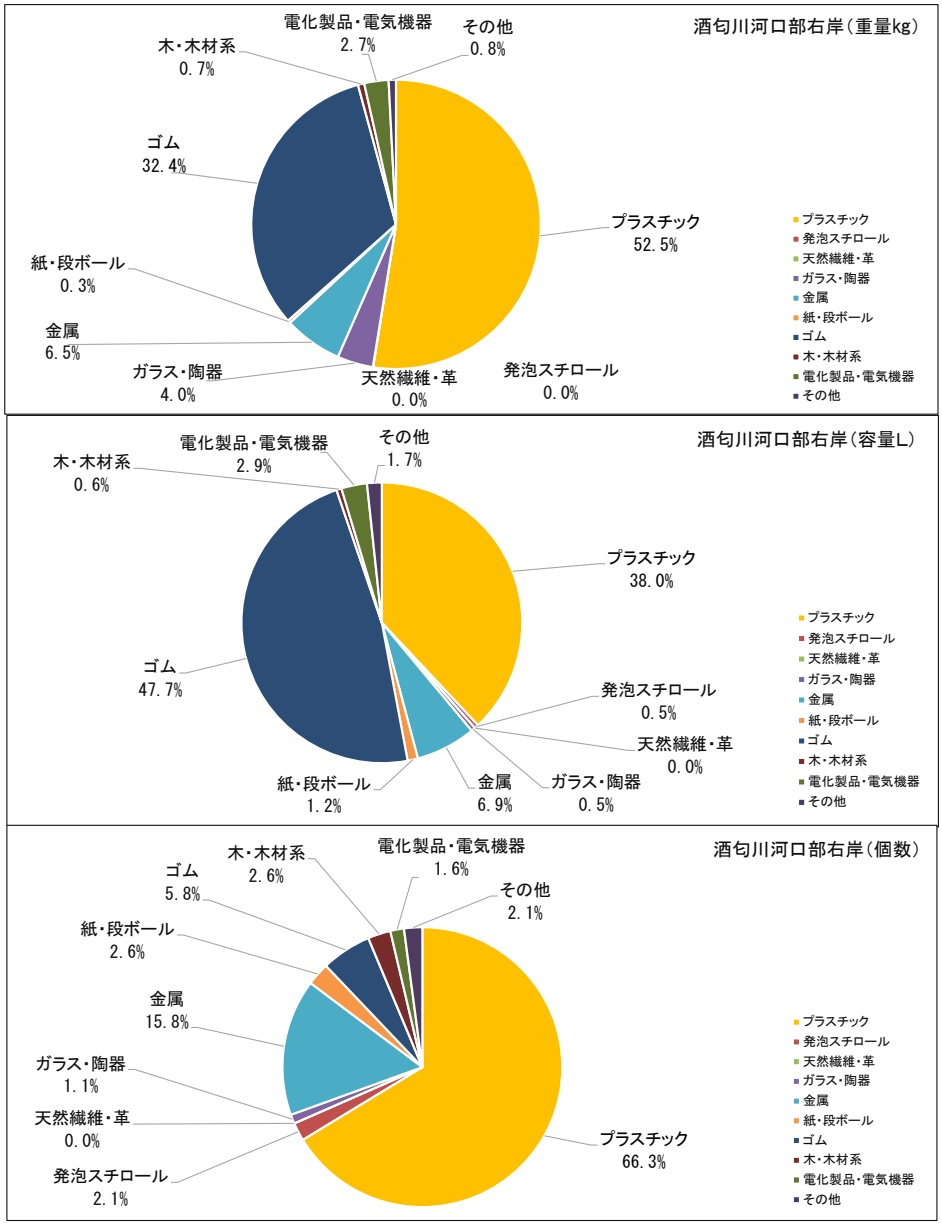


図 2.4-3（3）　人工物の大分類別の組成（R04 年度調査）

表 2.4-2（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	2.88	25.0	233
発泡スチロール	0.05	5.4	33
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.95	0.7	1
金属	1.46	20.5	52
紙・段ボール	0.08	1.0	29
ゴム	21.99	121.2	13
木・木材系	9.79	21.7	7
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.13	1.2	19
人工物合計	37.33	196.6	387

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

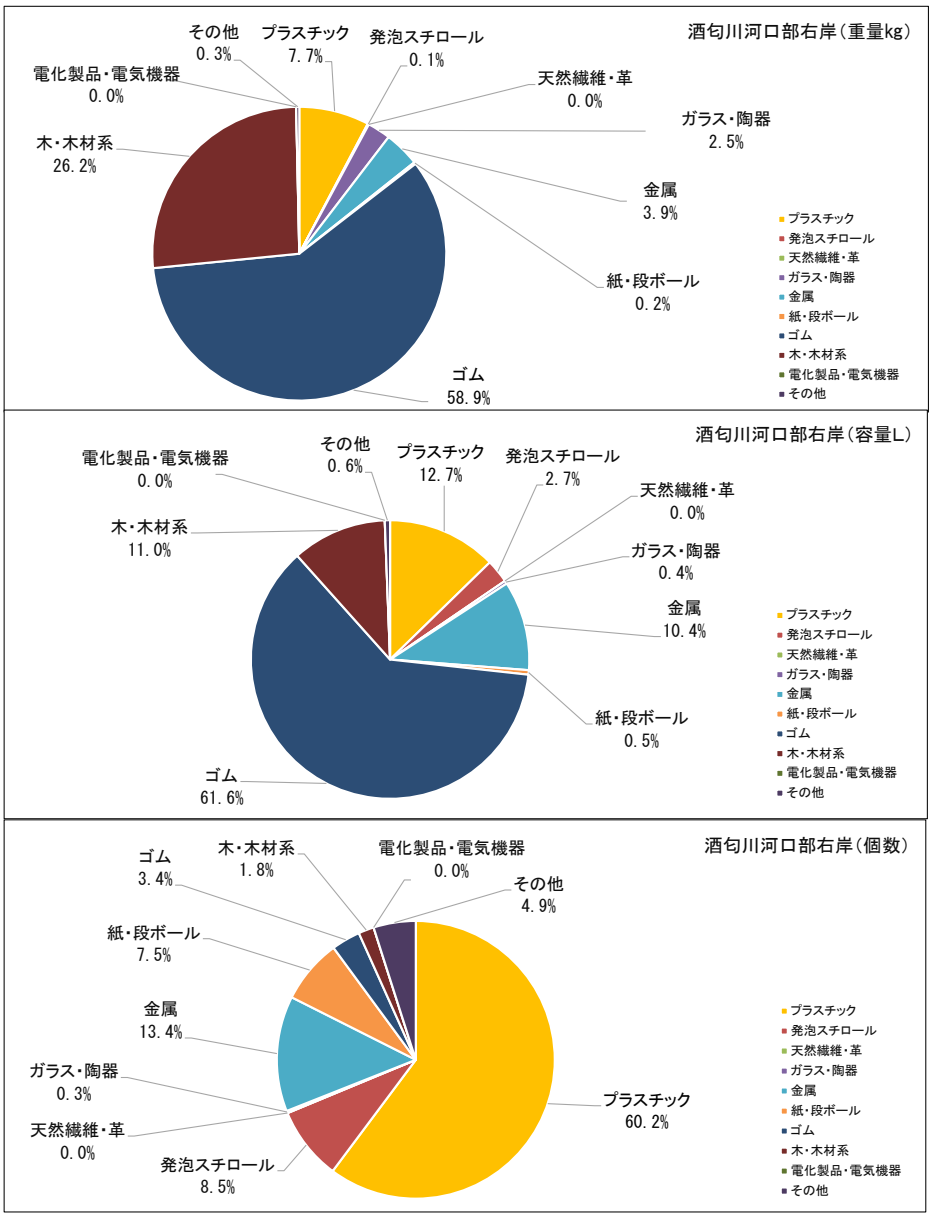


図 2.4-3（4）　人工物の大分類別の組成（R03 年度調査）

表 2.4-2（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	3.61	106.3	61
発泡スチロール	0.00	0.6	1
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	0
金属	0.34	2.4	21
紙・段ボール	0.02	1.1	5
ゴム	0.14	0.4	2
木・木材系	26.87	98.5	23
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.02	0.2	3
人工物合計	31.00	209.5	116

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

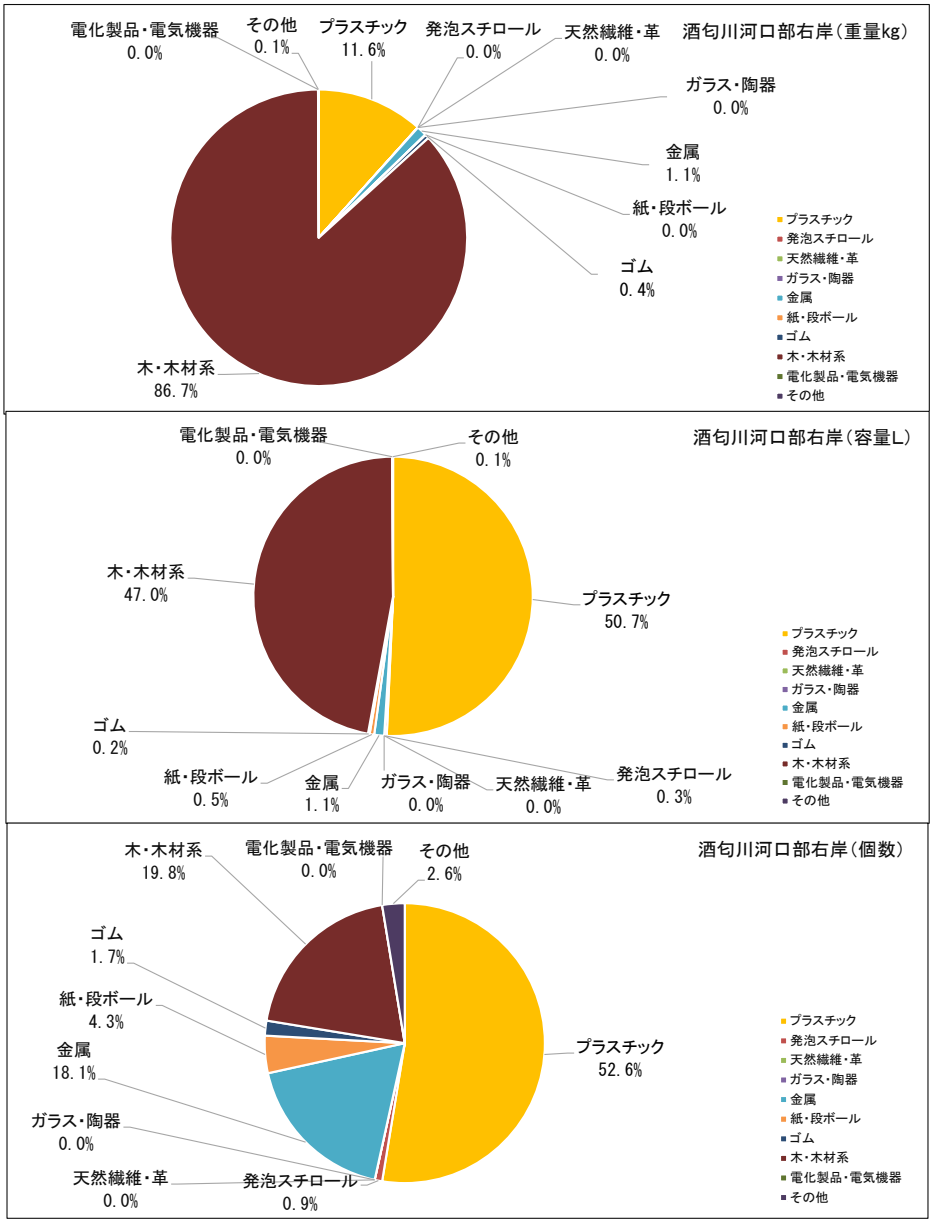


図 2.4-3（5）　人工物の大分類別の組成（R02 年度調査）

表 2.4-2（6）　人工物の大分類別の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
プラスチック	0.26	2.6	25
発泡スチロール	0.01	0.3	1
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.02	0.0	2
金属	0.48	6.0	17
紙・段ボール	0.03	0.6	4
ゴム	0.00	0.0	0
木・木材系	1.36	20.1	2
電化製品・電気機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	2.16	29.7	51

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

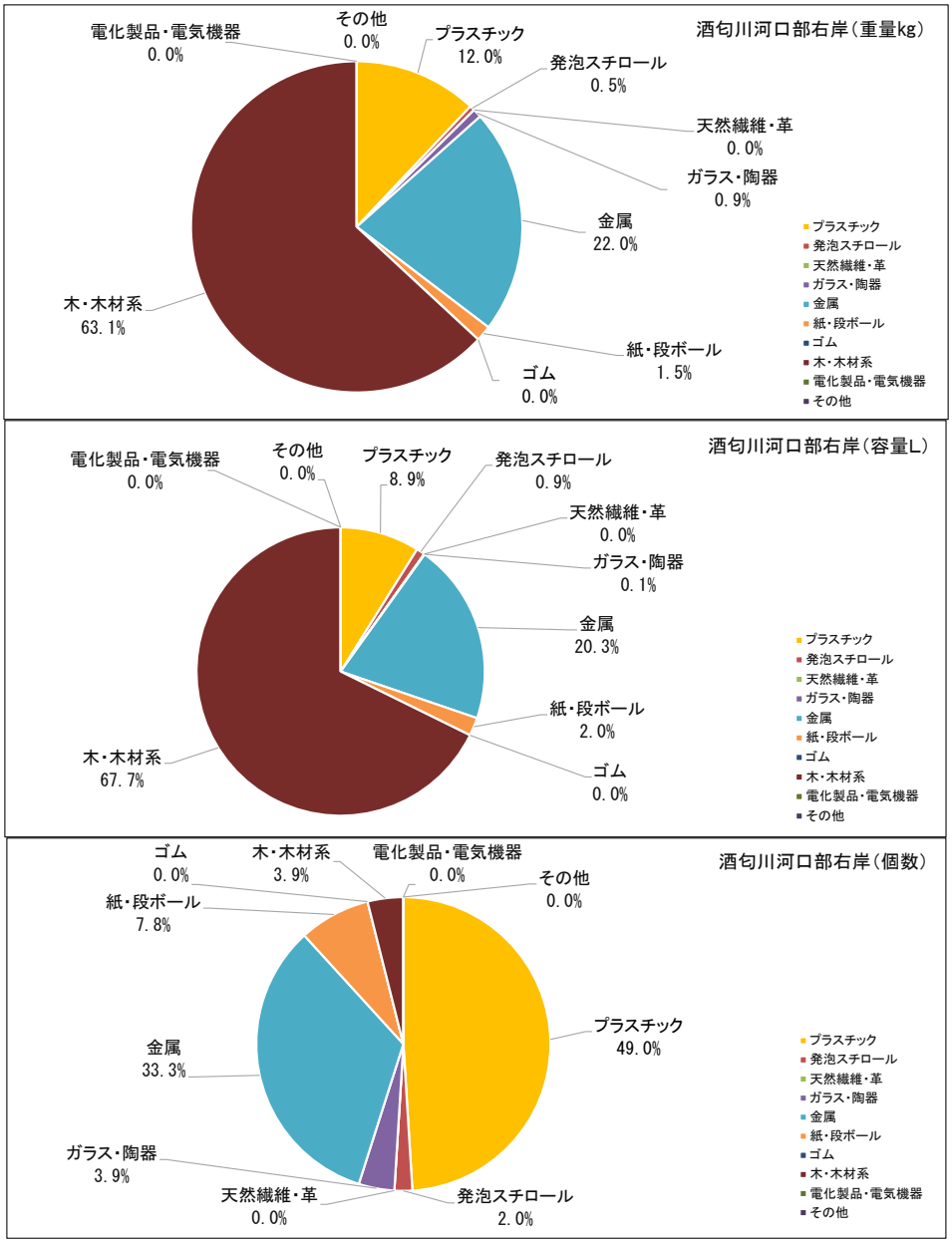


図 2.4-3（6）　人工物の大分類別の組成（R01 年度調査）

表 2.4-3（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.03	0.5	14
製品	0.11	1.9	28
漁具	0.01	0.0	1
合計	0.14	2.4	43

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

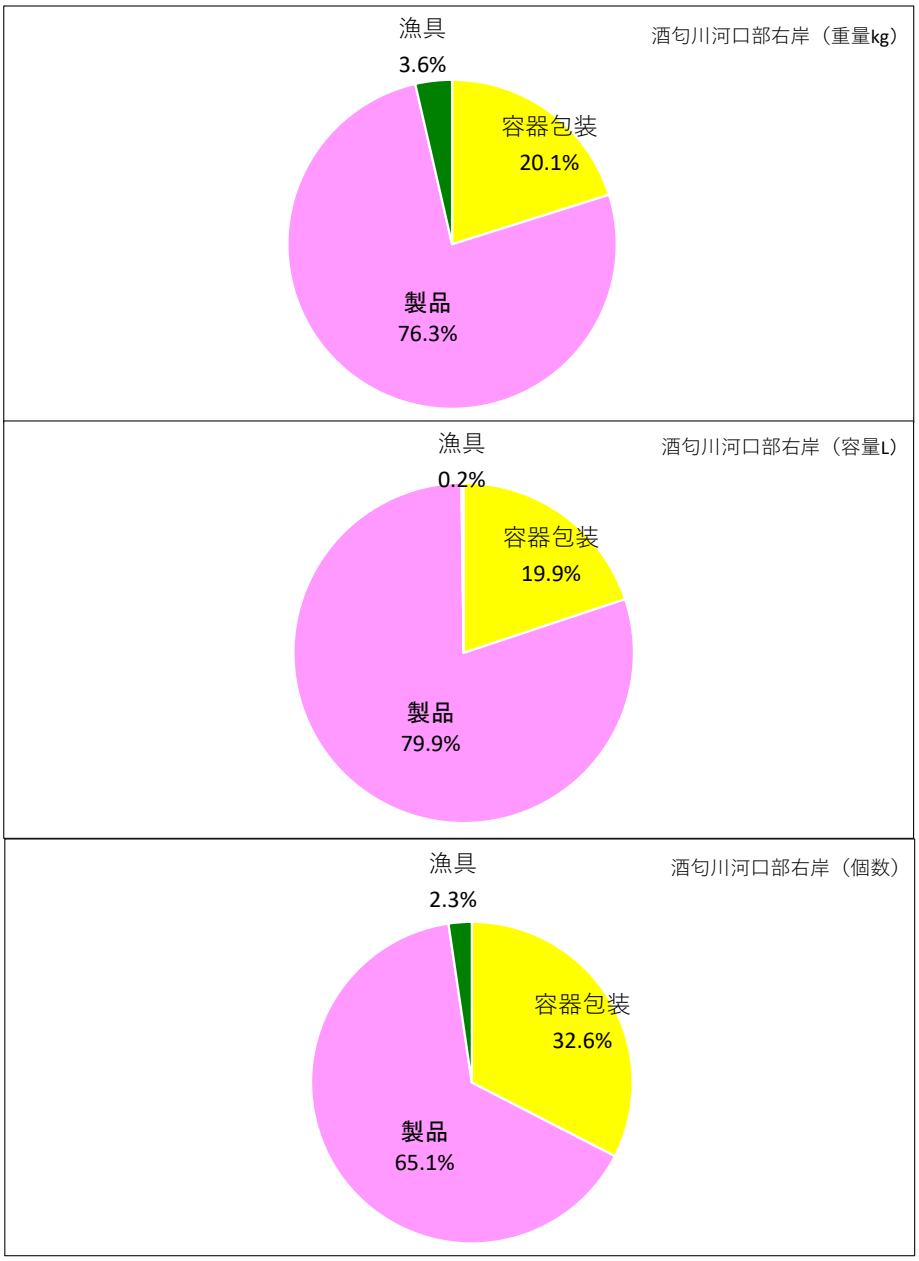


図 2.4-4（1）　プラスチックの容器包装等の組成（R06 年度調査）

表 2.4-3（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.00	0.1	4
製品	0.06	0.6	17
漁具	0.00	0.1	1
合計	0.07	0.8	22

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

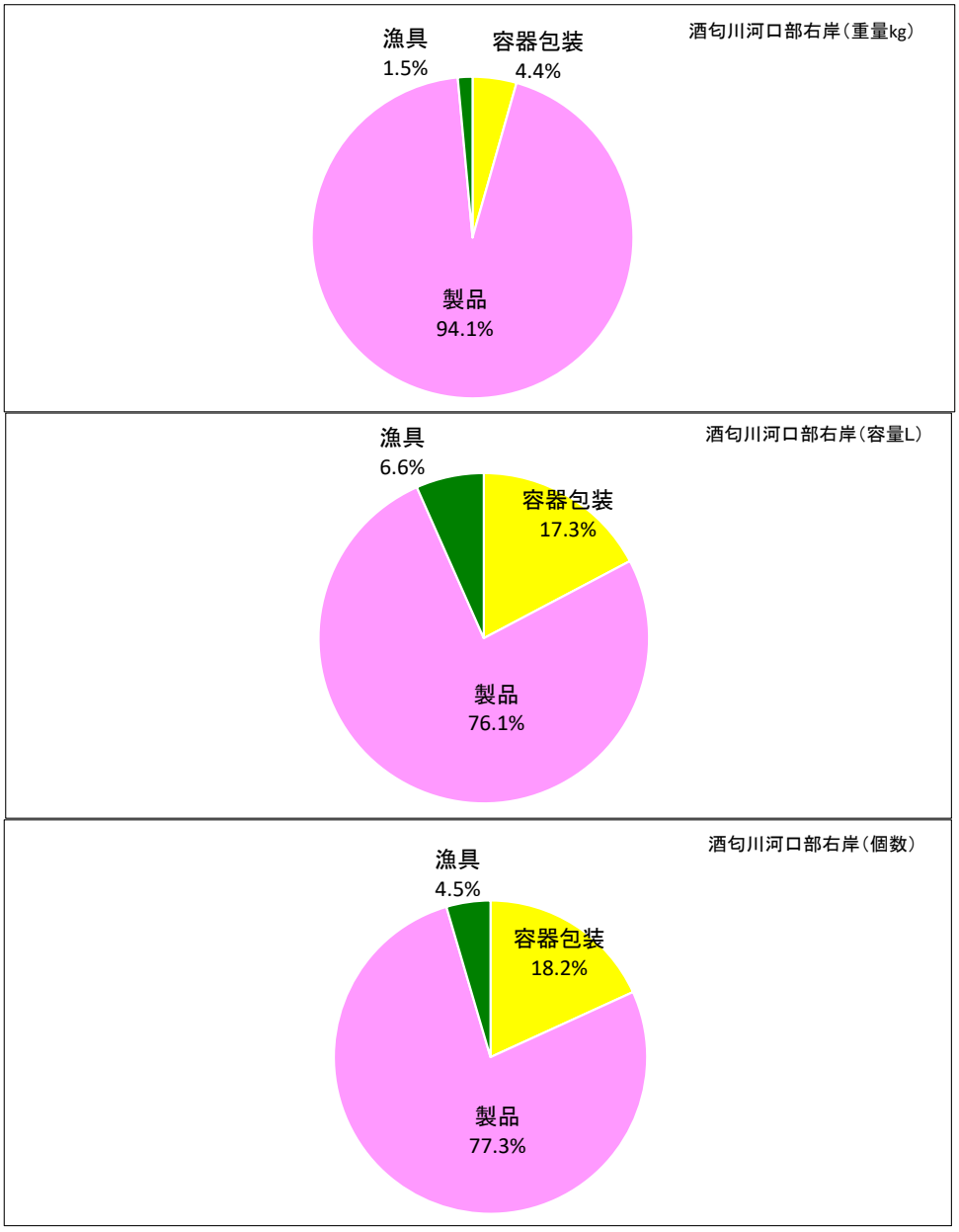


図 2.4-4（2）　プラスチックの容器包装等の組成（R05 年度調査）

表 2.4-3（3）　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.11	3.3	33
製品	5.91	22.7	96
漁具	0.02	0.0	1
合計	6.04	26.1	130

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

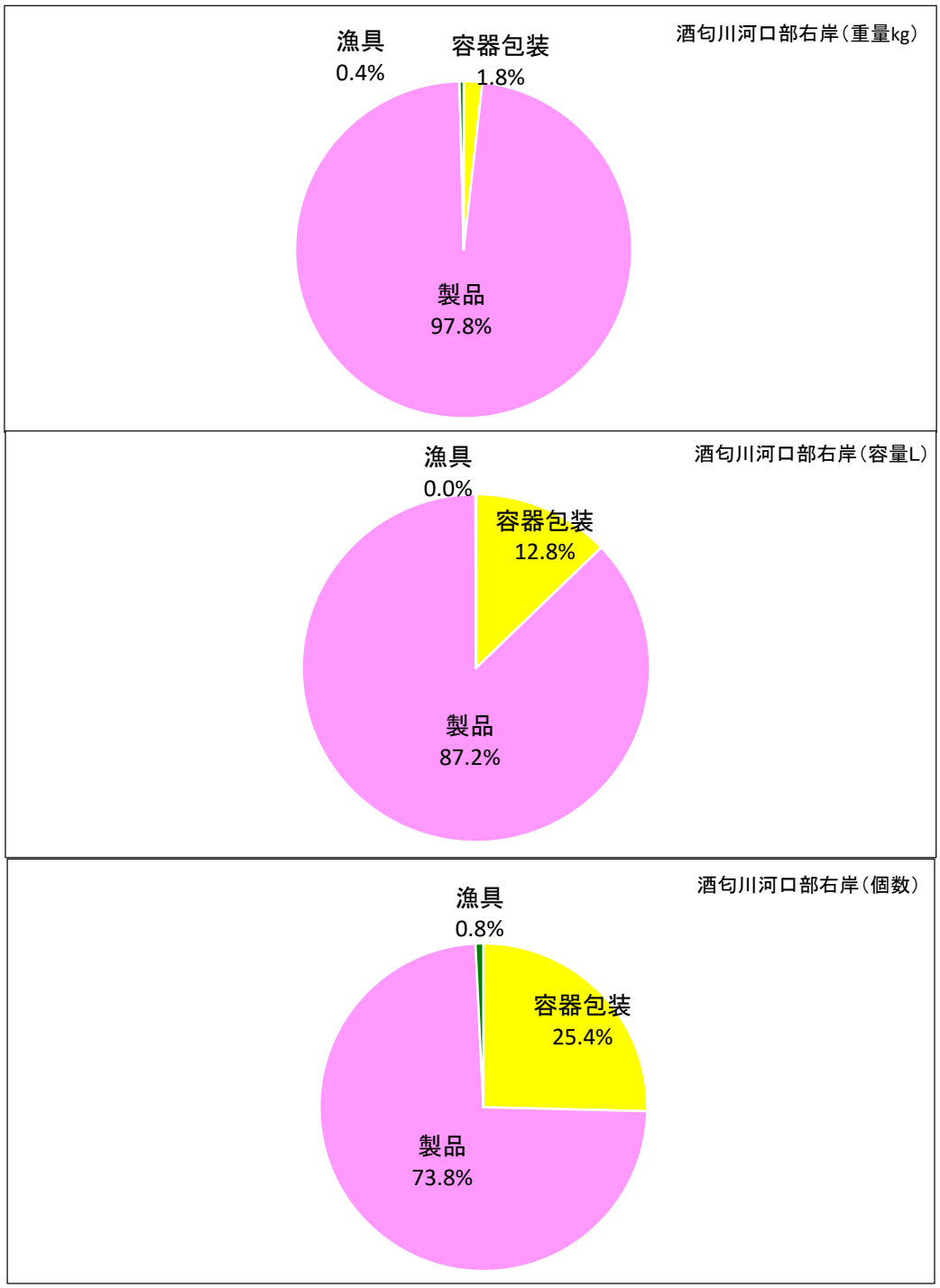


図 2.4-4（3）　プラスチックの容器包装等の組成（R04 年度調査）

表 2.4-3（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.67	18.0	85
製品	2.21	12.3	178
漁具	0.05	0.1	3
合計	2.93	30.4	266

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

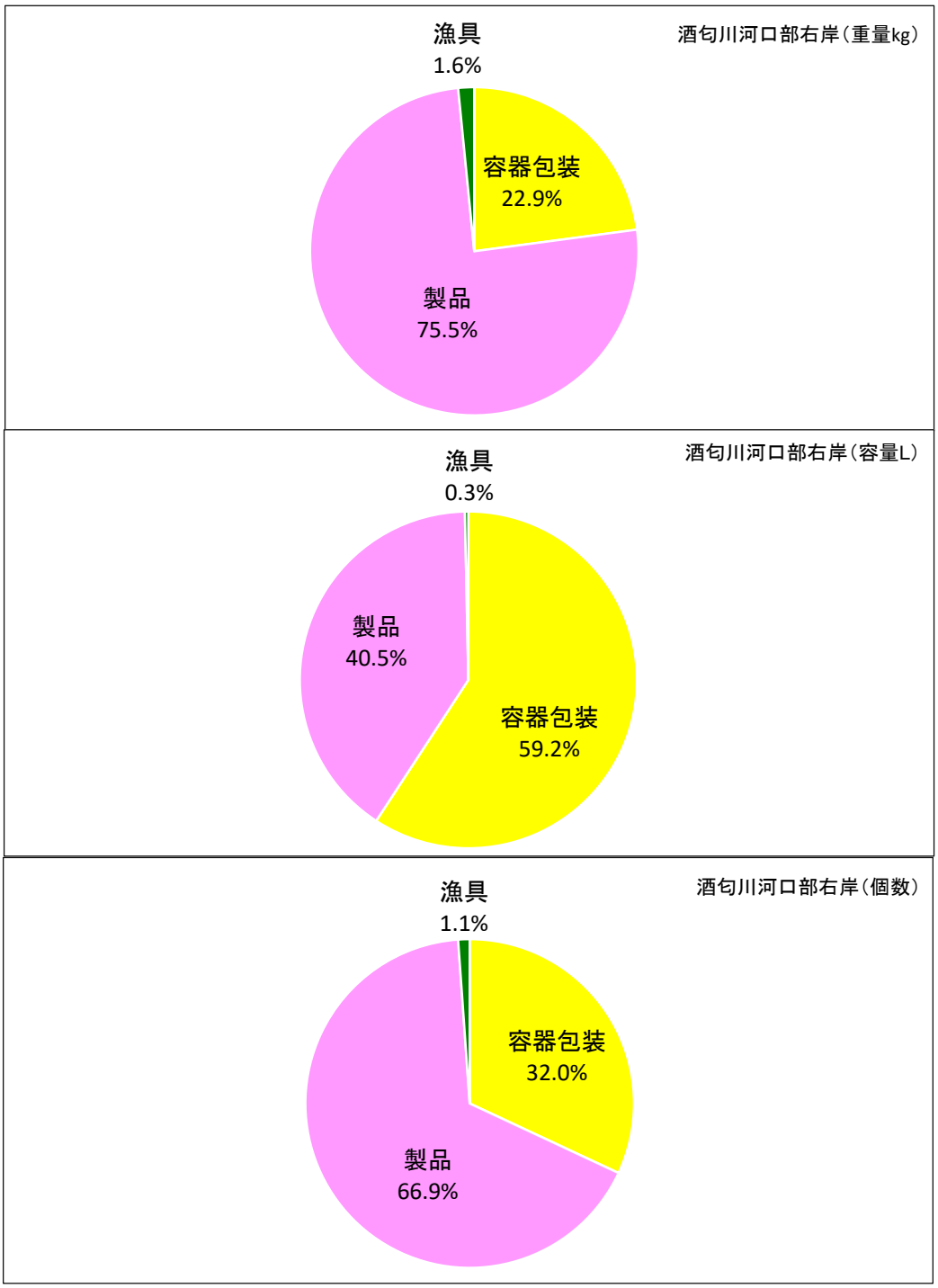
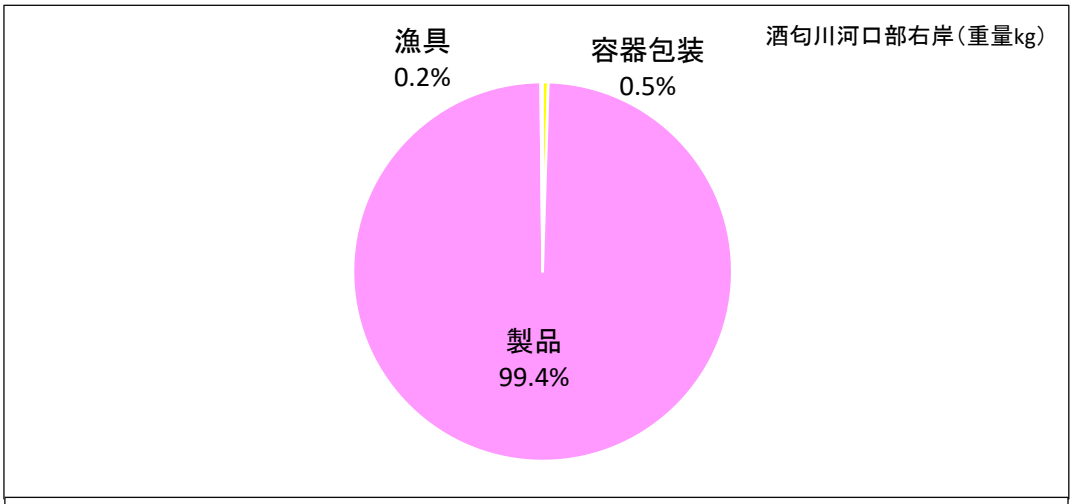


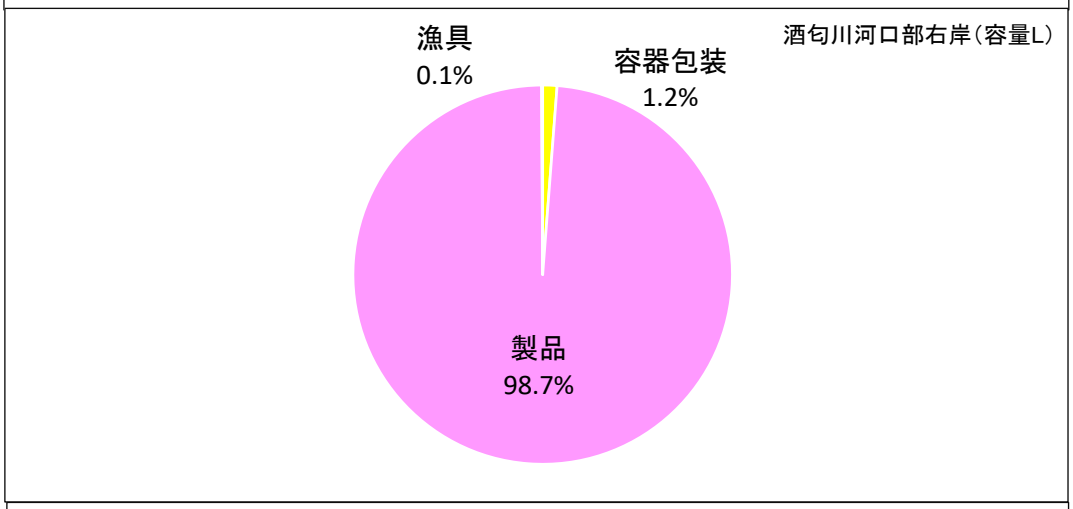
図 2.4-4（4）　プラスチックの容器包装等の組成（R03 年度調査）

表 2.4-3（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.02	1.3	19
製品	3.59	105.1	40
漁具	0.01	0.5	3
合計	3.61	106.9	62

※※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。





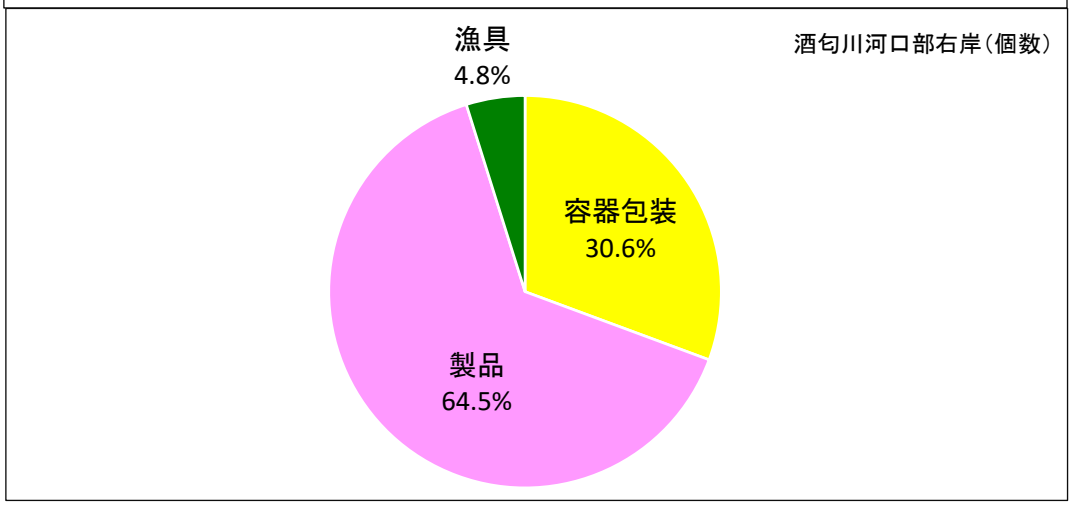


図 2.4-4（5）　プラスチックの容器包装等の組成（R02 年度調査）

表 2.4-3（6）　プラスチックの容器包装等の組成（R01 年度調査）

項　目	重量(kg)	容量(L)	個数(個)
容器包装	0.19	6.2	15
製品	0.18	1.6	14
漁具	0.04	0.1	2
合計	0.41	7.9	31

※１　四捨五入の関係で、必ずしも表の合計は一致しない。
※２　図も同様である。

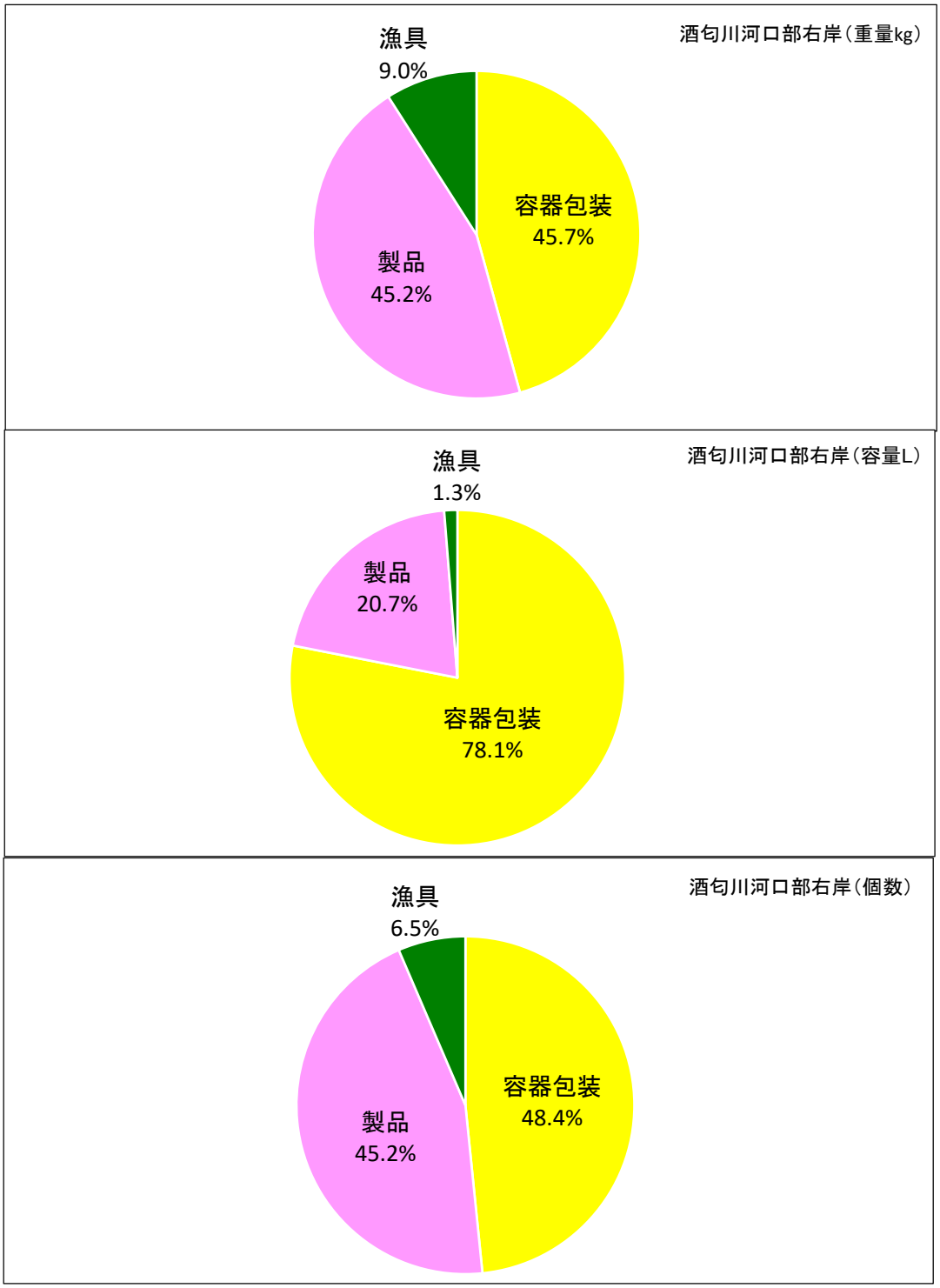


図 2.4-4（6）　プラスチックの容器包装等の組成（R01 年度調査）

2.4.2発生源の推定

特定できたペットボトル等の製造国は、表 2.4-4 に示す。

本年度調査では、ペットボトルのキャップは日本２個であった。

これまでの調査で特定できた製造国は、不明を除いて日本のみであった。

表 2.4-4　製造国の特定結果

	ペットボトル		ペットボトルのキャップ		漁業用の浮子	
	本年度調査	R1～R6の合計	本年度調査	R1～R6の合計	本年度調査	R1～R6の合計
日本	0	2	2	4	0	0
中国・台湾	0	0	0	0	0	0
韓国	0	0	0	0	0	0
不明	0	4	0	3	0	0
合計	0	6	2	7	0	0